

# HP Email Archiving software for Microsoft Exchange Version 2.2

## 管理者ガイド



## ご注意

© Copyright 2004–2010 Hewlett-Packard Development Company, L.P.

Hewlett-Packard Companyは、本書についていかなる保証(商品性および特定の目的のための適合性に関する黙示の保証を含む)も与えるものではありません。Hewlett-Packard Companyは、本書中の誤りに対して、また本書の供給、機能または使用に関連して生じた付随的損害、派生的損害または間接的損害を含めいかなる損害についても、責任を負いかねますのでご了承ください。

本書には、著作権によって保護されている情報が掲載されています。本書のいかなる部分も、Hewlett-Packard Companyの事前の書面による承諾なしに複写、複製、あるいは他の言語に翻訳することはできません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。HP製品、またはサービスの保証は、当該製品、およびサービスに付随する明示的な保証文によってのみ規定されるものとします。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。ここに含まれる技術的、編集上の誤り、または欠如について、HPはいかなる責任も負いません。

Microsoft®、Windows®、Windows XP®、およびWindows Vista®は、米国におけるMicrosoft Corporationの登録商標です。

本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対して、責任を負いかねますのでご了承ください。本書の内容は、そのままの状態を提供されるもので、いかなる保証も含みません。本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett-Packard Company製品に対する保証については、当該製品の保証規定書に記載されています。ここでの記載で追加保証を意図するものは一切ありません。

---

# 目次

本書について .....	9
対象読者 .....	9
参考資料 .....	9
表記上の規則および記号 .....	10
サポート .....	10
1 HP EAs Exchangeソフトウェアの概要 .....	13
概要 .....	13
Compliance Archiving .....	13
ジャーナルメールボックスを使用するCompliance Archiving .....	14
SMTPプレミアムジャーナリング .....	14
Selective Archiving .....	14
PST Import Manager .....	15
エンドユーザーアプリケーション .....	15
2 システム要件と前提条件 .....	17
HP EAs Exchangeのシステム要件 .....	17
前提条件 .....	17
アーカイブサービスアカウントの作成 .....	17
パブリックフォルダのアーカイブのためのExchangeサーバーの構成 .....	19
3 HP EAs Exchangeソフトウェアの使用 .....	21
EAsソフトウェアの起動 .....	21
HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作 .....	22
4 認証情報の設定 .....	23
IAP認証情報の設定 .....	23
Exchangeサーバー認証情報の設定 .....	24
5 Archive Engineのデフォルト設定 .....	25
本質的な概念 .....	25
tombstoneとStealth Archiving .....	25
TNEFメッセージ形式 .....	25
[Default Routing Address] .....	26
アクセス制御リスト (ACL) .....	26
デフォルト設定の表示 .....	26
[General Defaults] .....	27
[Compliance Archiving Defaults] .....	27
[Selective Archiving Defaults] .....	27
[Delete Synchronization Defaults] .....	28
[Tombstone Maintenance Defaults] .....	28
[Maintenance Defaults] .....	28

## 6 ジャーナルメールボックスを使用したCompliance Archiving ..... 29

Compliance Archivingの概要 .....	29
Exchangeサーバーのジャーナリング設定 .....	29
Exchange 2010の場合の設定 .....	29
ジャーナルメールボックスの作成 .....	30
メールボックスストアでのCompliance Archivingの有効化 .....	30
Exchange 2007の場合 .....	30
Exchange 2007以前のExchangeサーバーの場合 .....	31
Compliance Archivingイベントの設定 .....	31
Compliance Archivingイベントの作成 .....	32
Compliance Archivingイベントの編集 .....	32
[General]タブ .....	33
[Configuration]タブ .....	33
[Schedule]タブ .....	33
[IAP Domain]タブ .....	34
[Advanced]タブ .....	34
Compliance Archivingイベントのコピー .....	34
Compliance Archivingイベントの削除 .....	34
Compliance Archivingイベントの実行 .....	35

## 7 SMTPプレミアムジャーナリングを使用したCompliance Archiving ..... 37

SMTPプレミアムジャーナリングの概要 .....	37
メッセージフロー .....	37
複数のArchive Gateway .....	37
アーカイブの失敗 .....	37
ExchangeおよびArchive Gatewayの設定 .....	38
Archive Gatewayの設定 .....	39
ExchangeドメインへのArchive Gatewayの参加 .....	39
SMTPプレミアムジャーナリングを使用するためのExchangeサーバーの設定 .....	39
Archive GatewayのDNSレコードの作成 .....	39
ハブトランスポートの設定 .....	40
メール連絡先レコードの作成 .....	41
ENDRメールボックスの作成 .....	42
新しいハブトランスポートジャーナルルールの作成 .....	42
SMTPジャーナルイベントの作成 .....	42
SMTPジャーナリングイベントの使用 .....	44
SMTPジャーナリングの有効化と無効化 .....	45
SMTPジャーナリングイベントの有効化と無効化 .....	45
ENDR処理の指定 .....	45
ローカルSMTP設定の使用 .....	45
SMTPタスクの確認 .....	46

## 8 Selective Archivingの設定 ..... 47

Selective Archivingの概要 .....	47
Policy Engineの設定 .....	48
CASサーバーおよびアドミニストレーションメールボックスの設定 .....	48
メールボックスの追加 .....	50
パブリックフォルダの追加 .....	51
システムメールボックスの除外 .....	52
Auto-Searchのセットアップ .....	52
Selective Archivingイベントの作成 .....	54
Policy Engineルールの設定 .....	56
[Information Stores]タブ .....	57

[Folders]タブ .....	59
[Selection]タブ .....	60
[Messages]タブ .....	64
[Conditions]タブ .....	65
既存のリストへの条件の追加 .....	66
条件の適用方法の決定 .....	67
[Actions]タブ .....	67
[Schedule]タブ .....	68
Selective Archivingイベントの使用 .....	69
Selective Archivingイベントの編集 .....	69
[General]タブ .....	69
[Configuration]タブ .....	70
[IAP Domain]タブ .....	70
[Advanced]タブ .....	71
Selective Archivingイベントのコピー .....	71
Selective Archivingイベントの削除 .....	71
Selective Archivingイベントの実行 .....	71
Policy Engineルールの手動での実行 .....	72
<b>9 Tombstone Maintenanceの使用 .....</b>	<b>73</b>
Tombstone Maintenanceイベントの設定 .....	73
フォルダの取得を使用したTombstone Maintenanceの設定 .....	74
<b>10 エンドユーザー削除の設定 .....</b>	<b>77</b>
削除済みアイテムの場所 .....	77
削除済みアイテムタグ .....	77
Exchangeサーバーでの削除保管の有効化 .....	78
Exchange 2007以降の場合: .....	78
Exchange 2007以前のExchangeサーバーの場合 .....	78
IAPからの削除のスケジュール設定 .....	79
イベントの作成 .....	79
Policy Engineルールの作成 .....	80
<b>11 フォルダの取得の使用 .....</b>	<b>81</b>
フォルダ情報のインデックス作成 .....	81
フォルダの取得の有効化 .....	82
IAP上でのフォルダの取得の有効化 .....	82
グローバルアーカイビング設定ファイルを使用したフォルダの取得の有効化 .....	82
特定のイベントに対するフォルダの取得の有効化 .....	82
PST Import Managerを使用したフォルダの取得の有効化 .....	83
アーカイブイベントでフォルダの取得を使用する方法 .....	83
フォルダの取得とSelective Archivingイベント .....	83
フォルダの取得とTombstone Folder Synchronizationイベント .....	83
フォルダの取得とSynchronize Deleted Itemsイベント .....	83
フォルダの取得とPST Import Tools .....	84
フォルダの取得と重複メッセージの結合 .....	84
<b>12 パフォーマンスの監視 .....</b>	<b>85</b>
アラートの監視 .....	85
システムリソースの監視 .....	86
Archive Engineのステータスの監視 .....	86
SMTPプレミアムジャーナリングのステータスの監視 .....	88
SMTPジャーナリングの統計情報 .....	88

### 13 PST Import Managerを使用したアーカイブ ..... 91

PST Import Managerのインストール	91
インストールの要件	91
インストール手順	92
PST Import Managerの起動	92
アーカイブ認証情報の設定	92
インポート記述の作成とキューイング	94
インポート記述ファイルの作成または編集	95
インポート記述ファイルのキューイング	97
インポートと監視	98
PSTデータのインポート	98
進行状況の監視	99
ログファイルの操作	99

### 14 エンドユーザーアプリケーションの使用 ..... 101

アプリケーションの概要	101
IAP Webインターフェイスの使用	102
シングルサインオンの利用	102
Outlookプラグインのインストールと設定	102
ユーザーによるOutlookプラグインのインストール	102
[アーカイブオプション]タブ	103
ホスト情報の設定	104
[バージョン情報]ダイアログボックスの表示	105
アーカイブキャッシュの設定	105
HP EAsEアーカイブキャッシュのステータスアイコン	108
レジストリ設定	108
デフォルトのレジストリ設定	108
その他のレジストリ設定の手動による作成	109
Outlookプラグインユーザーインターフェイスの言語の変更	109
プラグインとCitrix Presentation Managerの併用	110
IAPからのメッセージのエクスポート	111
エクスポートプロセスの概要	111
メッセージのエクスポート	112
メッセージのエクスポートに関する問題	115

### 15 HP OWA Extensionの使用 ..... 117

システム要件	117
複数のメールストア	117
複数のIAPシステム	118
下書きフォルダ内の一時ストレージ	118
ルールを使用した一時下書きのコピーの削除	118
OWAでのtombstone化されたメール項目の表示	119
Exchange 2007以降のインストール環境でのWeb.configファイルの表示	119
Exchange 2003インストール環境でのasp.configファイルの使用	120
IAPアプライアンス	120
URLテンプレート	120
ASPページ	120
Exchange 2003インストール環境でのASPタイムアウトの変更	121
ブラウザの機能	121
マルチユーザーのサポート	121
巨大な添付ファイル	122

<b>16</b>	<b>トラブルシューティング</b>	<b>123</b>
	OWA 2007でtombstone化されたメッセージを含むフォルダを開くことができない	123
	OWA 2007以降でtombstone化されたメッセージを取得できない	123
	Microsoft Exchange Server 2007以降の動作がメッセージの重複の検出に影響を与える	123
	概要	123
	HP RIM 1.x	124
	HP EAs Exchange 2.x	124
	ユーザーのメールボックス内のフォルダがSelective Archivingで処理されない場合がある	125
	電子メールの添付ファイルの変更を取得できない	125
	配布リスト宛てに送信したメッセージが見つからない	125
	DiskSpaceBufferエラー	126
	HPバッチエクスポートエラー	126
	ファイルタイプの関連付けの作成	127
	ファイルタイプの関連付けの変更	128
<b>A</b>	<b>インデックスが作成されるドキュメントタイプとコンテンツタイプ</b>	<b>129</b>
	インデックスが作成されるドキュメントタイプ	129
	Exchange項目	129
	インデックスが作成されるファイルタイプ	129
	メッセージのMIMEタイプ	130
	Microsoft Office 2007に関連するその他のインデックス作成の詳細/制限事項	132
	Office 2007のサポートされる機能とプロパティ	132
	Microsoft Office 2007のインデックス作成に関する制限事項	135
<b>B</b>	<b>サポートされる文字セット</b>	<b>137</b>
<b>C</b>	<b>PST Import Manager: Archive Requestファイルの仕様</b>	<b>139</b>
	設定の説明	139
	Archive Requestファイルの例	141
<b>D</b>	<b>Outlookプラグインのレジストリ設定</b>	<b>143</b>
	キャッシュ関連のレジストリ設定	143
	IAP取得関連のレジストリエントリ	145
	検索およびエクスポート関連のレジストリ設定	145
	管理レジストリの設定	147
	<b>索引</b>	<b>149</b>

---

# 表一覽

1 表記上の規則 .....	10
2 アーカイブキャッシュの設定 .....	107
3 IAPでインデックスが作成されるファイルタイプとMIMEタイプ .....	130
4 Microsoft Officeのサポートされる機能 .....	132
5 Microsoft Officeのサポートされるプロパティ .....	133
6 サポートされる文字セット .....	137
7 Archive Requestファイルヘッダーのタグ .....	139
8 Archive RequestのFileSpecタグ .....	140
9 [HKLM¥Software¥Hewlett-Packard¥Outlook Plugin¥Cache]の設定 .....	143
10 [HKLM¥Software¥Hewlett-Packard¥Outlook Plugin¥PluginURLs]設定 .....	145
11 [HKLM¥Software¥Hewlett-Packard¥Outlook Plugin¥Search]設定 .....	146
12 [HKLM¥Software¥Hewlett-Packard¥Outlook Plugin]設定 .....	147



---

# 本書について

HP Email Archiving software for Microsoft Exchange (HP EAs ExchangeまたはEAsE) は、ExchangeメールアカウントからのメッセージをHP Integrated Archive Platform (IAP) にアーカイブするメール管理ソフトウェアです。本書では、HP EAs Exchangeの設定と管理の方法について説明します。

---

## 注記:

Integrated Archive Platformは、以前はRISS (Reference Information Storage System) と呼ばれていました。HP Email Archiving software for Microsoft Exchangeは、以前はHP Reference Information Manager for Exchangeと呼ばれていました。

---

## 対象読者

本書では、以下の読者を対象としています。

- ・ HP IAPの管理者
- ・ HP EAsEの管理者

## 参考資料

IAPとEAsEについては、本書の他に以下の資料があります。

管理者およびインストール担当者向け:


- ・ 『HP Email Archiving software for Microsoft Exchangeインストールガイド』 (IAPの設置とEAsEのインストールを行うHPの担当者用)
- ・ 『HP Email Archiving software for Microsoft Exchangeリリースノート』
- ・ 『HP Integrated Archive Platformインストールガイド』 (IAPの設置とEAsEのインストールを行うHPの担当者用)
- ・ 『HP Integrated Archive Platform管理者ガイド』
- ・ PCC (Platform Control Center) オンラインヘルプ。オンラインヘルプの内容は、『HP Integrated Archive Platform管理者ガイド』にも記載されています。

ユーザー向け:

- ・ 『HP Email Archiving software for Microsoft Exchangeユーザーガイド』
- ・ 『HP Integrated Archive Platformユーザーガイド』

# 表記上の規則および記号

表1 表記上の規則

規則	要素
ミディアム ブルーの語句: 	クロスリファレンス リンクおよび電子メール アドレス
ミディアム ブルーの下線付き語句 ( <a href="http://www.hp.com/jp">http://www.hp.com/jp</a> )	Webサイト アドレス
太字	<ul style="list-style-type: none"><li>アプリケーション名および強調すべき語句</li></ul>
括弧([ ])で表示	<ul style="list-style-type: none"><li>キー名</li><li>ボックスなどのGUIで入力される文字列</li><li>クリックおよび選択されるGUI(メニューおよびリスト項目、ボタン、チェックボックス)</li></ul>
Monospaceフォント	<ul style="list-style-type: none"><li>ファイル名およびディレクトリ名</li><li>システム出力</li><li>コード</li><li>コマンド ラインで入力した文字列</li></ul>
イタリック体のMonospaceフォント	<ul style="list-style-type: none"><li>コード変数</li><li>コマンド ライン変数</li></ul>
太字体のMonospaceフォント	ファイル名、ディレクトリ名、システム出力、コード、コマンド ラインで入力される文字列の強調

## ① 重要:

詳細情報または特定の手順を示します。

## 注記:

補足情報を示します。

## ヒント:

役に立つ情報やショートカットを示します。

## サポート

HPソフトウェアサポートWebサイトは <http://www.hp.com/go/hpsupport> (日本語) にあります。

HPソフトウェアサポートオンラインでは、対話型のテクニカルサポートツールに効率的にアクセスできます。お客様は、このサポートサイトを通じて次の機能をご利用になれます。

- ・ 関心のあるナレッジドキュメントの検索
- ・ サポートケースおよび機能強化要求の送信と追跡
- ・ ソフトウェアパッチのダウンロード
- ・ サポート契約の管理
- ・ HPサポート窓口の確認
- ・ 使用可能なサービスに関する情報の確認
- ・ 他のソフトウェアをご使用のお客様とのディスカッション
- ・ ソフトウェアトレーニングの検索と登録

サポートエリアの大部分は、HPパスポートユーザーとして登録およびサインインしたお客様のみがご利用になれます。登録サポート契約が必要な場合もあります。

アクセスレベルの詳細については、[http://support.openview.hp.com/new\\_access\\_levels.jsp](http://support.openview.hp.com/new_access_levels.jsp) (日本語) をご覧ください。



# 1 HP EAs Exchangeソフトウェアの概要

この章では、HP EAs Exchangeソフトウェアの概要を述べ、このソフトウェアの主要なモジュールを示します。ここでは、次のトピックについて説明します。

- ・ [概要](#) (13ページ)
- ・ [ジャーナルメールボックスを使用するCompliance Archiving](#) (14ページ)
- ・ [Selective Archiving](#) (14ページ)
- ・ [SMTPプレミアムジャーナリング](#) (14ページ)
- ・ [PST Import Manager](#) (15ページ)
- ・ [エンドユーザーアプリケーション](#) (15ページ)

## 概要

HP EAs Exchangeは、Exchangeサーバーから外部ストレージにメールをアーカイブするハードウェアとソフトウェアを組み合わせたものです。EAsEは法的な要件への適合に役立つと同時に、Exchangeユーザーのメールボックスを管理可能なサイズに維持できます。そのためにExchangeユーザーが何らかの操作を行う必要はほとんどありません。

EAsEのハードウェア部分であるArchive Gatewayは、ExchangeサーバーとHP Integrated Archiving Platform (IAP) の間に配置されるWindowsサーバーです。インストール環境の規模および実行するExchangeサーバーの数に応じて、複数のArchive Gatewayを使用することがあります。

Archive Gateway上では、特定のアーカイブタスクおよび関連するメンテナンスタスクを実行するソフトウェアモジュールの集合体であるHP EAsE (Enterprise Archiving software for Exchange) が実行されます。

Archive Gateway自体で実行されるソフトウェアのほかに、IAPにアーカイブされたデータをエンドユーザーが操作するときに使用できるアプリケーションをエンドユーザーのマシンに導入できます。

この章では、EAsEソフトウェアの各部分がメールをアーカイブする仕組みについて説明します。

Archive Engineは、アーカイブソフトウェアの動作において重要な役割を果たします。ExchangeサーバーからIAPにアイテムをアーカイブするタスクの作成と管理は、Archive Engineで行います。Archive Engineは、Compliance ArchivingとSelective Archivingという2つの異なるアーカイブ方式を提供します。

## Compliance Archiving

HP EAsEソフトウェアでCompliance Archivingを実行するには、ジャーナルメールボックスを使用する方法とSMTPジャーナリングを使用する方法の2つがあります。どちらの場合も同じタスクを実行しますが、その方法が異なります。

ジャーナルメールボックスを使用するCompliance Archivingでは、すべてのユーザーからのメールを特別に指定されたジャーナルメールボックスにコピーします。EAsEソフトウェアは、ジャーナルメールボックスを定期的にスキャンし、そのコンテンツをIAPにアーカイブします。この方法では、Archive Engineがジャーナルメールボックスをポーリングし、メールボックスからメールをプルしてアーカイブします。そのため、この方法は「プル処理」と呼ばれます。以前のバージョンのEAsEソフトウェアでは、プル処理によるCompliance Archivingのみがサポートされていたため、旧バージョンのExchange上でCompliance Archivingを実装するにはプル処理が唯一の方法でした。

SMTPジャーナリングでは、Exchangeサーバーを通過したすべてのメッセージが受信者に送信されると同時にArchive Engineにも送信されます。この方法では、ExchangeサーバーがメールをArchive Engineにプッシュします。そのため、この方法は「プッシュ処理」と呼ばれます。SMTPジャーナリングの方がExchangeサーバー上で使用するリソースが少なく済みますが、SMTPジャーナリングはExchange 2007以降でしか使用できません。

## ジャーナルメールボックスを使用するCompliance Archiving

Compliance Archivingでは、Exchangeサーバーが送受信したすべてのメッセージを取得して、IAPにアーカイブします。この機能は主に、法的な要件への適合を目的として使用します。

Compliance Archivingを使用するには、1つ以上のジャーナルメールボックスをExchangeサーバー上に作成し、それらのメールボックスをジャーナリングで使用するためのインフォメーションストアをサーバー上で構成します。ジャーナルメールボックスを格納するインフォメーションストアは、アーカイブ対象と同じインフォメーションストア、同じサーバー上の異なるインフォメーションストア、または異なるサーバー上の別のインフォメーションストアのいずれでも構いません。メッセージおよびその他のExchangeアイテムがサーバーで受信されると、Exchangeが適切なジャーナルメールボックスにそれらをコピーします。

Archive EngineでCompliance Archivingイベントを作成します。このイベントは、ジャーナルメールボックスに関連付けられたタスクであり、定期的に行われます。このタスクでは、ジャーナルメールボックス内の新しいアイテムの有無をチェックし、見つかったアイテムをIAPにアーカイブして、ジャーナルメールボックスから削除します。Archive Engineは、Exchangeサーバーからメッセージをプルして、IAPにアーカイブします。IAPにアーカイブするジャーナルメールボックスのそれぞれについて、Compliance Archivingイベントを少なくとも1つずつ作成する必要があります。

各ユーザーには、IAP上の特定のレポジトリが割り当てられます。アーカイブされた各アイテムは、ユーザーのレポジトリに保存されます。Exchangeサーバーが、特定のユーザーに配信できないメッセージを受信すると、そのメッセージはキャッチオールレポジトリに転送されます。

IAP上のアイテムは、企業で指定されている保存ポリシーに従って保持されます。

## SMTPプレミアムジャーナリング

Compliance Archivingのもう1つの形態であるSMTPプレミアムジャーナリングでは、Exchangeサーバーが送受信したすべてのメッセージをIAPにアーカイブしますが、Exchange 2007以降でのみ使用可能な異なるメカニズムを使用してこれを行います。

SMTPプレミアムジャーナリングを使用するには、サーバーを通過したすべてのメッセージをSMTP送信コネクタを通じて送出するようにExchangeジャーナルルールを設定します。同様に、Archive Gatewayについても、Exchangeサーバーからの着信メッセージをSMTP仮想サーバー上で受け付けるように設定します。

メッセージは、ジャーナルメールボックスを介さずに、直接ExchangeサーバーからArchive Gateway、IAPへと移動します。SMTPプレミアムジャーナリングでは、ジャーナルメールボックスアプローチよりも高いスループットを実現できますが、Exchange環境側で必要になる構成がやや複雑です。

## Selective Archiving

Compliance Archivingアーカイブでは、Exchangeジャーナルメールボックスを通過するすべてのメッセージとアイテムをアーカイブします。これに対し、Selective Archivingでは、アーカイブ対象をより細かく管理できます。特定の種類のメッセージ（電子メール、予定表、仕事、ドキュメント、ポストアイテム）および特定のメールボックスのセットを選択してアーカイブできます。Selective Archivingは、メールボックスのメンテナンスを全社規模で控えめに行う場合に最適ですが、調査や検出に使用できることもあります。

Compliance Archivingの場合と同様に、Archive Engineを使用してSelective Archivingタスクを作成し、どの種類のExchangeアイテムをアーカイブするかを指定します。次に、Policy Engineを使用して、タスクの適

用対象となるメールボックスを指定するルールを作成します。さらに、Policy Engineでは、コンテンツ、経過時間、添付ファイル数などの特定の属性により、メッセージに適用するルールを詳細に管理できます。

Selective Archivingタスクでは、選択されたメールボックスからIAPにアイテムをアーカイブします。Exchangeサーバー上のオリジナルのメッセージに対する処理も選択できます。

- Exchangeサーバー上にメッセージをそのまま残すことができます。これは、アイテムがアーカイブされたことが一切示されないことから、Stealth Archivingと呼ばれます。
- アイテムから本文を削除できます。メッセージをIAPに移動することで、エンドユーザーのメールボックスのサイズが縮小されます。本文が切り取られたアイテムは、tombstoneと呼ばれるマーカーとともにユーザーのメールボックス内に残されます。tombstoneは、アーカイブされたメッセージがIAP上のどこにあるかを示します。
- 本文をExchangeサーバー上に残したまま、アイテムから添付ファイルを削除できます。EAsEは、オリジナルの添付ファイルのリストを示すスタブで添付ファイルを置き換えます。この場合も、メッセージはtombstoneでマークされます。

ユーザーはOutlookプラグインを使用することで、tombstone化されたアイテムからオリジナルのメッセージと添付ファイルにシームレスにアクセスできます。またユーザーは、IAPのWebインターフェイスを通じて、アーカイブされたアイテムにアクセスすることもできます。

Archive Engineでは、Compliance ArchivingとSelective Archivingのほかに、Deletion SynchronizationとTombstone Maintenanceという2つのメンテナンスタスクを作成できます。Deletion Synchronizationでは、Exchangeサーバーをスキャンして、削除されたアーカイブ済みアイテム (tombstone化されたアイテム) を検出し、IAPレポジトリ内の対応するアイテムを削除します。なお、削除済みメッセージがExchangeサーバーから完全に削除された後にDeletion Synchronizationタスクが実行された場合、そのメッセージはIAPから削除されません。規制ポリシーでアイテムの保存が要求されている場合は、アーカイブされたアイテムがIAPレポジトリ内に残されることがあります。Tombstone Maintenanceは、Exchange上のアーカイブ済みアイテムをスキャンして、それらがIAP上にアーカイブされたアイテムと適切に同期化されているかどうかを確認するハウスキーパータスクです。

## PST Import Manager

PST Import Managerは、PSTファイルの内容をIAPにインポートするためのアプリケーションです。このアプリケーションは、PSTファイル内に保存したレガシーデータをIAPにアーカイブすることを主な目的としています。PST ImporterはArchive Gateway上では実行されません。PST Importerは、この目的のためにセットアップした管理者のシステム上で実行されます。PST Importerでは、どのPSTファイルをインポートするか、どのIAPレポジトリにメッセージを保存するか、メッセージに対してStealth ArchivingとTombstone Archivingのどちらを使用するかを指定します。

## エンドユーザーアプリケーション

エンドユーザーアプリケーションからOutlook Exchangeユーザーがアーカイブされたデータにアクセスする方法には、Outlookプラグインを通じたアクセス、OWA (Outlook Web Access) を通じたアクセス、およびIAP Webインターフェイスを通じたアクセスの3通りがあります。

Outlookプラグインを使用すれば、エンドユーザーは各自のアーカイブ済みメッセージにほぼシームレスにアクセスできます。アーカイブ済みのメッセージまたはアーカイブ済みの添付ファイルをユーザーが要求すると、Outlookプラグインがその要求を解決して、メッセージおよび添付ファイルを通常のOutlookメッセージとして表示します。モバイルユーザーに対しては、ネットワークに接続していないときでもアーカイブ済みのコンテンツに対する作業が行えるように、アーカイブのローカルキャッシュがOutlookプラグインによって提供されます。さらに、Outlookプラグインには統合検索機能が用意されているため、エンドユーザーはIAPに保存されている特定のメッセージを検索できます。

OWA Extensionは、Outlook Web Accessを使用しているユーザーに、アーカイブ済みメッセージをフェッチして表示する機能を提供します。

IAP Webインターフェイスでは、ユーザーがIAP上の各自のレポジトリに保存されているアイテムに直接アクセスできます。Outlookプラグインがインストールされている場合は、検索結果をPSTファイルにエクスポートできます。



## 2 システム要件と前提条件

この章には、HP EAs Exchangeソフトウェアを実行する上での要件および前提条件が記載されています。ここでは、次のトピックについて説明します。

- ・ [HP EAs Exchangeのシステム要件](#) (17ページ)
- ・ [前提条件](#) (17ページ)
- ・ [アーカイブサービスアカウントの作成](#) (17ページ)

### HP EAs Exchangeのシステム要件

次に示すHP EAs Exchangeのシステム要件については、サポートマトリックスを参照してください。

- ・ Compliance ArchivingおよびSelective Archiving
- ・ PST Import Manager
- ・ アーカイブキャッシュおよびPSTエクスポートを含むOutlookプラグイン
- ・ OWA Extension

HP EAs Exchangeは、HP Integrated Archive Platform (IAP) へのアプリケーションコネクタとして特別に設計されています。IAPは、HP EAs Exchange 2.2に対応している唯一のアーカイビングプラットフォームです。

### 前提条件

HP EAs Exchangeソフトウェアをインストールする前に、次の条件が満たされていることを確認してください。

- ・ 組織のExchangeサーバーおよびクライアントシステムが、HP EAs Exchangeソフトウェアをサポートしている必要があります。システム要件については、HP EAs Exchangeのサポートマトリックスを参照してください。
- ・ SMTPプレミアムジャーナリングを使用するには、Microsoft Exchange 2007 (以降) のEnterprise Serverクライアントアクセスライセンス (CAL) が必要です。
- ・ アーカイブサービスのアカウントを作成して設定します。HPのサービス担当者とは協力してこのアカウントを作成することもできます ([「アーカイブサービスアカウントの作成」](#) (17ページ) を参照)。

### アーカイブサービスアカウントの作成

HPのサービス担当者がHP EAs Exchangeソフトウェアをインストールする前に、Active Directoryでアーカイブサービス用のドメインユーザーアカウントとメールボックスを作成します。

次の条件が満たされていることを確認します。

1. ユーザーに名前を付けます。本書では、HPAEServiceAccountという名前をサービスアカウントに使用します。
2. ユーザーのログオン名とメールボックスのエイリアスで同じ名前 (HPAEServiceAccount) を使用します。

3. ユーザーがAdministrators、Domain Admins、Enterprise Adminsの各グループのメンバーであることを確認します。
4. アカウントのパスワードを入力します。
5. Exchange 2003の場合:
  - ・ 次のアクセス許可を指定してHPAEServiceAccountをメールボックスの権利に追加します。
    - ・ メールボックス格納域の削除
    - ・ アクセス許可の読み取り
    - ・ アクセス許可の変更
    - ・ 所有権の取得
    - ・ フルメールボックスアクセス
  - ・ Administrator、Domain Admins、Enterprise Admins、およびExchange Domain Serversをメールボックスの権利に追加します。
6. Exchange 2007以降では、Exchange管理シェルで次のコマンドを使用してHPAEServiceAccountのアクセス権とアクセス許可を追加します。

```
get-MailboxDatabase | add-ADPermission -User HPAEServiceAccount  
-ExtendedRights Receive-As
```

---

 **注記:**

このコマンドでは、すべてのメールボックスデータベースに対するアクセス許可が変更されます。特定のメールボックスデータベースを指定するには、`-Identity`スイッチを`get-MailboxDatabase`に追加します。

---

Exchange管理シェルで次のコマンドを発行すると、アーカイブサービスアカウントからアクセス許可を削除できます。アクセス許可を削除すると、アーカイブサービスアカウントはExchange 2007以降のサーバーからCompliance ArchivingやSelective Archivingを実行できなくなります。アクセス許可を削除できるのは、すでに付与されている場合のみです。

```
get-MailboxDatabase | remove-ADPermission -User HPAEServiceAccount  
-ExtendedRights Receive-As
```

7. Exchange 2007以降では、Exchange管理シェルで次のコマンドを実行します。

```
get-PublicFolder -Identity \ -Recurse | add-PublicFolderClientPermission  
-User HPAEServiceAccount -AccessRights ReadItems,EditAllItems
```

このコマンドにより、アーカイブサービスアカウントにExchange 2007以降のサーバー上のすべてのパブリックフォルダを選択的にアーカイブするための適切なアクセス許可が付与されます。

指定したアクセス許可のうちいくつかをアーカイブサービスアカウントがすでに備えている場合は、警告メッセージが表示されます。

---

 **注記:**

ルートフォルダ (¥) に対してエラーが生成されることもあります。これは、Exchangeではこのエンティティのアクセス許可の変更ができないためです。このエラーは無視して構いません。

---

アーカイブサービスアカウントからこれらのアクセス許可を削除する場合は、次のコマンドを発行します。

```
get-PublicFolder -Identity \ -Recurse |  
remove-PublicFolderClientPermission -User HPAEServiceAccount  
-AccessRights ReadItems,EditAllItems
```

このコマンドにより、アーカイブサービスアカウントは将来パブリックフォルダを選択的にアーカイブできなくなります。なお、アクセス許可を削除できるのは、すでに付与されている場合のみです。

## パブリックフォルダのアーカイブのためのExchangeサーバーの構成

パブリックフォルダの内容をアーカイブする予定の場合は、アーカイブサービスアカウントに追加のアクセス許可を付与する必要があります。

Exchange 2003を使用している場合は、以下の手順に従ってください。

1. Exchangeシステムマネージャを開きます。
2. [パブリックフォルダストア]に移動して、アーカイブサービスアカウントがアクセスするパブリックフォルダを見つけます。
3. 変更するパブリックフォルダを選択します。
4. 右クリックし、[プロパティ]を選択します。[アクセス許可]タブをクリックし、[クライアントのアクセス許可]をクリックします。
5. [クライアントのアクセス許可]ウィンドウで、[追加]をクリックし、サービスアカウントを追加して[OK]をクリックします。
6. [クライアントのアクセス許可]ウィンドウで次の操作を行います。
  - a. アーカイブサービスアカウントを選択します。
  - b. [役割]ドロップダウンリストで、[編集者]を選択します。
  - c. [アイテムの作成]、[アイテムの参照]の順に選択し、[フォルダの表示]チェックボックスをオンにします。
  - d. [OK]をクリックします。
7. アーカイブ対象のすべてのパブリックフォルダで、手順3〜6を繰り返します。

Exchange 2007以降を使用している場合は、以下の手順に従ってください。

1. Exchange管理シェルを開きます。
2. 次のコマンドを実行します。

```
get-PublicFolder -Identity \ -Recurse | add-PublicFolderClientPermission  
-User HPAEServiceAccount -AccessRights ReadItems,EditAllItems
```

このコマンドにより、アーカイブサービスアカウントにExchange 2007以降のサーバー上のすべてのパブリックフォルダを選択的にアーカイブするための適切なアクセス許可が付与されます。

指定したアクセス許可のうちのいくつかをアーカイブサービスアカウントがすでに備えている場合は、警告メッセージが表示されます。

---

 **注記:**

ルートフォルダ (¥) に対してエラーが生成されることもあります。これは、Exchangeではこのエンティティのアクセス許可の変更ができないためです。このエラーは無視して構いません。

---

3. アーカイブサービスアカウントからこれらのアクセス許可を削除する場合は、次のコマンドを発行します。

```
get-PublicFolder -Identity \ -Recurse |  
remove-PublicFolderClientPermission -User HPAEServiceAccount  
-AccessRights ReadItems,EditAllItems
```

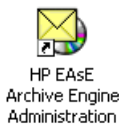
このコマンドにより、アーカイブサービスアカウントは将来パブリックフォルダを選択的にアーカイブできなくなります。なお、アクセス許可を削除できるのは、すでに付与されている場合のみです。

# 3 HP EAs Exchangeソフトウェアの使用

この章では、HP EAs Exchangeソフトウェアの起動方法について説明します。

## EAsEソフトウェアの起動

「アーカイブサービスアカウントの作成」(17ページ)で設定したアーカイブサービスアカウントでArchive Gatewayにログオンします。本書では、このアカウントにHPAEServiceAccountという名前を付けています。デスクトップ上の[HP EAsE Archive Engine Administration]アイコンをダブルクリックしてソフトウェアを起動します。



① **重要:**

HPAEServiceAccount (または実際に使用しているアカウント名) でArchive Gatewayにログインする必要があります。他のアカウントでログインした場合は、EAsEソフトウェアを適切に設定できません。

EAsE Archive Engineコンソールが表示されます。EAsEソフトウェアは、このコンソールから管理します。



中央ペインには、EAsEソフトウェアのうち、現在アクセスしている部分が表示されます。このペイン上のリンクをクリックすると、特定のモジュールにドリルダウンできます。

左ペインには、特定のモジュールに迅速に移動できるツリーコントロールがあります。

右ペインには、中央ペインの内容に応じて実行可能なアクションが表示されます。

---

 **注記:**

[Actions]ペインに表示されるコマンドには、[View]や[Help]など、EAsEソフトウェアに適用されないものが含まれています。

---

## HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作

本書では、常に「[Configuration] > [Archive Engine] > [Default Settings]の順に選択します」といった形式で操作手順を示します。これは、以下の2通りの手順のどちらを使用してもよいことを意味します。

1. メインペイン内の[Configuration]リンクをクリックして[Configuration]ペインを開きます。
2. [Configuration]ペインの[Archive Engine]リンクをクリックして[Archive Engine]ペインを開きます。
3. [Archive Engine]ペインの[Default Settings]リンクをクリックして[Default Settings]ペインを開きます。

左ペインには、特定のペインに迅速に移動できるツリーコントロールがあります。

上記の手順の代わりに、次の手順も使用できます。

1. 左ペインにあるツリーコントロール内で[Configuration]ノードを展開します。
2. [Archive Engine]ノードを展開します。
3. [Default Settings]ノードをクリックし、中央のペインで[Default Settings]ページを開きます。

## 4 認証情報の設定

システムのインストール時にHPの担当者がArchive Gatewayでアーカイブ認証情報を設定します。これにより、IAPおよびアーカイブ対象のExchangeメールボックスにサービスアカウントでアクセスできるようになります。

ほとんどの場合、この章で述べる手順は以下のときにのみ実行する必要があります。

- Archive Gateway上でHP EAs Exchangeソフトウェアをアップデートするとき。
- アーカイブサービスアカウントパスワードを定期的に変更するとき。  
パスワードの変更時は、Active DirectoryおよびArchive Gatewayで変更を行った後、この章の説明に従ってHP EAs Exchangeソフトウェアでパスワードを変更します。

### ① 重要:

IAP認証情報とExchangeサーバー認証情報は、2つの個別の認証情報です。EAsEソフトウェアを機能させるには、この2つの認証情報の両方を適切に設定する必要があります。

この章は、次の各項から構成されています。

- [IAP認証情報の設定](#) (23ページ)
- [Exchangeサーバー認証情報の設定](#) (24ページ)

## IAP認証情報の設定

EAsEソフトウェアは、IAP認証情報によりIAPにアクセスできます。

1. [Credentials] > [IAP Credentials]の順に選択します。操作の詳細については、「[HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作](#)」(22ページ)を参照してください。  
[IAP Credentials]ペインが表示されます。
2. [Admin User]ボックスに、電子メールのアーカイブに使用するIAPドメインに関連付けられているIAP管理者アカウントの名前を入力します。

### 📖 注記:

IAP管理者アカウントは、「[アーカイブサービスアカウントの作成](#)」(17ページ)で作成したArchive Gatewayサービスアカウントとは異なります。

3. [Password]ボックスにIAP管理者アカウントのパスワードを入力します。
4. [IP Address]ボックスに、EAsEソフトウェアのデフォルトIAPドメインとして使用するIAPドメインのHTTPポータルをIPを入力します。

5. [Verify]をクリックしてIAP認証情報を確認します。

アカウント情報の確認が正常に完了すると、認証情報を適用するかどうかを確認するメッセージが表示されます。認証情報をすぐに適用する場合は[Yes]をクリックします。後で適用する場合は[No]をクリックします。

## Exchangeサーバー認証情報の設定

EAsEソフトウェアは、Exchangeサーバー認証情報によりIAPにアクセスできます。

### ① 重要:

[アーカイブサービスアカウントの作成](#) (17ページ) に述べるように、必ずHPAEServiceアカウントに適切なアクセス権を付与しておきます。

1. [Credentials] > [Exchange Credentials]の順に選択します。操作の詳細については、「[HP EAs Exchange ソフトウェア内での移動操作](#)」(22ページ)を参照してください。

[EXCHANGE Credentials]ペインが表示されます。

2. [Domain¥Username]ボックスに、<Windows ドメイン>¥HPAEServiceAccountを入力します。
3. [Password]ボックスにアーカイブサービスアカウントのパスワードを入力します。
4. [Verify]をクリックしてExchange認証情報を確認します。

確認中、EAsEソフトウェアはアーカイブサービスアカウントに関連付けられているExchangeサーバーおよびメールボックスを検索します。Exchangeサーバーおよびメールボックスが見つからない場合や、異なるExchangeサーバーおよびメールボックスを使用する必要がある場合は、該当するExchangeサーバーおよびメールボックスのアドレスを入力します。

アカウント情報の確認が正常に完了すると、認証情報を適用するかどうかを確認するメッセージが表示されます。認証情報をすぐに適用する場合は[Yes]をクリックします。後で適用する場合は[No]をクリックします。

認証情報を適用すると、EAsEソフトウェアが実行中のサービスをシャットダウンし、新しい認証情報でそれらのサービスを再開します。確認時に実行されていなかったプロセスが開始されることはありません。



## 5 Archive Engineのデフォルト設定

Archive EngineはHP EAsEソフトウェアの一部として組み込まれており、Compliance Archiving、Selective Archiving、および関連するメンテナンスタスクを処理します。HPの担当者が実際のインストール環境に適したデフォルト設定をセットアップします。この章では、デフォルト設定の確認方法と変更方法を説明します。

### 本質的な概念

この項では、EAsEソフトウェア全体に適用されるいくつかの概念について説明します。

#### tombstoneとStealth Archiving

Selective ArchivingでIAPにアイテムをアーカイブする場合、EAsEソフトウェアではExchangeサーバー上のオリジナルのメッセージに関していくつかの処理を実行できます。

オプション	説明
[Stealth Archiving]	メッセージがそのままExchangeサーバー上に残されます。メッセージがアーカイブされたことは、エンドユーザーに対して一切示されません。
[Trim Attachments]	メッセージから添付ファイルが削除されます。添付ファイルはIAPにアーカイブされた状態で残されます。
[Trim Body]	メッセージから本文が削除されます。本文はIAPにアーカイブされた状態で残されます。

Selective Archivingでメッセージをアーカイブした場合、EAsEソフトウェアは「tombstone」でオリジナルのメッセージにマークを付けます。この「tombstone」は、エンドユーザーのExchangeクライアントに表示され、メッセージがアーカイブされたことを示します。[Stealth Archiving]オプションを使用している場合は、EAsEソフトウェアがメッセージにアーカイブ済みのマークを付けますが、その情報をエンドユーザーが確認することはできません。

添付ファイルを削除した場合、メッセージの本文はExchangeサーバー上に残されますが、添付ファイルはオリジナルの添付ファイルの名前のリストを示すスタブに置換されます。

アーカイブ済みの添付ファイルまたは本文は、OutlookプラグインによってIAPから透過的に取得されるため、エンドユーザーは追加の手順なしにそれらにアクセスできます。Outlookプラグインおよびエンドユーザーがアーカイブ済みコンテンツの取得に使用できるその他のツールの詳細については、「[エンドユーザーアプリケーションの使用](#)」(101ページ)を参照してください。

#### TNEFメッセージ形式

TNEF (Transport Neutral Encapsulation Format) は、ストリーム内にMAPIメッセージのプロパティを取り込むためにMicrosoftが作成しました。OutlookクライアントがMAPIを使用してExchangeサーバーと通信すると、以下に示すようなプロパティがExchangeに送信され保存されます。これらのプロパティは、標準のMIME/SMTPメッセージ配信では消失します。

- ・ カスタムMAPIプロパティがメッセージとともに配信される場合、TNEFはプロパティを取り込みますが、MIMEはできません。通常はOutlookで表示できない機密データがカスタムMAPIプロパティで送信される可能性があります。そのため、TNEFで取り込まない場合は、そのデータは消失します。
- ・ Exchangeの添付ファイルは、添付ファイルのMAPIプロパティで作成日時と前回修正日時を維持します。TNEFはこれらのプロパティを取り込みますが、MIMEは取り込みません。何らかの調査の際に、これらのプロパティが重要になる場合があります。
- ・ TNEFを無効にすると、メッセージの本文の内容がHTML形式またはプレーンテキストでアーカイブされます。MIMEは、MicrosoftのRich Text仕様に準拠するRich Textの本文書式をサポートしません。Rich TextからHTMLへの変換が行われると、本文のレイアウトや書式がわずかに変化する可能性があります。TNEFを有効にすると、本文の内容が最初に送信されたときの状態で維持されます。

HP EAs Exchangeは、TNEFを使用して非標準のメッセージ（予定表、仕事、ドキュメント）を自動的にアーカイブします。標準の電子メールメッセージ（IPM.Note）は、TNEFまたはMIMEを使用してアーカイブできます。

Compliance Archivingに関しては、最も完全なレベルのメッセージ忠実性が得られるように、すべてのメッセージをTNEFでアーカイブすることをお勧めします。

## [Default Routing Address]

このカンマ区切りのアドレスリストは、アーカイブする各アイテムのアドレスリストに追加されます。どのアドレスもIAP内のレポジトリに一致していない場合、アイテムはキャッチオールレポジトリにアーカイブされます。

このリスト内のアドレスには、IAP管理者権限が付与されている必要があります。

## アクセス制御リスト (ACL)

一般に、IAPにメッセージが保存されている場合は、そのメッセージの[To]、[From]、[Cc]、[Bcc]の各フィールドに指定されているユーザーのみがメッセージにアクセスできます。ただし、特定のSelective Archivingイベントに対してExpandACL設定を有効化でき、メッセージは、オリジナルのメールボックスユーザーのアクセス制御リスト (ACL) で指定されているすべてのユーザーのレポジトリにアーカイブされます。

メッセージが所属先ではないレポジトリにアーカイブされるのを回避するため、ACLの拡張は以下の2つのタイプのSelective Archivingイベントに対してのみ有効化してください。

- ・ パブリックフォルダイベント
- ・ 共有（チーム）メールボックスのアーカイブ

すでにアーカイブされているメッセージの場合は、ACLを更新できません。

チームのアーカイブ済みメッセージへのアクセスをユーザーに許可するには、ACLの拡張を使用するか、またはIAPソフトウェアでチームレポジトリへのアクセスを許可します。チームメールボックスへのメッセージは、現時点でチームのメンバーになっている個々のユーザーのIAPレポジトリにアーカイブされます。ユーザーがメンバーになる前にアーカイブされたメッセージやユーザーがメンバーでなくなった後にアーカイブされたメッセージにアクセスするには、チームレポジトリへのアクセスが必要です。

## デフォルト設定の表示

Archive Engineのデフォルト設定を表示するには、[Configuration] > [Archive Engine] > [Default Settings]の順に選択します。操作の詳細については、「[HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作](#)」(22ページ)を参照してください。

デフォルト設定が6つのセクションに分けられ、中央のペインに表示されます。セクション名の右側の矢印をクリックすると、セクションを展開または折りたたむことができます。

## [General Defaults]

これらのデフォルト設定は、EAsEソフトウェアのモジュールの多くに適用されます。

フィールド	説明
[Default Routing Address(es)]	すべてのアイテムの追加のアーカイブ先となるアドレス (IAPレポジトリに一致するアドレス)。「 <a href="#">[Default Routing Address]</a> 」(26ページ)を参照してください。
[Launch Manager Log Verbosity]	Launch Managerログファイルの詳細レベルを選択します。

## [Compliance Archiving Defaults]

これらのデフォルト設定は、Compliance Archivingに適用されます。詳細については、[第6章](#) (29ページ)を参照してください。

フィールド	説明
[Capture Email in TNEF]	選択すると、TNEF (Transport Neutral Encapsulation Format) を使用してメッセージが保存されます。選択していない場合は、MIME形式でメッセージが保存されます。TNEFの詳細については、「 <a href="#">TNEFメッセージ形式</a> 」(25ページ)を参照してください。
[Log Verbosity]	Compliance Archivingログファイルの詳細レベルを選択します。

## [Selective Archiving Defaults]

これらのデフォルト設定は、Selective Archivingに適用されます。詳細については、「[Selective Archivingの設定](#)」(47ページ)を参照してください。

フィールド	説明
[Capture Email in TNEF]	選択すると、TNEF (Transport Neutral Encapsulation Format) を使用してメッセージが保存されます。選択していない場合は、MIME形式でメッセージが保存されます。TNEFの詳細については、「 <a href="#">TNEFメッセージ形式</a> 」(25ページ)を参照してください。
[Trim Attachments]	メッセージのアーカイブ時にユーザーのメールボックスから添付ファイルを削除するかどうかを指定します。この章の初めにある <a href="#">tombstone</a> と <a href="#">Stealth Archiving</a> を参照してください。
[Trim Message Body]	メッセージのアーカイブ時にメッセージの本文を削除するかどうかを指定します。この章の初めにある <a href="#">tombstone</a> と <a href="#">Stealth Archiving</a> を参照してください。
[Stealth Archiving]	エンドユーザーに対して透過的にメッセージをアーカイブするかどうかを指定します。この章の初めにある <a href="#">tombstone</a> と <a href="#">Stealth Archiving</a> を参照してください。

フィールド	説明
[Log Verbosity]	Selective Archivingログファイルの詳細レベルを選択します。

## [Delete Synchronization Defaults]

これらのデフォルト設定は、Delete Synchronizationに適用されます。  
[「エンドユーザー削除の設定」](#)(77ページ)を参照してください。

フィールド	説明
[Remove Folder References]	個々のユーザーのレポジトリ参照からIAP内におけるアイテムのフォルダ位置を削除するかどうかを指定します。
[Delete Non-Tombstone Items]	tombstone化されていないアイテムが見つかったときに、それらをExchange Dumpsterから削除するかどうかを指定します。このオプションを使用すると、指定した期限より前にDumpsterの中のスペースが再利用されます。このオプションは、エンドユーザーが削除された電子メールを各自のメールボックスに復元する操作に慣れている場合にのみ、オンにしてください。
[Log Verbosity]	削除同期化ログファイルの詳細レベルを選択します。

## [Tombstone Maintenance Defaults]

これらのデフォルト設定は、Tombstone Maintenanceに適用されます。  
[「Tombstone Maintenanceの使用」](#)(73ページ)を参照してください。

フィールド	説明
[Stealth Archiving]	エンドユーザーに対して透過的にメッセージをアーカイブするかどうかを指定します。
[Log Verbosity]	Tombstone Maintenanceログファイルの詳細レベルを選択します。

## [Maintenance Defaults]

これらのデフォルト設定は、EAsEソフトウェアが実行する定期メンテナンスタスクに適用されます。HPの担当者から指示がない限り、これらの値は変更しないでください。

フィールド	説明
[Maintenance Task runs every]	EAsEメンテナンスタスクの実行頻度を指定します。
[Retain Log Files for]	EAsEログファイルの保存期間を指定します。
[Retain DB Schedule for]	EAsEスケジュールデータベースに保存する履歴データの量を指定します。
[Retain Queue Schedule for]	Policy Engineキューに保存する履歴データの量を指定します。

---

## 6 ジャーナルメールボックスを使用した Compliance Archiving

- ・ [Compliance Archivingの概要 \(29ページ\)](#)
- ・ [Exchangeサーバーのジャーナリング設定](#)
- ・ [Compliance Archivingイベントの設定](#)
- ・ [Compliance Archivingイベントの実行 \(35ページ\)](#)

### Compliance Archivingの概要

HP EAs ExchangeのCompliance Archivingでは、Exchangeサーバー上のジャーナルメールボックスからメッセージを取得して、それらを長期保存のためにIAPに転送します。Compliance Archivingは、組織内のメールメッセージの完全な記録を維持する必要がある場合に使用します。

HP EAs ExchangeのCompliance Archivingでは、以下のExchangeアイテムを取得します。

- ・ 標準の電子メール (IPM.Note)  
セキュリティ保護および暗号化された電子メールを含みます。
- ・ 配信不能レポート (REPORT.IPM)
- ・ 会議出席依頼 (IPM.Schedule)
- ・ 仕事の依頼 (IPM.TaskRequest)

アイテムに添付ファイルが含まれている場合は、添付ファイルもアーカイブされます。

---

#### 注記:

Exchangeの予定表 (IPM.Appointment) およびドキュメント (IPM.Document) はジャーナルメールボックスに格納されません。これらのアイテムは、Compliance Archivingではアーカイブされません。

---

### Exchangeサーバーのジャーナリング設定

ExchangeからIAPにデータをアーカイブするには、ジャーナルメールボックスを作成し、すべてのメールのコピーがジャーナルメールボックスに格納されるようにExchangeサーバーを設定する必要があります。

#### Exchange 2010の場合の設定

Exchange 2010を使用している場合は、この項の手順に従ってください。Exchange 2007以前を使用している場合は、「[ジャーナルメールボックスの作成](#)」(30ページ)に進んでください。

ジャーナルメールボックスの作成方法については、Microsoft TechNetの記事「[Create and Configure a Journaling Mailbox](http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb124985.aspx)」(<http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb124985.aspx>)を参照してください。HPAEServiceAccountには、必ずフルアクセス権を付与しておいてください。

次に、Microsoft TechNetの記事「Enable Per-Mailbox Database Journaling」(<http://technet.microsoft.com/en-us/library/bb123817.aspx>) の手順に従って、作成したメールボックスへのジャーナリングを有効化します。

Exchange環境でジャーナリングを設定する際には、セキュリティおよびパフォーマンスに関する重大な考慮事項があるため、Exchange管理者はこれらのMicrosoft TechNet記事を精読して十分に理解しておく必要があります。

## ジャーナルメールボックスの作成

メッセージをアーカイブできるようにするには、1つ以上のジャーナルメールボックスを事前に作成しておく必要があります。

ジャーナルメールボックスはExchangeサーバーを通過したすべてのメッセージのコピーを受信して格納する可能性があるため、パフォーマンスおよびセキュリティ上の特殊な問題が付随します。そのため、ジャーナルメールボックスを適切に設定することが重要となります。たとえば、大量のメールを処理するサーバーとは異なるサーバー上にジャーナルメールボックスを置くなどの対策が必要になります。ジャーナルメールボックスの設定に関するベストプラクティスについては、Exchangeのドキュメントを参照してください。最初にMicrosoftのExchange Serverライブラリ ([http://technet.microsoft.com/en-us/library/aa996058\(EXCHG.80\).aspx](http://technet.microsoft.com/en-us/library/aa996058(EXCHG.80).aspx)) を参照することをお勧めします。

1. アーカイブサービスアカウントが「[アーカイブサービスアカウントの作成](#)」(17ページ)の説明に従って適切に設定されていることを確認します。
2. Active Directory内に1つ以上のジャーナルメールボックスを作成します。

ジャーナルユーザーアカウントには任意の名前を付与できますが、アカウントの追跡が容易になるように、JournalUserなどのわかりやすい名前を使用してください。

すべてのジャーナルメールボックスアカウントは、以下の条件を満たす必要があります。

- ・ ユーザーがDomain Usersのメンバーになっていること。
- ・ アーカイブサービスアカウント (HPAEServiceAccount) がジャーナルユーザーのメールボックスにアクセスできること。

---

### 注記:

完全なブラインドカーボンコピー (BCC) 情報を取得し配布リストを展開するために、エンベロープジャーナリングの使用を強くお勧めします。

---

## メールボックスストアでのCompliance Archivingの有効化

ジャーナルユーザーメールボックスの作成が完了したら、メールボックスストアのプロパティを設定してCompliance Archivingを有効化します。

### Exchange 2007の場合

Exchange 2007上でCompliance Archivingを有効化するには、以下の手順に従ってください。

1. Exchangeサーバーにログオンします。
2. Exchange管理コンソールを開きます。
3. [サーバーの構成]を展開して、[メールボックス]をクリックします。

コンソールの下部に、ストレージグループおよび関連付けられたメールボックスデータベースが表示されます。



4. 該当するメールボックスデータベースを右クリックして、[プロパティ]を選択します。
5. [ジャーナルの受信者]チェックボックスをオンにします。
6. [参照]をクリックして、ジャーナルユーザーを選択し、[OK]をクリックします。
7. [保守のスケジュール]ドロップダウンリストを開き、次のいずれかの操作を行います。
  - ・ 期間を選択します。
  - ・ [カスタムスケジュールを使用する]を選択して、[カスタマイズ]をクリックします。1時間または15分を選択し、スケジュールの各セルを選択してから[OK]をクリックします。
8. [OK]をクリックします。
9. サーバー上の該当する各ストレージグループについて、手順4～8を繰り返します。

メールボックスストアをCompliance Archiving用に使用する他のExchangeサーバーでこの手順を繰り返します。

## Exchange 2007以前のExchangeサーバーの場合

Exchange 2007より前のExchangeサーバー上でCompliance Archivingを有効化するには、以下の手順に従ってください。

1. Exchangeサーバーにログオンします。
2. Exchangeシステムマネージャを開きます。
3. [サーバー]フォルダを開きます。
4. リストのサーバーごとに、次の操作を行います。
  - a. サーバータブを展開します。
  - b. ストレージグループを開きます。
  - c. [メールボックスストア]を右クリックして、[プロパティ]を選択します。
  - d. [全般]をクリックします。
  - e. [このストアのメールボックスで送受信したすべてのメッセージをアーカイブする]を選択します。
  - f. [参照]をクリックします。
  - g. [受信者の選択]ダイアログボックスで、[場所]をクリックし、ドメインを選択してポップアップダイアログボックスで[OK]をクリックします。
  - h. [選択するオブジェクト名を入力してください]ボックスにジャーナルユーザーアカウントを入力し、[名前の確認]を選択します。
  - i. [OK]を2回クリックします。
  - j. サーバー上の該当する各ストレージグループについて、手順b～iを繰り返します。
5. メールボックスストアをCompliance Archiving用に使用する他のExchangeサーバーでこの手順を繰り返します。

## Compliance Archivingイベントの設定

Compliance ArchivingイベントはEAsソフトウェア内部で完全に管理され、指定した間隔で実行されます。IAPにメッセージがアーカイブされた後、メッセージはジャーナルメールボックスから自動的に削除されません。

## Compliance Archivingイベントの作成

アーカイブ対象のジャーナルメールボックスごとに独立したイベントを作成する必要があります。

新しいイベントを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. [Configuration] > [Archive Engine] > [Archive Events]の順に選択します。操作の詳細については、「[HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作](#)」(22ページ)を参照してください。
2. ウィンドウの右側にある[Actions]ペインで、[New Archive Event]をクリックします。
3. 表示されたダイアログボックスで、[Compliance Archiving]を選択し、[OK]をクリックして[Create Archive Event]ウィンドウを表示します。
4. イベントのわかりやすい名前を[Name]ボックスに入力し、必要に応じて[Description]ボックスに説明を入力します。
5. [Configuration]タブをクリックして[Configuration]ペインを表示します。
6. ExchangeサーバーのIPアドレスを[Exchange Server]ボックスに入力し、ジャーナルメールボックスの名前を[Journal Mailbox]ボックスに入力します。  
[Find]ボタンを使用すれば、ジャーナルメールボックスが存在する既知のサーバーをすべて表示できます。  
[Default Routing Address(es)]ボックスには、メッセージのアドレスリストに追加されるアドレスが表示されます。「[\[Default Routing Address\]](#)」(26ページ)を参照してください。
7. Exchangeサーバーの負荷が大きい場合は、イベントあたりのプロセス数を変更できます。詳細については、[Schedule]タブをクリックし、「[\[Schedule\]タブ](#)」(33ページ)を参照してください。
8. インストール環境で複数のIAPドメインを使用している場合は、[IAP Domain]タブをクリックし、使用するIAPドメインをリストから選択します。[IAP Domain]タブの詳細については、「[\[IAP Domain\]タブ](#)」(34ページ)を参照してください。
9. [Create]をクリックしてウィンドウを閉じ、イベントを作成します。

新規作成したアーカイブイベントは、デフォルトでは有効化されません。アーカイブイベントの有効化の詳細については、「[Compliance Archivingイベントの実行](#)」(35ページ)を参照してください。

## Compliance Archivingイベントの編集

Compliance Archivingイベントを編集するには、以下の手順に従ってください。

1. [Configuration] > [Archive Engine] > [Archive Events]の順に選択します。操作の詳細については、「[HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作](#)」(22ページ)を参照してください。
2. [Archive Engine]ペインからイベントを選択します。
3. ウィンドウの右側にある[Actions]ペインで[Edit]をクリックします。  
[Actions]ペインに[Edit]項目が表示されていない場合は、リストから選択したイベントが1つだけであることを確認してください。
4. 設定を編集します。各タブ上の設定については、以降の項で説明します。
5. [Save]をクリックして変更内容を適用します。



## 注記:

現在実行中のイベントには、変更は適用されません。プロセスが完了して再開された時点で変更内容が適用されます。「[Compliance Archivingイベントの実行](#)」(35ページ)を参照してください。

## [General]タブ

[General]タブでは、イベントの説明のみを編集できます。イベントの名前は変更できません。

## [Configuration]タブ

[Configuration]タブでは、次の項目を指定できます。

フィールド	説明
[Exchange Server]	Compliance Archiving設定の対象にするExchangeサーバーのIPアドレスまたは名前。このサーバー名は、DNSによって解決されなければなりません。
[Journal Mailbox]	ジャーナルメールボックスのセットアップ時に指定したジャーナルアカウント名
[Default Routing Address(es)]	すべてのアイテムの追加のアーカイブ先となるアドレス (IAPレポジトリに一致するアドレス) のリスト。「 <a href="#">[Default Routing Address]</a> 」(26ページ)を参照してください。
[Capture Email in TNEF]	選択すると、TNEF (Transport Neutral Encapsulation Format) を使用してメッセージが保存されます。選択していない場合は、MIME形式でメッセージが保存されます。TNEFの詳細については、「 <a href="#">TNEFメッセージ形式</a> 」(25ページ)を参照してください。

## [Schedule]タブ

[Schedule]タブでは、アーカイブプロセスの実行頻度とプロセス実行時に生成されるプロセスインスタンスの数を指定できます。

フィールド	説明
[Rekurs every]	これらのコントロールを使用して、アーカイブイベントの実行頻度を設定します。デフォルトでは、2分おきに実行されます。
[Number of Processes]	このフィールドは各イベントのプロセス数を定義します。 プロセスの適正数は、Exchangeサーバーに対する負荷によって異なります。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 負荷の小さいサーバーの場合は、1プロセスを使用します。</li><li>・ 負荷の大きいサーバーの場合は、5プロセスを使用します。</li><li>・ 7を超えるプロセス数は指定しないでください。</li></ul> すべてのアーカイブイベント (Compliance Archiving、Selective Archiving、Delete Synchronization、Tombstone Maintenanceを含む) のプロセスの合計数は24以内に制限されます。

## [IAP Domain]タブ

[IAP Domain]タブには、アーカイブされたメッセージを収集するIAPに関する情報が表示されます。

フィールド	説明
[IAP Domain]	IAPドメインの名前。ジャーナルメールボックスからの電子メールはここに保存されます。既知のドメイン名のいずれかをメニューから選択できます。このフィールドの値を変更すると、次の3つの値も変更されます。
[Domain ID]	上記のIAPドメイン名と一致するドメインID。ドメインIDは、Domain.jcmlのドメインID属性と完全に一致しなければなりません。
[Domain VIP (SMTP)]	SMTP配信で使用するIAP Virtual IP (VIP)。
[IAP HTTP Portal]	HTTP配信で使用するIAP Virtual IP (VIP)。

### △ 注意:

[Domain ID]、[Domain VIP (SMTP)]、または[IAP HTTP Portal]の値を変更するには、最初に[Override Domain Information]を選択しておく必要があります。ただし、HPの担当者から指示がある場合以外は変更しないでください。

## [Advanced]タブ

[Advanced]タブでは、すべてのイベントパラメーターの値を確認できます。HPサポートからの指示があった場合は、[Edit]をクリックして、これらの値を編集します。

## Compliance Archivingイベントのコピー

アーカイブ対象のジャーナルメールボックスごとに、独立したアーカイブイベントが必要です。複数のジャーナルメールボックスからのメッセージをアーカイブする場合は、最初のイベントを他のCompliance Archivingイベントのベースとして使用することができます。

イベントをコピーするには、以下の手順に従ってください。

1. [Configuration] > [Archive Engine] > [Archive Events]の順に選択します。操作の詳細については、「[HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作](#)」(22ページ)を参照してください。
2. [Archive Events]ペインからイベントを選択します。
3. ウィンドウの右側にある[Actions]ペインで[Copy]をクリックします。  
「(オリジナルのイベント)のコピー」という名前のイベントが新しいウィンドウに表示されます。
4. イベントに新しい名前を付け、[Configuration]タブ上で必要に応じて変更を行います。

新規作成したアーカイブイベントは、デフォルトでは有効化されません。アーカイブイベントの有効化の詳細については、「[Compliance Archivingイベントの実行](#)」(35ページ)を参照してください。

## Compliance Archivingイベントの削除

スケジュール済みCompliance Archivingイベントを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. [Configuration] > [Archive Engine] > [Archive Events]の順に選択します。操作の詳細については、「[HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作](#)」(22ページ)を参照してください。
2. [Archive Events]ペインからイベントを選択し、[Remove]をクリックします。  
イベントを削除してよいかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
3. [Yes]をクリックしてイベントを削除します。  
イベントが削除されます。

なお、アクティブサーバーでは、メッセージは引き続きメールボックスに届きます。ジャーナル受信トレイを調べて、アーカイブ待ちのメッセージがないことを確認してください。

## Compliance Archivingイベントの実行

Compliance Archivingイベントを有効にすると、スケジュールに基づいてただちにCompliance Archivingイベントが開始されます。イベントが有効化されているか無効化されているかは、[Archive Events]ペインの[State]列でチェックできます。

アーカイブイベントを有効化または無効化するには、[Archive Events]ペインからイベントを選択し、ウィンドウの右側にある[Actions]ペインで以下のいずれかをクリックします。

- [Enable All]
- [Disable All]
- [Enable]
- [Disable]

アーカイブイベントを有効化すると、そのイベントが通常1分以内に開始されます。

イベントを無効化すると、そのイベントは現在の実行が完了した後、次回の実行スケジュールでは実行されなくなります。イベントを無効化してもイベントがただちに停止するわけではないことに注意してください。

複数のイベントを作成または編集する場合は、実行中のプロセスが停止することのないようにCompliance Archivingサービスを停止しておくのが最善です。変更を行った後は、サービスを再開してください。



# 7 SMTPプレミアムジャーナリングを使用した Compliance Archiving

この章では、SMTPプレミアムジャーナリングについて説明します。SMTPプレミアムジャーナリングでは、ジャーナルメールボックスを使用せずにCompliance Archivingを実行します。

- ・ SMTPプレミアムジャーナリングの概要 (37ページ)
- ・ ExchangeおよびArchive Gatewayの設定 (38ページ)
- ・ SMTPジャーナルイベントの作成 (42ページ)
- ・ SMTPジャーナリングイベントの使用 (44ページ)
- ・ ローカルSMTP設定の使用 (45ページ)
- ・ SMTPタスクの確認 (46ページ)

## SMTPプレミアムジャーナリングの概要

SMTPプレミアムジャーナリングでは、Exchange 2007以降に搭載されている機能を活用します。Archive GatewayがExchangeジャーナリングメールボックスからメッセージをプルするのではなく、ExchangeサーバーがメッセージをArchive Gatewayにプッシュして処理させます。

### メッセージフロー

Exchangeサーバーが送受信するメッセージのフローは、Exchangeサーバーのハブトランスポートコンポーネントによって制御されます。サーバーを通過するメッセージのうち、どのメッセージがアーカイブの候補になるかは、ハブトランスポートジャーナルルールによって決定されます。このルールに一致したメッセージがハブトランスポートからメール連絡先へ送信されます。

メール連絡先アドレスにより、メッセージがArchive Gatewayにルーティングされます。メール連絡先アドレスは、Archive Gateway上でSMTPジャーナリングイベントに関連付けられます。

SMTPジャーナリングイベントは、Archive GatewayとIAPの間のバインディングを提供します。

### 複数のArchive Gateway

メッセージはArchive Gatewayにルーティングされる前に、ロードバランサーを通過します。インストール環境に複数のArchive Gatewayが存在する場合は、トラフィックが均等に分散されるようにするために、ロードバランサーがメッセージのルーティング先を利用可能なArchive Gatewayの間で順次切り替えます。

EAsEソフトウェアでは、フェデレーション構成を使用して、SMTPジャーナリングに参加しているすべてのArchive Gatewayの設定を同期された状態に維持します。いずれかのArchive Gatewayの構成を変更すると、その変更が他のすべてのArchive Gatewayに展開されます。

### アーカイブの失敗

EAsEソフトウェアには、アーカイブできないメッセージに対処するための手段がいくつかあります。

IAPのビジー状態やIAPの再起動などによる一時的な失敗の場合は、EAsEがメッセージのアーカイブを再試行します。ほとんどの場合、アーカイブの失敗の原因となった状態は自動的に解消されます。一時的な失敗のためにアーカイブされなかったメッセージは、Exchangeのキュー内に残されます。

一時的でないアーカイブの失敗はまれに発生します。一時的でない失敗が発生するのは、主に、重大なハードウェア障害、メッセージ形式の異常、またはソフトウェア自体の問題が発生している場合です。このような場合は、メッセージの処理またはアーカイブが失敗した原因を示すENDR (EAsE配信不能レポート)メッセージがEAsEによって生成されます。ENDRメッセージには、オリジナルのメッセージが格納されています。ENDRメッセージは、専用のENDRメールボックス ([「ENDRメールボックスの作成」](#)(42ページ)を参照)にルーティングされ、解決可能になるまでの間、このメールボックスに保存されます。ENDRメールボックスをマイニングする自動ENDRタスクが定期的に行われ、アーカイブが失敗したメッセージのIAPへの再アーカイブが試行されます。

EAsEソフトウェアが短時間のうちに多数のアーカイブの失敗を検出した場合や、複数のメッセージのアーカイブに連続して失敗した場合は、EAsEがExchangeからのメッセージの処理を一定期間停止します。この期間のデフォルト設定は5分間です。これは、ENDRメールボックスの容量超過を防ぐことを目的としています。この期間中、EAsEはExchangeおよびハブトランスポートキューに依存して割り込みサービスを処理します。

## ExchangeおよびArchive Gatewayの設定

SMTPジャーナリングを正しく動作させるには、メール連絡先で表示されるSMTPアドレスにExchangeサーバーのトラフィックが送信されるようにExchangeサーバーを設定するとともに、ExchangeサーバーからのSMTPトラフィックをSMTPジャーナリングイベント経由で受け付けるようにArchive Gatewayを設定する必要があります。

### 注記:

ExchangeサーバーとArchive Gatewayのどちらについても、HPの担当者がシステムのインストール時に設定作業を行います。通常は、システムに変更を加えない限り、この項で概要を述べている手順を実行する必要はありません。

ExchangeとArchive Gatewayの設定作業では、以下が行われます。

- ExchangeドメインへのArchive Gatewayの参加とSMTPの設定の確認  
これにより、Archive GatewayとExchangeサーバーが同じネットワーク上に置かれ、Archive GatewayがExchangeサーバーからSMTPトラフィックを受信できるようになります。
- Archive GatewayのDNSレコードの作成とハブトランスポートの設定の確認  
これにより、DNSアドレスおよびメールレコードが作成され、ハブトランスポートサーバーがArchive GatewayにSMTPメールを送信できるようになります。
- メール連絡先レコードの作成  
これは、Exchangeサーバーを通過するすべてのメッセージのコピーを受信するジャーナルアドレスです。
- ENDRメールボックスの作成  
これは、アーカイブに失敗したメッセージをExchangeサーバー上で保存するためのメールボックスです。
- ハブトランスポートジャーナルルールの作成  
これは、Exchangeサーバー上で実際のジャーナリングを設定するルールです。

## Archive Gatewayの設定

SMTPプレミアムジャーナリングを正しく動作させるには、Archive GatewayをExchangeハブトランスポートのドメインに参加させる必要があります。

### ExchangeドメインへのArchive Gatewayの参加

最初にArchive GatewayのTCP/IP設定でDNSサーバーを指定します。

1. [Network Connections]コントロールパネルを開きます。
2. アクティブなネットワーク接続を右クリックし、[Properties]を選択します。
3. リストから[Internet Protocol(TCP/IP)]を選択し、[Properties]をクリックします。
4. [Use the following DNS server addresses]を選択し、Exchange環境内のActive Directory DNSのIPアドレスを入力します。

次に、以下の手順に従ってArchive GatewayをActive Directoryドメインに参加させます。

1. [System]コントロールパネルを開きます。
2. [Computer Name]タブをクリックします。
3. [Change]をクリックします。
4. [Member of]で、[Domain]をクリックして、Exchange環境のドメイン名を入力します。
5. [OK]をクリックしてダイアログボックスを閉じます。
6. Exchangeドメイン内の管理者の名前とパスワードを入力するように求めるメッセージが表示されます。
7. Archive Gatewayを再起動する必要があります。

### SMTPプレミアムジャーナリングを使用するためのExchangeサーバーの設定

SMTPプレミアムジャーナリングを使用できるようにExchangeサーバーを設定するには、以下の作業を行う必要があります。

- Archive GatewayのDNSレコードの作成
- リモートドメインエントリーおよび送信コネクタをExchangeサーバー上で作成するためのハブトランスポートの設定
- Exchangeサーバー上のメール連絡先レコードの作成
- ENDRメールボックスの作成
- ハブトランスポートジャーナルルールの作成

---

#### ❗ 重要:

Archive Gateway上の各SMTPジャーナルイベントについて、MXレコード、リモートドメイン、送信コネクタ、メール連絡先が1つずつ必要です。

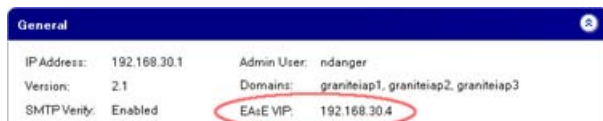
---

### Archive GatewayのDNSレコードの作成

ハブトランスポートサーバーからロードバランサー経由でArchive GatewayにSMTPメールを送信できるようにするには、適切なDNSレコードおよびMXレコードが必要です。

Archive GatewayのEAsE VIPに対応するDNSレコードを作成します。EAsE VIPは、SMTPトラフィックを受信するIAPのネットワークインターフェイス上の仮想IPアドレスです。

1. [操作]メニューで[新しいホスト (A)...]を選択し、Archive Gatewayのアドレスレコードを作成します。
2. [名前]フィールドに、Archive Gateway VIPの名前 (easevipなど)を入力します。
3. [IP アドレス]フィールドに、Archive GatewayのEAsE VIPアドレスを入力します。  
[Configuration] > [IAP]ページに移動すると、EAsE VIPアドレスを確認できます。



4. [ホストの追加]をクリックして、Aレコードを作成します。

次に、Archive GatewayのEAsE VIPを指すMXレコードを作成します。

1. [操作]メニューから[新しいメール エクスチェンジャ (MX)...]を選択して、EAsE VIPのMXレコードを作成します。
2. [ホストまたは子ドメイン]フィールドに、MXレコードの名前 (smtpjournalなど)を入力します。
3. [メール サーバーの完全修飾ドメイン名 (FQDN)]フィールドに、上記のAレコードの作成時に指定したArchive GatewayのEAsE VIPの名前を入力します。  
たとえば、EAsE VIPに付与した名前がeasevipで、会社のドメインがexample.comであるなら、easevip.example.comと入力します。
4. [OK]をクリックして、MXレコードを作成します。

この時点で、以下の2つのDNSレコードが作成されています。

- EAsE VIPのAレコード (easevip.example.com)
- メールホストのMXレコード (smtpjournal.example.com)

## ハブトランスポートの設定

Exchangeハブトランスポートのリモートドメインを設定します。最初に新しいリモートドメインエントリーを作成しておきます。

1. Exchange管理コンソールを開きます。
2. [組織の構成] > [ハブトランスポート]の順に選択します。
3. [リモートドメイン]タブをクリックします。
4. [操作]ペインから[リモートドメインの新規作成]を選択して、[リモートドメインの新規作成]ウィザードを開きます。
5. 新しいリモートドメインエントリーに、後で識別するための名前を付与します。
6. 前の項でMXレコードに対して設定したドメイン名を[ドメイン名]ボックスに入力します。たとえば、smtpjournal.example.comなどの名前です。
7. [新規作成]、[終了]の順にクリックします。
8. 新たに作成したリモートドメインエントリーをダブルクリックします。
9. [ジャーナル レポートの添付用に送信された元のメッセージの形式]タブ (Exchange 2007の場合) または[メッセージフォーマット]タブ (Exchange 2010の場合) をクリックします。



10. 以下を確認します。
  - ・ [メッセージに送信者の名前を表示する]チェックボックスがオンになっていること。
  - ・ メッセージをTNEF形式でアーカイブする予定の場合は[Exchange リッチ テキスト形式]が[常に使用する]に設定されていること。それ以外の場合は、[使用しない]を選択します。
11. [OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。ただし、Exchange管理コンソールは開いたままにしておきます。

次に、送信コネクタを作成します。

1. [送信コネクタ]タブをクリックします。
2. [操作]ペインから[送信コネクタの新規作成]を選択して、[SMTP 送信コネクタの新規作成]ウィザードを開きます。
3. 送信コネクタに名前を付け、使用目的として[カスタム]を指定します。
4. [次へ]をクリックします。
5. [追加]をクリックして、[SMTP アドレス スペース]ウィンドウを開きます。
6. 前の項でMXレコードに対して設定したドメイン名を[アドレス]ボックスに入力します。たとえば、smtpjournal.example.comなどの名前です。
7. [次へ]をクリックします。
8. [DNS(ドメインネームシステム)の“MX”レコードを使用してメールを自動的にルーティングする]を選択します。
9. [次へ]をクリックします。
10. [送信元サーバー]では、アーカイブ対象のメッセージの配信に使用する適切なハブトランスポートサーバーを選択します。
11. [次へ]をクリックします。
12. [次へ]をクリックして設定内容を確認し、[新規作成]をクリックします。

## メール連絡先レコードの作成

新しいメール連絡先レコードを作成します。この連絡先では、Exchangeサーバー上のジャーナルトランスポートルールをArchive Gateway上のSMTPジャーナルイベントにマッピングします。前述の手順で作成したMXレコードに対応するドメイン名にメール連絡先を割り当てる必要があります(例: user@smtpjournal.example.com)。このメール連絡先では、Exchangeハブトランスポートから送信されたメッセージを、Archive Gateway上で構成されている特定のSMTPジャーナルイベントにリダイレクトします。

新しいメール連絡先レコードを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. Exchange管理コンソールを開きます。
2. [受信者の構成] > [メール連絡先]の順に選択します。
3. Exchange管理コンソールの[操作]ペインで[メール連絡先の新規作成...]をクリックします。
4. メール連絡先の名前とエイリアスを入力します。
5. EAsE VIPに関連付けられているメールホスト上のSMTPアドレスを入力します。

名前の部分については、前の手順で入力したエイリアスと同じ名前を使用します。ドメインの部分については、前述の手順で作成したMXレコードの完全修飾ドメイン名を入力する必要があります。

たとえば、作成したMXレコードに付与した名前がsmtpjournalで、ドメインがexample.comであるなら、name@smtpjournal.example.comと入力します。

## ENDRメールボックスの作成

Exchangeサーバー上にENDR(EAsE配信不能レポート)メールボックスを作成します。アーカイブできないメッセージがこのメールボックスに格納されます。

1. Exchange管理コンソールを開きます。
2. [受信者の構成] > [メールボックス]の順に選択します。
3. Exchange管理コンソールの[操作]ペインで[メールボックスの新規作成...]をクリックします。
4. [メールボックスの新規作成]ウィザードが開いたら、[ユーザーメールボックス]を選択して[次へ]をクリックします。
5. [新しいユーザー]を選択して[次へ]をクリックします。
6. [ユーザー情報]ペインで、少なくとも姓、パスワード、および一意の名前を入力し、[次へ]をクリックします。

ENDRメールボックスのこのエイリアスは、SMTPジャーナルイベントを設定するときに使用します。

7. [メールボックスの設定]ペインで、メールボックスを置くインフォメーションストアおよびサーバーを選択します。
8. [OK]をクリックして[次へ]をクリックし、設定を確認します。
9. [新規作成]をクリックしてENDRメールボックスを作成します。

## 新しいハブトランスポートジャーナルルールの作成

新しいハブトランスポートジャーナルルールの作成

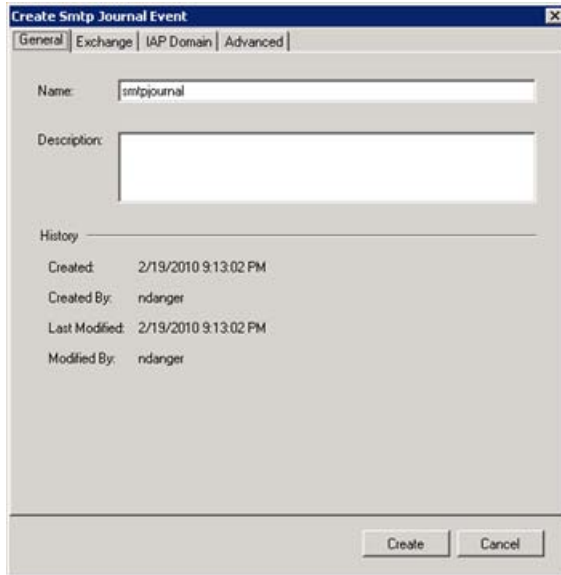
1. Exchange管理コンソールを開きます。
2. [組織の構成] > [ハブトランスポート]の順に選択します。
3. Exchange管理コンソールの[操作]ペインで[ジャーナルルールの新規作成...]をクリックします。
4. ルールにわかりやすい名前を付けます。
5. [ジャーナルレポートを電子メールアドレスに送信]で[参照]ボタンを使用して、前述の手順で作成したメール連絡先を選択します。
6. [スコープ]で、[グローバル - すべてのメッセージ]を選択して、すべてのメッセージをアーカイブ対象にします。より詳細なフィルタリングを適用する必要がある場合は、ここで調整を行います。
7. [新規作成]をクリックして、ルールを作成します。

## SMTPジャーナルイベントの作成

SMTPジャーナリングイベントを作成するには、以下の手順に従ってください。

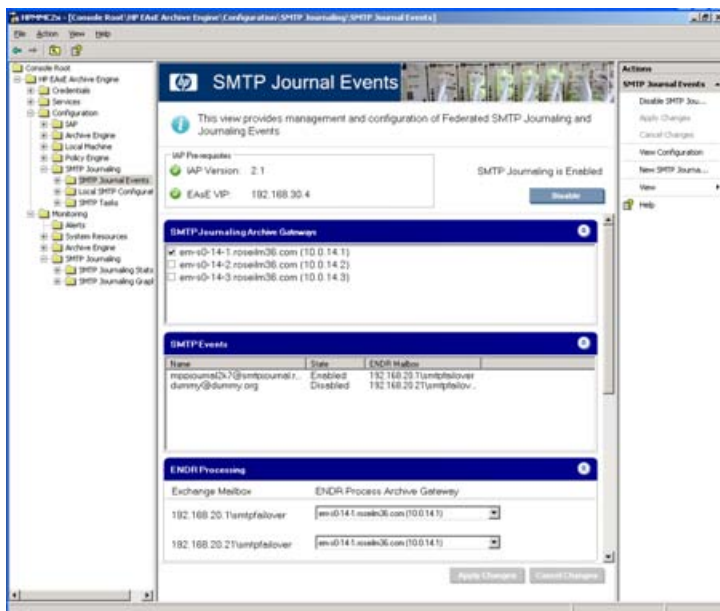
1. アーカイブサービスアカウントを使用してArchive Gatewayにログオンし、HP EAsEソフトウェアを起動します(「EAsEソフトウェアの起動」(21ページ)を参照)。
2. [Configuration] > [SMTP Journaling] > [SMTP Journal Events]の順に選択します。操作の詳細については、「HP EAsE Exchangeソフトウェア内での移動操作」(22ページ)を参照してください。

3. ウィンドウの右側にある[Actions]ペインで、[New SMTP Journaling Event]をクリックします。  
[SMTP Journal Event]ウィンドウが表示されます。



4. [General]タブで、ルールに名前を付けます。  
ハブトランスポートルールとジャーナルイベントの間のリンクを示すメール連絡先が、この名前に適しています。
5. [Exchange]タブで[Select Rule]をクリックし、前述の手順で作成したハブトランスポートルールを探します。
6. [New ENDR Mailbox]をクリックします。
7. [Specify ENDR Mailbox]ウィンドウが表示されたら、ウィンドウ上で次の操作を行います。
  - a. [Exchange Server]ボックスに、ENDRメールボックスが置かれているExchangeサーバーのIPアドレスまたは名前を入力します。
  - b. [Mailbox]ボックスに、ENDRメールボックスのエイリアスを入力します。
  - c. [Verify]をクリックします。
  - d. [OK]ボタンをクリックして、[Specify ENDR Mailbox]ウィンドウを閉じます。
8. [General Defaults] (27ページ)で指定したアドレスが[Default Recipients]ボックスに表示されていることを確認します。異なるアドレスを入力することもできます。
9. [IAP]タブには、適切な値が表示されています。これらの設定や[Advanced]タブ上の設定は、HPの担当者から指示がない限り変更しないでください。
10. [Create]をクリックして、イベントを作成します。

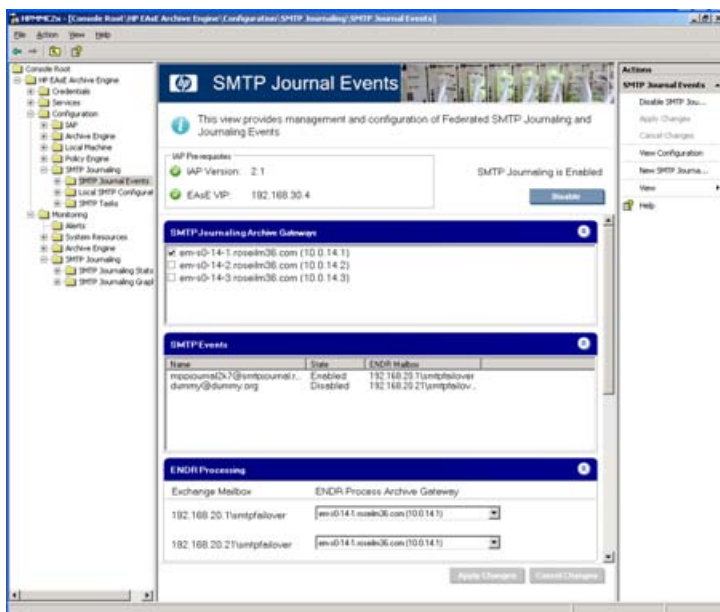
新しいイベントが[SMTP Events]ボックスに表示されます。[Apply Changes]をクリックします。変更内容がシステム内の他のすべてのArchive Gatewayに短時間のうちに展開されます。



SMTPジャーナリングが有効化されていることを確認します。SMTPジャーナリングが実行されていれば、“SMTP Journaling is Enabled”というメッセージが表示されます。SMTPジャーナリングが実行されていない場合は、[Enable]をクリックします。この時点で、SMTPプレミアムジャーナリングが動作しており、メッセージを処理できる状態になっています。Archive Engineコンソールの左側にあるツリーコントロール内で[Monitoring]を展開し、[SMTP Journaling]をクリックすると、SMTPプレミアムジャーナリングを監視できます。

## SMTPジャーナリングイベントの使用

SMTPジャーナリングを管理するには、[SMTP Journal Events]ペインを使用します。[SMTP Journal Events]ペインを表示するには、[Configuration] > [SMTP Journaling] > [SMTP Journal Events]の順に選択します。



## SMTPジャーナリングの有効化と無効化

ペインの上部にある[Enable/Disable]をクリックすると、SMTPジャーナリング全体を有効化または無効化できます。

[SMTP Journaling Gateways]セクションには、ExchangeサーバーからのSMTPジャーナルメッセージを受け付けることができるすべてのArchive Gatewayが表示されます。Archive GatewayでSMTPジャーナリングを有効化/無効化するには、各Archive Gatewayの横にあるチェックボックスのオン/オフを切り替えます。

## SMTPジャーナリングイベントの有効化と無効化

作成したSMTPジャーナリングイベントは、[SMTP Events]セクションに表示されます。イベントを選択すると、SMTPイベントを有効化、無効化、編集、または削除するための新しいコマンドが[Action]ペインに表示されます。

---

### 注記:

SMTPジャーナリングイベントを無効化または削除しても、対応するハブトランスポートジャーナルルールは引き続き適用されます。この場合、ExchangeサーバーからArchive Gatewayにジャーナリング要求が引き続き送信されますが、それらの要求は処理されません。

---

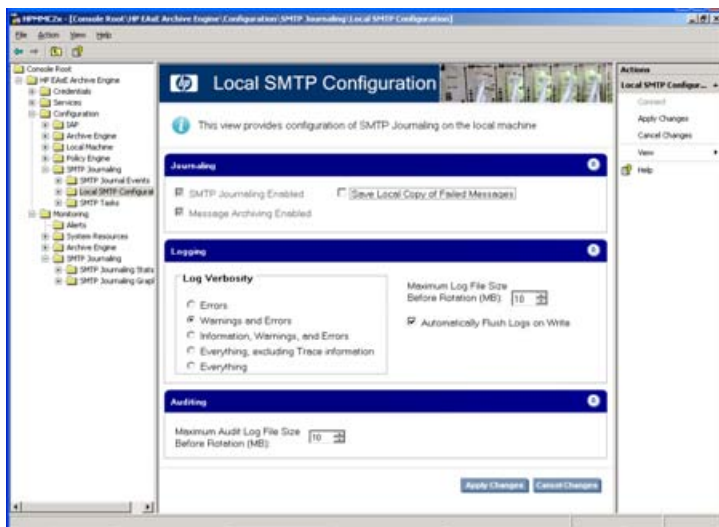
## ENDR処理の指定

「[アーカイブの失敗](#)」(37ページ)で述べたように、アーカイブできないメッセージはExchangeサーバー上のENDRメールボックスに移動されます。Archive Gateway上の定期的タスクにより、このENDRメールボックスがマイニングされ、正しいアーカイブ場所へのメッセージの再アーカイブが試行されます。

[ENDR Processing]セクションでは、SMTPジャーナリングイベントの作成時に指定したENDRメールボックスのそれぞれに対して、どのArchive Gatewayが定期的タスクを実行するかを選択できます。

## ローカルSMTP設定の使用

「[複数のArchive Gateway](#)」(37ページ)で述べたように、大部分のSMTPジャーナリング設定は他のArchive Gatewayに展開されます。[Local SMTP Configuration]ペインでは、ログイン中のArchive Gatewayの設定を管理できます。[Local SMTP Configuration]ペインを表示するには、[Configuration] > [SMTP Journaling] > [Local SMTP Configuration]の順に選択します。

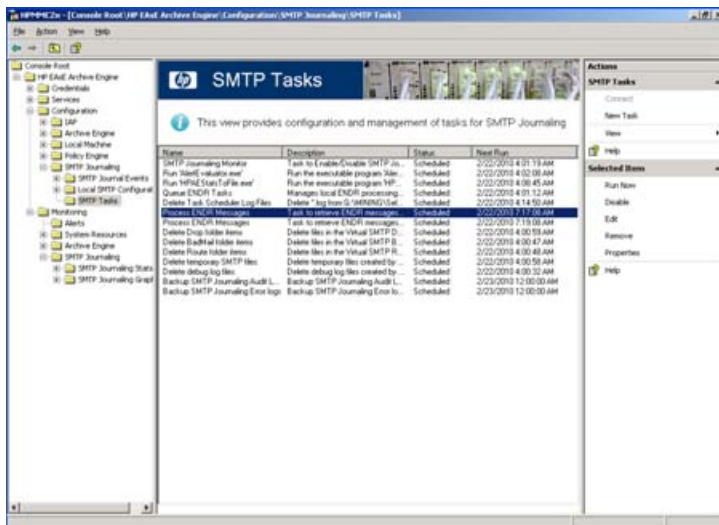


このペインには、SMTPジャーナリングが有効化されているかどうか、および、このArchive GatewayがSMTPジャーナリングに参加しているかどうかを示されます。このペインでは、ログファイルの設定を変更することもできます。

SMTPジャーナリングの問題を解決しようとしているときには、[Save Local Copy of Failed Messages]オプションが役立つことがあります。ただし、HPの担当者から指示があった場合以外は、このオプションを使用しないでください。

## SMTPタスクの確認

SMTPジャーナリングでは、いくつかのタスクによりジョブを実行します。たとえば、これらのタスクには、ENDRメールボックスを定期的にマイニングするプロセスが含まれます。これらのタスクを表示するには、[Configuration] > [SMTP Journaling] > [SMTP Tasks]の順に選択します。



これらのタスクは、EASソフトウェアによって自動的に追加されます。HPの担当者からの指示があった場合を除き、このペイン内の項目を変更する必要は一切ありません。



## 8 Selective Archivingの設定

Selective Archivingでは、どのメッセージをIAPにアーカイブするかを指定できます。特定のメールボックス内のメッセージ、特定のタイプのメッセージ、または特定の条件を満たすメッセージを選択できます。Selective Archivingでは、メッセージをアーカイブするときにメッセージ全体または添付ファイルをtombstoneで置き換えることができます。tombstoneは、ユーザーのメールボックス内のアイテムからIAP内に保存されているアーカイブ済みアイテムへのリンクです。tombstoneは、Exchangeサーバー上でユーザーのメールボックスが消費するディスクスペースの節減に役立ちます。

- [Selective Archivingの概要](#) (47ページ)
- [インフォメーションストアのセットアップ](#) (48ページ)
- [Selective Archivingイベントの設定](#) (54ページ)
- [Selective Archivingルールの編集](#) (56ページ)
- [Selective Archivingイベントの使用](#) (69ページ)
- [Selective Archivingイベントの実行](#) (71ページ)

### Selective Archivingの概要

Compliance Archivingアーカイブでは、Exchangeジャーナルメールボックスを通過するすべてのメッセージとアイテムをアーカイブします。これに対し、Selective Archivingでは、アーカイブ対象をより細かく管理できます。特定の種類のメッセージと特定のメールボックスのセットをアーカイブできます。

Compliance Archivingの場合と同様に、Archive Engineを使用してSelective Archivingタスクを作成し、どの種類のExchangeアイテムをアーカイブするかを指定します。次に、Policy Engineを使用して、タスクの適用対象となるメールボックスを指定するルールを作成します。さらに、Policy Engineでは、コンテンツ、経過時間、添付ファイル数などの特定の属性により、メッセージに適用するアーカイブルールを詳細に管理できます。

Selective Archivingタスクでは、選択したメールボックスからIAPにアイテムをアーカイブします。Exchangeサーバー上のオリジナルのメッセージに対する処理も選択できます。

- Exchangeサーバー上にメッセージをそのまま残すことができます。これは、アイテムがアーカイブされたことが一切示されないことから、Stealth Archivingと呼ばれます。
- 本文をExchangeサーバー上に残したまま、アイテムから添付ファイルを削除できます。EAsEは、オリジナルの添付ファイルのリストを示すスタブで添付ファイルを置き換えます。
- アイテムから本文を削除できます。

EAsEは、メッセージから本文または添付ファイルを削除するときに必ず、「tombstone」と呼ばれるマークを残します。tombstoneは、削除された部分がIAP上のどこにあるかを示します。

ユーザーは、Outlookプラグインを使用することで、tombstone化されたアイテムからオリジナルのメッセージと添付ファイルにシームレスにアクセスできます。またユーザーは、IAPのWebインターフェイスを通じて、アーカイブされたアイテムにアクセスすることもできます。

Archive Engineでは、Compliance ArchivingおよびSelective Archivingのほかに、Deletion SynchronizationおよびTombstone Maintenanceという2つのメンテナンスタスクを作成できます。Deletion Synchronizationでは、Exchangeサーバーをスキャンして、削除されたアーカイブ済みアイテム (tombstone化されたアイテム) を検出し、IAPレポジトリ内の対応するアイテムを削除します。なお、削除済みメッセージがExchangeサーバーから完全に削除された後にDeletion Synchronizationタスクが実行された場合、そのメッセージは

IAPから削除されません。規制ポリシーでアイテムの保存が要求されている場合は、アーカイブされたアイテムがIAPレポジトリ内に残されることがあります。Tombstone Maintenanceは、Exchange上のアーカイブ済みアイテムをスキャンして、それらがIAP上にアーカイブされたアイテムと適切に同期化されているかどうかを確認するハウスキーピングタスクです。

Selective Archivingは、次のExchange項目とその項目の添付ファイルを取得します。

- ・ 標準の電子メール (IPM.Note)  
セキュリティ保護および暗号化された電子メールを含みます。
- ・ 予定表 (IPM.Appointment)
- ・ 仕事 (IPM.Task)
- ・ ドキュメント (IPM.Document)
- ・ パブリックフォルダ項目 (IPM.Post)

次に示すような複数の制限事項があります。

- ・ アーカイブできる予定表は、過去に発生し、今後発生しない項目のみです。
- ・ アーカイブできる仕事は、終了した仕事のみです。

## Policy Engineの設定

EAs Exchange環境の構成時にHPのサービス担当者がPolicy Engineをセットアップし、Selective Archivingの対象となるメールボックスとパブリックフォルダのすべてにPolicy Engineがアクセスできるようにします。またサービス担当者は、リストを最新の状態に維持できるようにAuto Searchをセットアップします。Selective Archivingルールが作成されると、特定のルールの対象になっているメールボックスまたはフォルダがこのリストから選択されます。

初期セットアップ後、「[メールボックスの追加](#)」(50ページ)の手順に従えばメールボックスをただちに追加できます (Auto Searchによる更新を待つ必要はありません)。また、Auto Searchの設定に変更を加えることもできます。

---

### ❗ 重要:

すべてのジャーナルメールボックス、SMTPおよび[システムアテンダント]インフォメーションストアは、Selective Archiving処理から除外する必要があります。

---

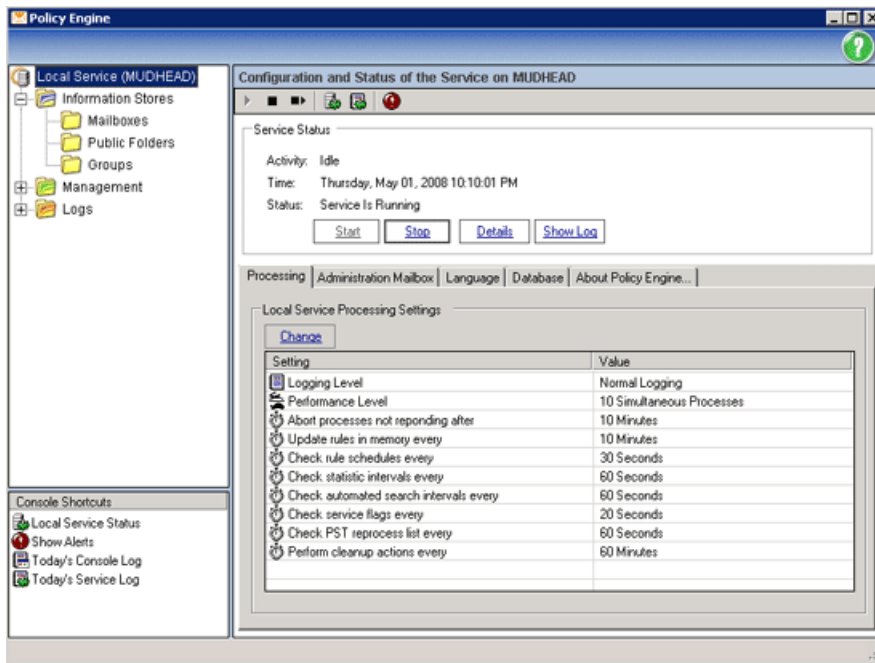
## CASサーバーおよびアドミニストレーションメールボックスの設定

CASサーバーを設定するには、以下の手順に従ってください。なお、Policy Engineのローカルサービス設定を確認するには、左ペインで[Local Service]項目をクリックします。

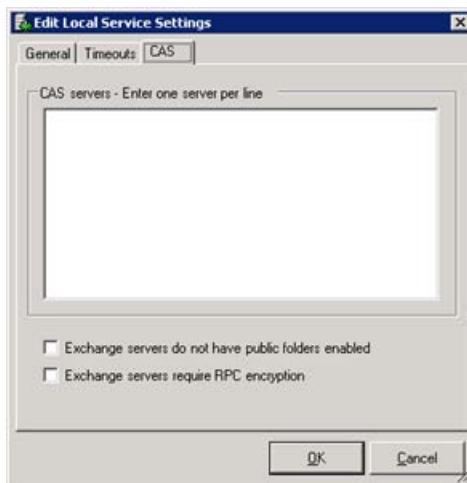
1. HPAEServiceAccountを使用してArchive Gatewayにログオンし、HP EAsEソフトウェアを起動します (「[EAsEソフトウェアの起動](#)」(21ページ)を参照)。
2. [Configuration] > [Policy Engine]の順に選択します。
3. [Launch]をクリックしてPolicy Engine管理アプリケーションを起動します。



4. 左ペインで[Local Service]項目をクリックします。



5. [Processing]タブをクリックします。
6. [Change]をクリックします。
7. Exchange 2010以降を使用している場合は、CASサーバーを指定する必要があります。これを行わないと、メールボックスを指定できなくなります。[CAS]タブをクリックし、CASサーバーのアドレスを入力します。



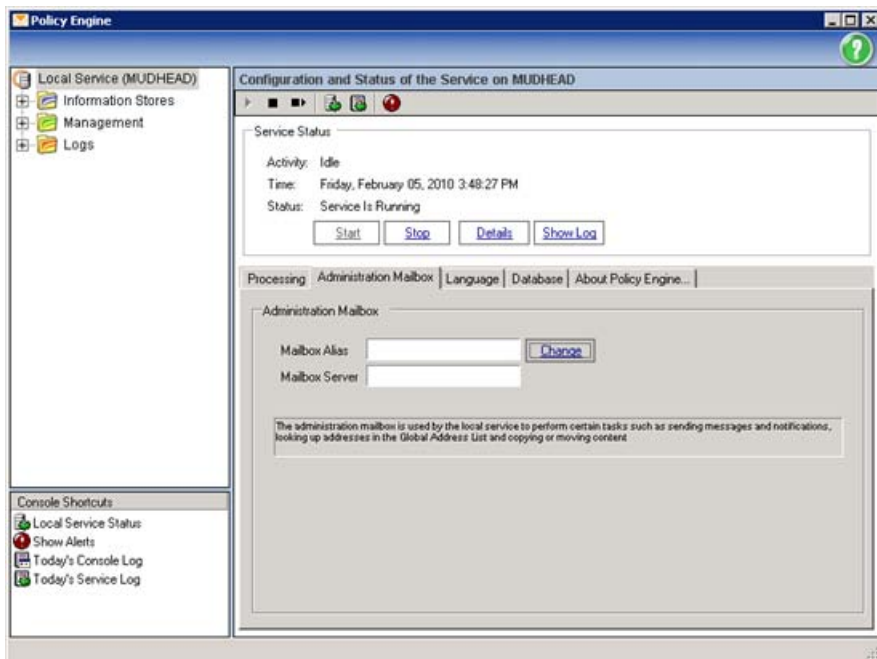
8. [Timeouts]タブおよび[General]タブをクリックすると、ログレベルとサービスタイムアウト設定を変更できます。[OK]をクリックして、[Local Service Settings]ウィンドウを閉じます。

△ 注意:

同時処理の数を変更する場合は、HPのテクニカルサポートに問い合わせてください。

9. [OK]をクリックして、[Edit Local Service Settings]ウィンドウを閉じます。

10. [Administration Mailbox]タブをクリックして、Outlookプロフィールを作成します。アドミニストレーションメールボックスは、ローカルPolicy Engineサービスが、メッセージや通知の送信、GALのアドレスの検索、内容のコピーや移動などの作業を実行するために使用します。

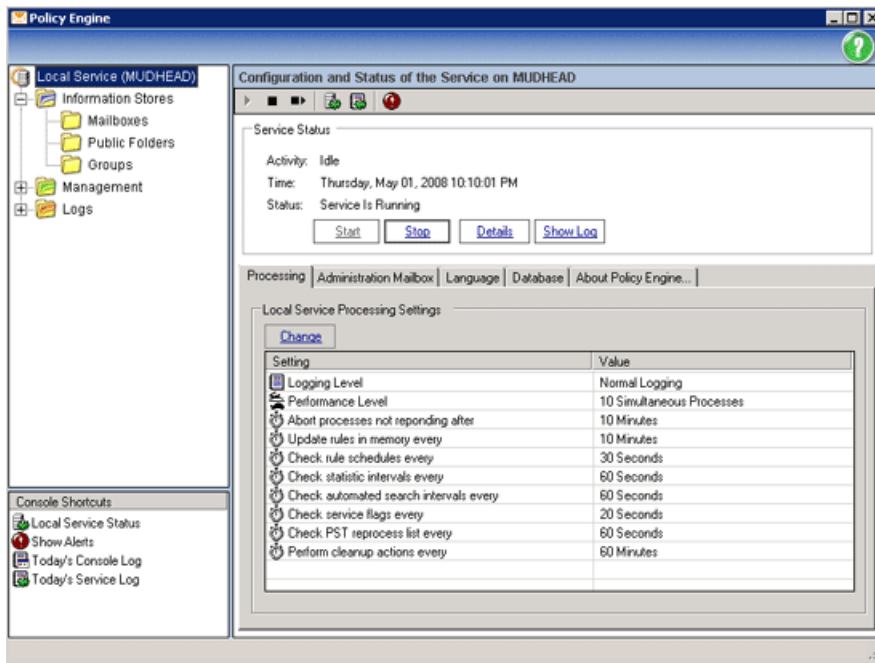


11. [Change]をクリックして、メールボックスおよびExchangeサーバーを入力します。
12. [OK]をクリックして[Mailbox]ウィンドウを閉じます。
13. Policy Engineを開いたままにして、次の項に進みます。

## メールボックスの追加

アーカイブ対象のメッセージを含むメールボックスの追加は、HP EAs Exchange Policy Engineを使用して行います。

1. 左ペインで、[Information Stores]フォルダを展開します。



2. 左ペインで、[Mailboxes]を選択します。
3. 右ペインで右クリックし、[Add Mailboxes]、[From an Exchange Server]、[Browse Network]の順に選択します。
4. 表示されるウィンドウで、適切なExchangeサーバーを選択して[OK]をクリックし、先に進みます。
5. グローバルアドレス一覧 (GAL) にアクセスできるOutlookプロファイルを選択し、[OK]をクリックします。

前の選択に従って、既知のメールボックスが右のペインに表示されます。

#### 注記:

多数(数千など)のメールボックスを追加する場合は、選択したアイテム数が多すぎることを示すエラーが表示されることがあります。その場合は、選択するメールボックスの数を減らし、数回に分けて追加を行ってください。

## パブリックフォルダの追加

パブリックフォルダをアーカイブする予定がある場合は、「[パブリックフォルダのアーカイブのためのExchangeサーバーの構成](#)」(19ページ)の手順に従って、必要な設定をExchangeサーバー上で必ず済ませておいてください。

1. 左ペインで[Information Stores]フォルダを展開します (まだ展開されていない場合)。
2. 左ペインで、[Public Folders]を選択します。
3. 右ペインで右クリックし、[Add Public Folders]、[From the Global Address List]の順に選択します。
4. グローバルアドレス一覧 (GAL) にアクセスできるOutlookプロファイルを選択し、[OK]をクリックします。

5. 表示されるウィンドウで、パブリックフォルダにアクセスするためのメールボックスとしてサービスアカウントメールボックス (HPAEServiceAccount) を選択し、[OK]をクリックします。

既知のパブリックフォルダが、[Policy Engine]ウィンドウの右ペインに組み込まれます。

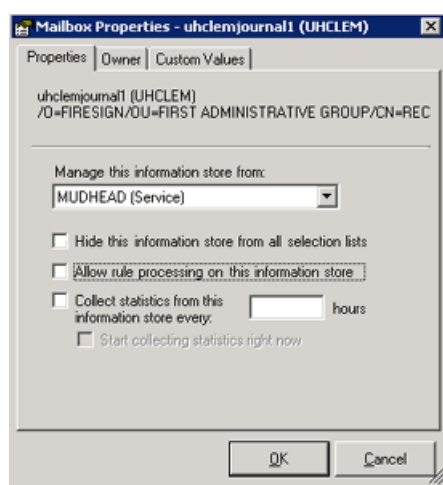
## システムメールボックスの除外

アーカイブすべきでない特定のメールボックスは、アーカイブ対象から除外する必要があります。特に、ジャーナルメールボックス、[システムアテンダント]インフォメーションストア、およびSMTPインフォメーションストアは、Selective Archivingの対象となるメールボックスのリストから除外する必要があります。

1. 左ペインで[Mailboxes]が選択されていることを確認します。
2. [Settings view]ボタンをクリックし、[Settings View]に切り替えます。



3. ジャーナルメールボックスを見つけてダブルクリックし、[Properties]ウィンドウを表示します。
4. [Properties]ウィンドウで、チェックボックスがすべてオフになっていることを確認します。



### 注記:

[Hide this information from all selection lists]オプションを選択すると、そのメールボックスはどの選択リストにも表示されなくなります。

5. 完了したら、[OK]をクリックします。
6. 他のすべてのジャーナルメールボックス、SMTPインフォメーションストアおよび[システムアテンダント]インフォメーションストアについて、これらの手順を繰り返します。

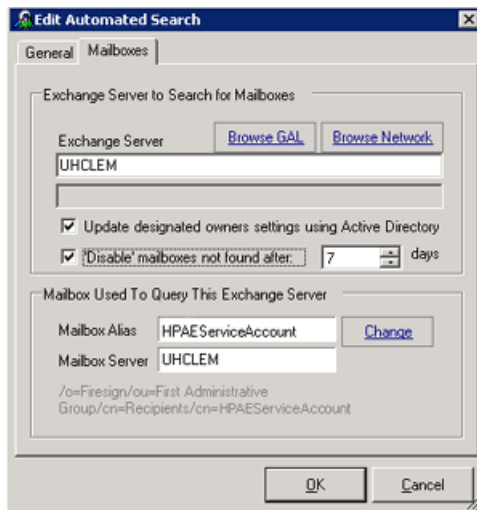
## Auto-Searchのセットアップ

インフォメーションストアをスキャンして新しいメールボックスを検出し、それらを自動的に追加するプロセスをAuto-Searchでセットアップします。

1. Policy Engineの左ペインで、[Information Stores]フォルダを選択します。
2. 右のペインの下部に、[Automated Information Store Searches]ウィンドウが表示されます。このペインを右クリックして、[New Auto-Search]を選択します。

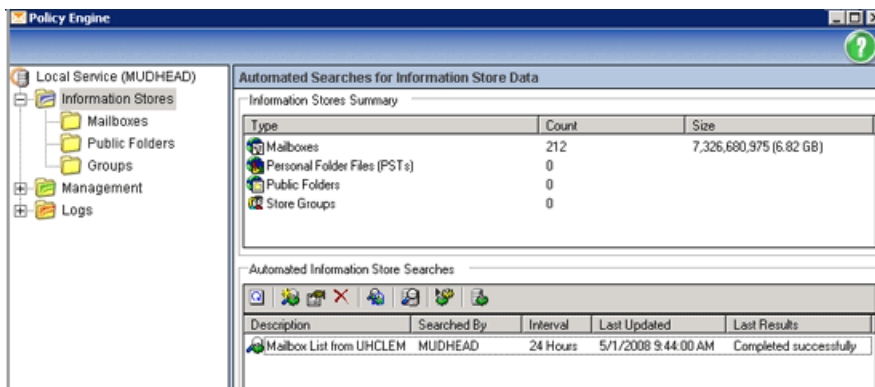
[Edit Automated Search]ウィンドウが表示されます。

3. [Automated Search Type]ボックスで、次の操作を行います。
  - ・ [Search Exchange for Mailboxes]が選択されていることを確認します。
  - ・ [Search should be performed by]フィールドには、ローカルマシンの名前が自動的に埋め込まれます。
  - ・ 検索の実行間隔を選択します。  
デフォルトの間隔は24時間です。この間隔は24時間未満に設定しないことをお勧めします。
4. [Mailboxes]タブをクリックして、[Browse Network]をクリックし、Exchangeサーバーを選択します。
5. Exchangeサーバーへのクエリに使用するメールボックスとして、HPAEServiceAccountを選択します。  
このアカウントの詳細については、「[アーカイブサービスアカウントの作成](#)」(17ページ)を参照してください。
6. [Change]をクリックして、[Mailbox Alias]および[Mailbox Exchange Server]ボックスに必要な事項を入力し、[OK]をクリックします。



7. [OK]をクリックしてセットアッププロセスを完了し、検索を追加します。  
[Automated Information Store Searches]ウィンドウに追加した検索が表示されます。
8. アーカイブ対象のメールボックスを含むすべてのサーバーで手順2～6を繰り返します。

自動化された検索のステータスを確認するには、[Information Stores]を選択します。ウィンドウの右ペインに情報が表示されます。



## Selective Archivingイベントの作成

この項では、Selective Archivingイベントの作成方法を述べます。Selective Archivingイベントの編集、コピー、および削除方法については、「[Selective Archivingイベントの使用](#)」(69ページ)を参照してください。

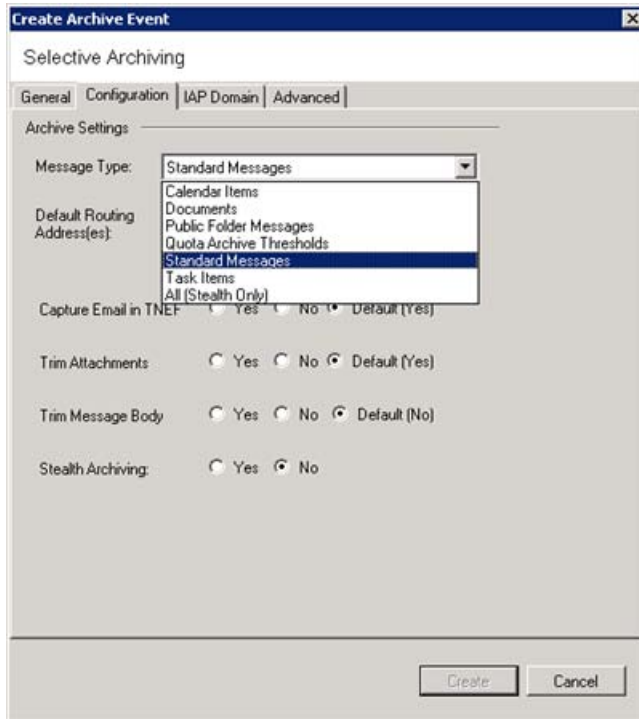
一般に、アーカイブイベントは、メールボックスのクラスに応じて作成する必要があります。たとえば、個々のメールボックスのアーカイブ用、パブリックフォルダのセットのアーカイブ用、チーム(共有)メールボックスのアーカイブ用にSelective Archivingイベントを1つずつ作成することなどが考えられます。

新しいSelective Archivingイベントを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. [Configuration] > [Archive Engine] > [Archive Events]の順に選択します。操作の詳細については、「[HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作](#)」(22ページ)を参照してください。
2. ウィンドウの右側にある[Actions]ペインで、[New Archive Event]をクリックします。
3. 表示されたダイアログボックスで、[Selective Archiving]を選択し、[OK]をクリックして[Create Archive Event]ウィンドウを表示します。
4. イベントのわかりやすい名前を[Name]ボックスに入力し、必要に応じて説明を[Description]ボックスに入力します。  
名前には、特殊文字を使用しないでください。
5. [Configuration]タブをクリックして[Configuration]ペインを表示します。

6. [Message Type]ドロップダウンリストからメッセージの種類を選択します。

- ・ [Calendar Items](予定表)
- ・ [Documents](ドキュメント)
- ・ [Public Folder Messages](パブリックフォルダメッセージ)
- ・ [Quota Archive Thresholds](クォータアーカイブスレッシュホールド)  
クォータイベントおよび対応するPolicy Engineルールによってインフォメーションストアがマイニングされ、ストアのサイズが特定のスレッシュホールドを下回っていることが確認されます。
- ・ [Standard messages](標準メッセージ)  
セキュリティ保護および暗号化された電子メールを含みます。
- ・ [Task Items](仕事)
- ・ [All Items](すべての項目 - Stealth Archivingでのみ使用可能)



7. Selective Archivingイベントでアーカイブ対象メッセージをどのように処理するかを選択します。ほとんどの場合、デフォルト設定が最善の選択肢となります。

Selective Archivingのデフォルト設定の詳細については、[\[Selective Archiving Defaults\]](#) (27ページ)を参照してください。

フィールド	説明
[Capture Email with TNEF]	選択すると、TNEF (Transport Neutral Encapsulation Format) を使用してメッセージが保存されます。選択していない場合は、MIME形式でメッセージが保存されます。TNEFの詳細については、「 <a href="#">TNEFメッセージ形式</a> 」(25ページ)を参照してください。
[Trim Attachments]	[Yes]を選択すると、メッセージをアーカイブするときに添付ファイルが削除され、添付ファイルの代わりにプロキシファイルが追加されます。さらに、メッセージがtombstoneでマークされます。tombstoneの詳細については、「 <a href="#">tombstoneとStealth Archiving</a> 」(25ページ)を参照してください。 Outlookのプロキシは、そのファイル名のArchiveInfo.htmで表示されます。OWAのプロキシは、その表示名のAttachment Info.htmで表示されます。
[Trim Message Body]	[Yes]を選択すると、メッセージ本文が削除され、メッセージがtombstoneでマークされます。tombstoneの詳細については、「 <a href="#">tombstoneとStealth Archiving</a> 」(25ページ)を参照してください。
[Stealth Archiving]	[Yes]を選択すると、メッセージがサーバー上に残されます。この場合、メッセージがアーカイブされたことは一切示されません。 [Stealth Archiving]を選択すると、[Trim Attachments]および[Trim Message Body]は無効化されます。

8. 選択したメッセージタイプが[Public Folder Messages]の場合か、またはイベントでチームメールボックスをアーカイブする場合は、ACLの拡張を有効化する必要があります。アクセス制御リストの詳細については、「[アクセス制御リスト \(ACL\)](#)」(26ページ)を参照してください。パブリックフォルダイベントに対してACLの拡張を有効するには、以下の手順に従ってください。

- a. [Advanced]タブをクリックしてイベントの詳細設定を表示します。
- b. [Edit]をクリックして、設定の編集を有効にします。
- c. 以下の行をファイルに記述します。
 

```
[ExchSelectiveArchiving]
ExpandACL=True
```
- d. [Update]をクリックします。

9. [Create]をクリックしてウィンドウを閉じ、イベントを作成します。

Selective Archivingイベントと同じ名前のPolicy Engineルールが作成されたことを示すウィンドウが表示されます。

10. [Launch Policy Engine Admin]をクリックしてPolicy Engineを起動し、次の項 ([Selective Archivingルールの編集](#)) の手順3に進んで、アーカイブルールを設定します。

## Policy Engineルールの設定

Selective Archivingイベントを作成すると、対応するルールが同じ名前でPolicy Engine内に自動的に作成されます。Policy Engineでルールを修正できます。



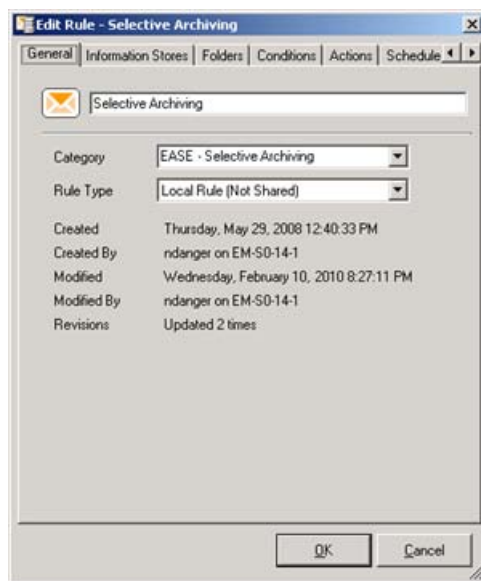
① **重要:**

ルールに変更を加えることはできますが、ルールの作成時に設定された項目は削除しないでください。これらの項目を削除すると、Selective Archivingイベントが正しく実行されなくなります。

Selective Archivingイベントに関連付けられているPolicy Engineルールを編集するには、以下の手順に従ってください。

1. [Configuration] > [Policy Engine]の順に選択します。操作の詳細については、「[HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作](#)」(22ページ)を参照してください。
2. [Launch]をクリックしてPolicy Engine管理アプリケーションを起動します。
3. [Policy Engine]ウィンドウの左ペインで、[Management]フォルダを展開して[Rules]を選択します。
4. 右ペインで、変更対象のSelective Archivingイベントに対応するルールをダブルクリックします。

[Edit Rule]ウィンドウが表示され、[General]タブが開きます。このタブ内の項目は一切変更しないでください。



5. 他のタブ内の設定を必要に応じて変更します。
  - ・ [\[Information Stores\]タブ](#) (57ページ)
  - ・ [\[Folders\]タブ](#) (59ページ)
  - ・ [\[Conditions\]タブ](#) (65ページ)
  - ・ [\[Actions\]タブ](#) (67ページ)
  - ・ [\[Schedule\]タブ](#) (68ページ)
6. [OK]をクリックして、変更内容をPolicy Engineルールに保存します。

## [Information Stores]タブ

ルールには、最低1つのインフォメーションストアを関連付ける必要があります。

インフォメーションストアを追加するには、以下の手順に従ってください。

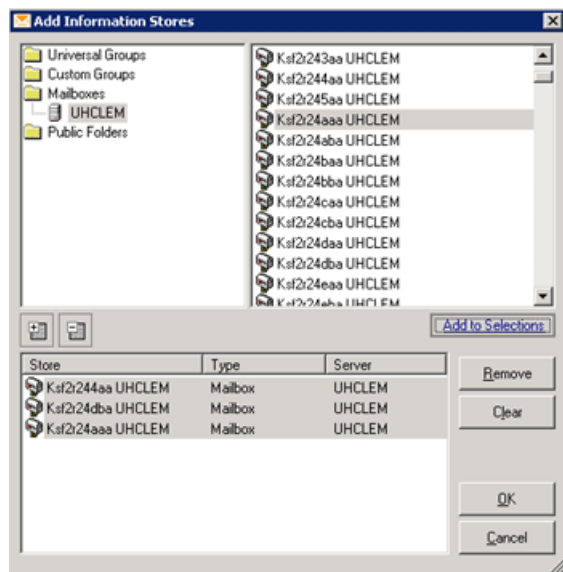
1. [Information Stores]タブで、[Add]をクリックして、ルールが処理する予定のインフォメーションストアを追加します。

[Add Information Stores]ウィンドウが表示されます。

2. イベントでメッセージをアーカイブする場合は、[Mailboxes]をクリックして特定のメールボックスを処理するか、すべてのメールボックスを処理するか、またはExchangeサーバー上のメールボックスを処理します。ここに表示されるメールボックスのリストは、Policy Engineの設定時に指定したものと同じです。「[メールボックスの追加](#)」(50ページ)を参照してください。

イベントでパブリックフォルダをアーカイブする場合は、[Public Folders]をクリックして特定のパブリックフォルダを処理します。ここに表示されるリストは、「[パブリックフォルダの追加](#)」(51ページ)でパブリックフォルダを設定したときに指定したものと同じです。

3. 選択の後、[Add to Selections]をクリックします。



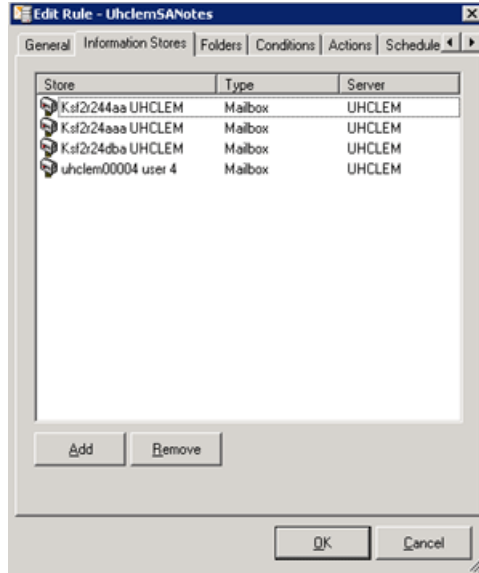
---

❗ **重要:**

すべてのジャーナルメールボックス、SMTPおよび[システムアテンダント]インフォメーションストアは、Selective Archiving処理から除外する必要があります。メールボックスの追加の詳細については、「[メールボックスの追加](#)」(50ページ)を参照してください。

---

4. メールボックスまたはパブリックフォルダの追加が完了したら、[OK]をクリックします。  
追加したメールボックスが、[Information Stores]タブに表示されます。



## [Folders]タブ

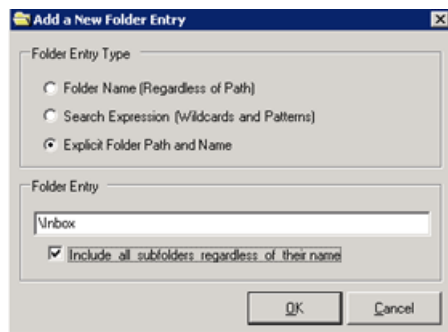
ルールを適用するOutlookフォルダを選択するには、[Folders]タブを使用します。

次の項目のアーカイブを選択できます。

- ・ すべてのフォルダの項目
- ・ リストされているフォルダの項目
- ・ リストされているフォルダを除くすべてのフォルダの項目

たとえば、ユーザーの受信トレイフォルダの項目のみをアーカイブするには、次のように操作します。

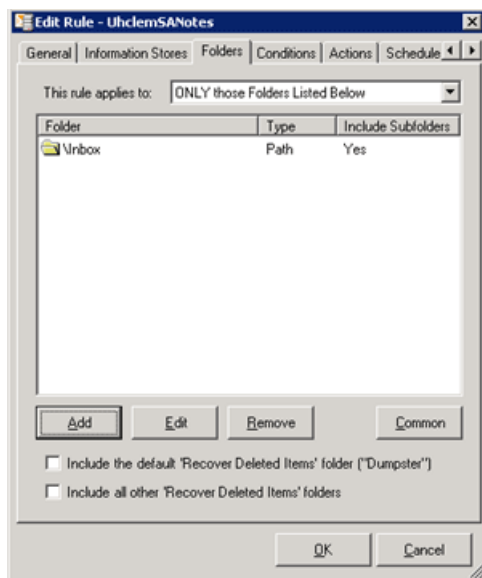
1. [This rule applies to]ドロップダウンリストで、[ONLY those Folders Listed Below]を選択します。
2. [Add]をクリックして、[New Folder Entry]ウィンドウを開きます。
3. [Explicit Folder Path and Name]を選択して、[Folder Entry]ボックスに\Inboxと入力します。



4. [Include all subfolders...]チェックボックスをオンにします。

5. [OK]をクリックします。

[Folders]タブに¥Inboxフォルダがリストされるようになります。



---

❗ **重要:**

削除されたメッセージが含まれているフォルダを対象に含めるオプションのチェックボックスはオンにしないでください。

---

パブリックフォルダのアーカイブイベントに対応するPolicy Engineルールの場合は、[All Folders]を選択します。

## [Selection]タブ

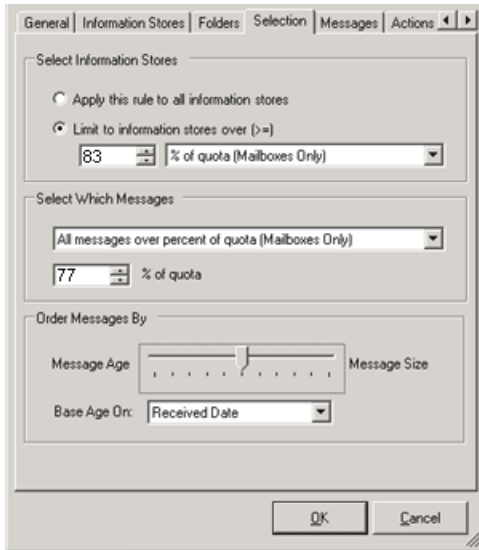
---

📌 **注記:**

[Selection]タブは、Quota Archive Thresholdイベントでのみ使用できます。

---

このタブでは、クォータスレッシュホールドを定義し、メールボックスのサイズを小さくするためのメッセージの処理方法を決定します。



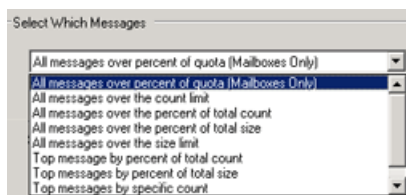
1. 処理の対象にするインフォメーションストアを決定します。

- ・ すべてのインフォメーションストア (メールボックスとパブリックフォルダ)
- ・ 特定のサイズ制限と同じか、制限を超えるインフォメーションストア
  - ・ 固定サイズ: 特定のサイズ以上のメールボックスとパブリックフォルダを処理します。このオプションを選択した場合、メガバイトでサイズを設定します。
  - ・ クォータに対する割合: Active Directoryで設定されたストレージ容量の上限に対して、特定の割合 (スレッショルド) に等しいか、スレッショルドを超えるメールボックスを処理します。このオプションを選択した場合、スレッショルドの割合 (99%以下) を定義します。

Active Directoryでメールボックスに対して複数のクォータを設定している場合は、警告を表示するサイズ (Issue Warning)、送信を禁止するサイズ (Prohibit Send)、送受信を禁止するサイズ (Prohibit Send and Receive) の順でスレッショルドの決定に使用します。

2. 処理の対象にするインフォメーションストアのメッセージの選択方法を決定します。

手順1では、処理の対象にするメールボックスのサイズを設定しました。手順2では、データの選択方法とデータ処理量を定義します。



項目	説明
[All messages over percent of quota (Mailboxes Only) (クォータの割合を超えるすべてのメッセージ (メールボックスのみ))]	<p>手順1で[Limit to information stores over x% of quota (Mailboxes Only) (クォータのx%を超えるインフォメーションストアに限定する (メールボックスのみ))]を選択した場合は、このオプションを選択します。次に、メールボックスのアーカイブに使用するパーセンテージを入力します。</p> <p>このオプションは、クォータスレッシュホールドルールを適用する場合に最もよく使用される選択肢です。</p> <p>上限 (スレッシュホールド) は、手順1で指定し、下限はこの手順2で定義します。ルールによってアーカイブの対象になる候補を下限から上限の間で上位から特定します。メールボックスのメッセージは、手順3で設定するウェイトと順序に従って、このフィールドで指定した制限値にメールボックスのサイズが近づくまで処理されます。</p> <p>ヒント: クォータに対する割合の上限と下限は、目標にする理想的なクォータ制限値の許容範囲内に設定します。メールボックスから削除されるデータ量は、パスごとに定義範囲内で変化します。たとえば、アーカイブするメールボックスのサイズをクォータの約80%にする場合、83%のスレッシュホールドを設定し、スレッシュホールドの下限を77%に設定します。時間の経過とともに、制限値は82%の高さになることもありますが、おそらく77%より低くなりません。平均すると、80%区域内に止まります。</p>
[All messages over the count limit (カウント制限値を超えるすべてのメッセージ)]	<p>メールボックスに残す最大メッセージ数を決定し、メッセージ項目数を入力します。</p> <p>たとえば、メッセージ数に100を選択した場合、メールボックスのメッセージは、手順3で設定する順序で、メールボックス内のメッセージ数が100になるまで処理されます。</p>
[All messages over the percent of total count (総数の割合を超えるすべてのメッセージ)]	<p>メールボックスに残すメッセージ数の割合を決定し、パーセンテージを入力します。メールボックス内の総項目数に対する割合です。</p> <p>たとえば、メールボックス内に200通のメッセージがあるときに70%を選択した場合、メッセージは手順3で設定する順序で、メールボックス内のメッセージ数が200の70% (140通) になるまで処理されません。</p>
[All messages over the percent of total size (合計サイズの割合を超えるすべてのメッセージ)]	<p>メールボックスに残すメッセージ数の割合を決定し、パーセンテージを入力します。メールボックスの合計サイズに対する割合です。</p> <p>たとえば、メールボックスが100MBのときに60%を選択した場合、メッセージは手順3で設定する順序で、メールボックスが100MBの約60% (60 MB) になるまで処理されます。</p>

項目	説明
[All messages over the size limit (サイズ制限値を超えるすべてのメッセージ)]	<p>メールボックスが特定のサイズを超えたときにメッセージを処理します。サイズをメガバイト (MB) 単位で入力します。</p> <p>たとえば、メールボックスの制限が60MBの場合、メッセージは手順3で設定する順序で、メールボックスのサイズが約60MBになるまで処理されます。</p>
[Top messages by percent of total count (上位メッセージを総数の割合で処理)]	<p>メールボックスから削除するメッセージ数の割合を決定し、パーセンテージを入力します。メールボックス内の総項目数に対する割合です。</p> <p>たとえば、メールボックス内に200通のメッセージがあるときに30%を選択した場合、メッセージは手順3で設定する順序で、メールボックス内のメッセージ数が約30% (60通) 減少するまで処理されます。</p>
[Top messages by percent of total size (上位メッセージを合計サイズの割合で処理)]	<p>メールボックスから削除するメッセージ数の割合を決定し、パーセンテージを入力します。メールボックスの合計サイズに対する割合です。</p> <p>たとえば、メールボックスが100MBのときに40%を選択した場合、メッセージは手順3で設定する順序で、メールボックスが約40% (40MB) 減少するまで処理されます。</p>
[Top messages by specific count (上位メッセージを特定のカウンタ数で処理)]	<p>特定の数のメッセージをメールボックスから削除します。</p> <p>たとえば、50通を選択した場合、メッセージは手順3で設定する順序で、50通が選択されてメールボックスから削除されるまで処理されます。</p>
[Top messages by specific size (上位メッセージを特定のサイズで処理)]	<p>x MBのメッセージをメールボックスから削除します。</p> <p>たとえば、20MBを選択した場合、メッセージは手順3で設定する順序で、約20MBのメッセージが選択されてメールボックスから削除されるまで処理されます。</p>

3. 経過期間やサイズに基づいてメッセージのウェイトを設定し、処理の順序を定義します。

メールボックスでウェイトを設定して処理する項目は、[Messages]タブと[Folders]タブで定義します。

スケールを使用してメッセージの経過期間およびサイズに適用するウェイトを算定します。

- ・ ウェイトの設定でメッセージの経過期間が唯一の要素の場合は、スライダーコントロールを左端まで動かします (100%のメッセージ経過期間)。



- ・ メッセージのサイズが唯一の要素の場合は、スライダーコントロールを右端まで動かします (100%のメッセージサイズ)。



- ・ 経過期間とサイズの重みを等しくする場合は、スライダーを中間に設定します (50%の経過期間/50%のサイズ)。



- ・ [Message Age (メッセージの経過期間)]から[Message Size (メッセージサイズ)]までのポイントを使用して、経過期間やサイズの重みを10%単位で変更します。例:

80%の経過期間/20%のサイズの場合



60%のサイズ/40%の経過期間の場合



4. メッセージの経過時間の計算方法として、Exchangeによって受信された日付に基づく計算方法か、またはメッセージが最後に変更された日付に基づく計算方法のいずれかを選択します。

手順3で100%のメッセージサイズにスケールを設定した場合は、この経過期間のオプションを設定する必要はありません。

メッセージのウェイトが計算された後、処理リストが並べ替えられ、手順1と2の条件に従ってメールボックスがマイニングされます。

#### ① 重要:

[Messages]タブと[Folders]タブの条件で処理から除外される項目が多すぎる場合、メールボックスをクォータに合わせてアーカイブできません。

実際に、除外される項目が多すぎてマイニングがまったく行われなことがあります。たとえば、クォータの割合に合わせてアーカイブする場合、上限まで達していないため、マイニングが実行されないことがあります。

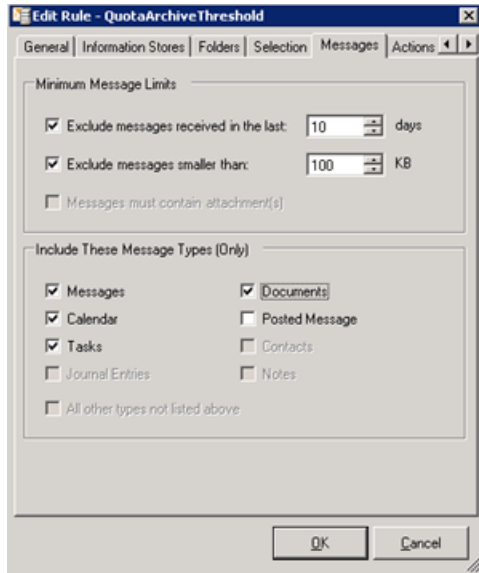
## [Messages]タブ

#### 📌 注記:

このタブは、Quota Archive Thresholdイベントでのみ使用できます。



[Messages]タブでは、[Selection]タブの処理に含めるメッセージ、または処理から除外するメッセージを決定します。この処理に関連するメッセージは、[Folders]タブで定義したフォルダに保存する必要があります。



1. メッセージの最低制限値を設定します。

条件の一方または両方を満たすメッセージを除外できます。

- ・ 最近X日以内に受け取ったメッセージ。  
0～365の値を選択するか、入力します。  
0を入力するか、このオプションを選択していない場合は、メッセージを受け取った時期に関係なく、各メッセージが処理されます。
- ・ Xキロバイト未満のメッセージ。  
0～9999の値を選択するか、入力します。  
0を入力するか、このオプションを選択していない場合は、メッセージのサイズに関係なく、各メッセージが処理されます。

2. 処理に含める各メッセージタイプのチェックボックスをオンにします。

以下のメッセージタイプを1つ以上選択する必要があります。

- ・ [Messages] (メッセージ)
- ・ [Calendar] (予定表)
- ・ [Tasks] (仕事)
- ・ [Documents] (ドキュメント)
- ・ [Posted message] (掲示物 (パブリックフォルダ内))

## [Conditions]タブ

---

 **注記:**

Quota Archive Thresholdイベントでは、このタブは使用できません。

---

ルールを作成すると、該当するメッセージクラスが[Conditions]タブに自動的に追加されます。たとえば、メッセージクラスIPM.Note（標準メッセージ）を使用してイベントが作成されると、対応するルールの[Conditions]タブにそのメッセージクラスが追加されます。

## 既存のリストへの条件の追加

### 注記:

ユーザーは新しい条件を追加できますが、ルールに対してあらかじめ設定されている条件を削除することはできません。

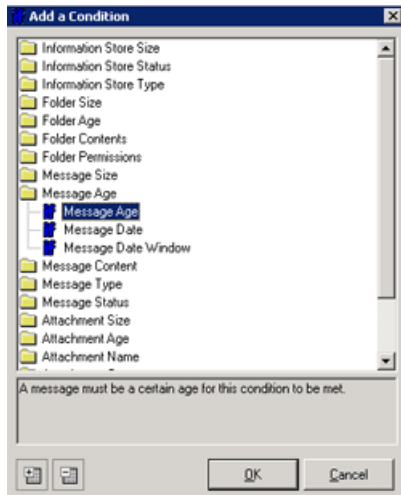
条件リストに新しい条件を追加するには、以下の手順に従ってください。

1. [Add]をクリックします。

想定されるすべての条件が含まれるウィンドウが表示されます。

2. 条件を選択して、[OK]をクリックします。

たとえば、60日を経過したメッセージをアーカイブするという条件を追加する場合は、[Message Age]フォルダで[Message Age]を選択します。

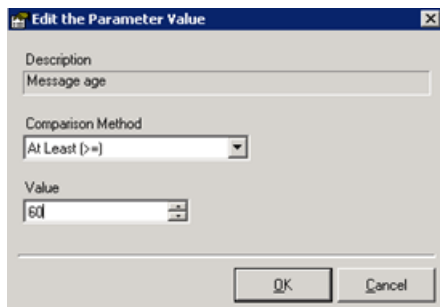


3. 表示される[Edit the Condition]ウィンドウで、変更したい値を編集します。

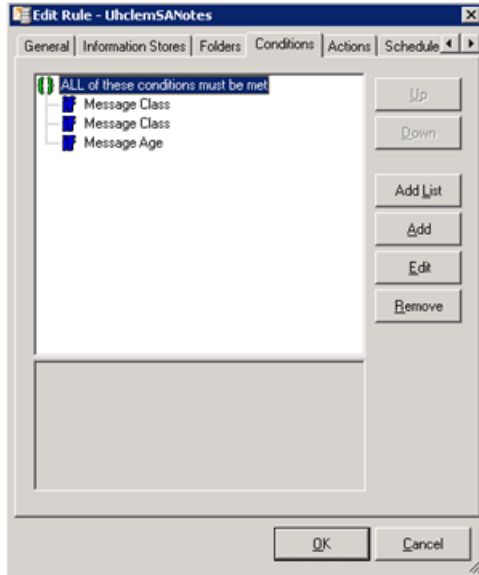
- a. 該当するパラメーターを選択して、[Edit Value]をクリックします。

たとえば、[Message Age]をデフォルトの90日から60日に変更する場合は、[Message age]パラメーターを選択します。

- b. [Edit the Parameter]ウィンドウで値を変更して、[OK]をクリックします。



4. [Edit the Condition]ウィンドウで、[OK]をクリックして条件を追加します。  
条件リストに設定した条件が表示されるようになります。



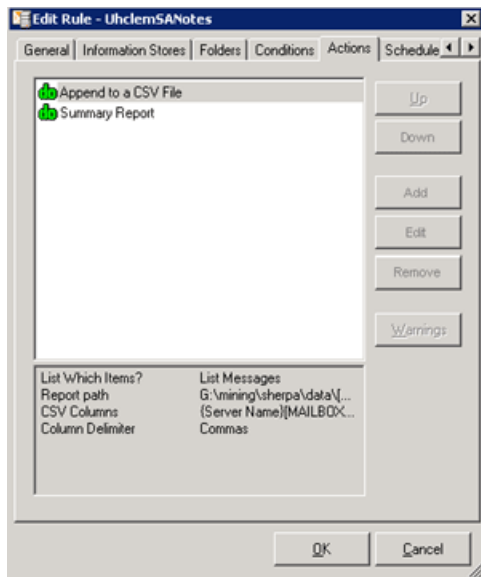
パブリックフォルダのアーカイブイベントに対応するPolicy Engineルールの場合は、[Message age]を1分に設定します。

## 条件の適用方法の決定

デフォルトでは、すべての条件が満たされた場合にのみルールが一致します。条件の適用方法を変更するには、Policy Engineのヘルプを参照してください。この情報を探すには、[Mail Attender] > [Mail Attender Rule Property Pages] > [Conditions]の順に選択してください。

## [Actions]タブ

ルールが作成されると、[Actions]タブに、ルールカテゴリおよびメッセージタイプに該当するアクションが追加されます。このタブのアクションは編集できません。



## [Schedule]タブ

ルールの設定が完了したら、ルール処理のスケジュールを設定します。

### 注記:

Selective Archivingイベントを正しく動作させるには、イベントを有効化し、Policy Engine内の対応するルールのスケジュールを設定する必要があります。

1. [Add]をクリックします。
2. スケジュールのタイプを選択し、スケジュールを設定して、[OK]をクリックします。

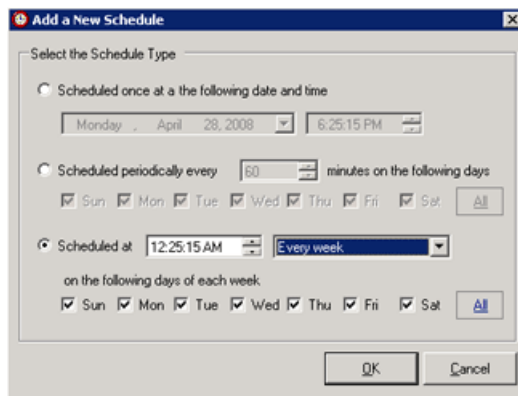
ルールのスケジュールは、次のいずれかに設定できます。

- ・ 一度だけ実行
- ・ 指定した曜日で1日中定期的に実行
- ・ 指定した週および曜日の指定した時刻に実行

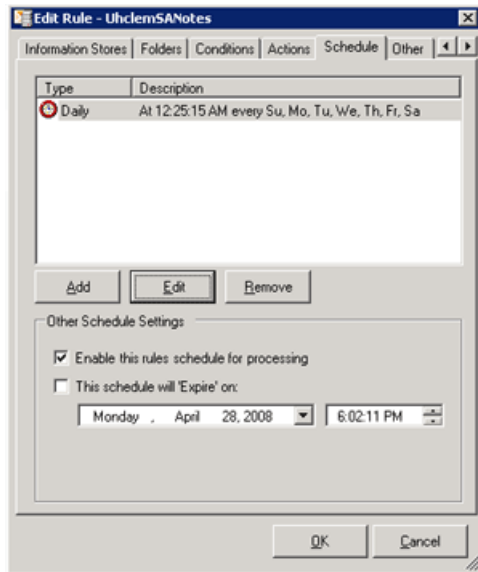
### 注記:

ルールのスケジュールは慎重に設定し、その処理によりExchangeサーバーまたはArchive Gatewayのシステムリソースに悪影響が及ぶことがないようにしてください。ルールのスケジュールについては、HPのサービス担当者と相談してください。

次の例では、毎日(すべての週のすべての曜日)、午前12時25分にルールが実行されるように設定されています。



3. [Schedule]タブで、チェックボックスをオンにして、処理のルールを有効にします。



4. (オプション手順) スケジュールの期限(日時)を設定します。

## Selective Archivingイベントの使用

この項では、Selective Archivingイベントを編集、コピー、および削除する方法を説明します。

### Selective Archivingイベントの編集

Selective Archivingイベントを編集するには、以下の手順に従ってください。

1. [Configuration] > [Archive Engine] > [Archive Events]の順に選択します。操作の詳細については、「[HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作](#)」(22ページ)を参照してください。
2. [Archive Engine]ペインからイベントを選択します。
3. ウィンドウの右側にある[Actions]ペインで[Edit]をクリックします。  
[Actions]ペインに[Edit]項目が表示されていない場合は、リストから選択したイベントが1つだけであることを確認してください。
4. 設定を編集します。各タブ上の設定については、以降の項で説明します。
5. [Save]をクリックして変更内容を適用します。

---

#### 注記:

現在処理中のイベントには、変更は適用されません。

---

### [General]タブ

[General]タブでは、イベントの説明のみを編集できます。イベントの名前は変更できません。

## [Configuration]タブ

[Configuration]タブでは、次の項目を指定できます。

フィールド	説明
[Message Type]	Selective ArchivingイベントでIAPにアーカイブするアイテムの種類を指定します。 <ul style="list-style-type: none"><li>・ 予定表 (IPM.Appointment)</li><li>・ ドキュメント (IPM.Document)</li><li>・ 標準の電子メールメッセージ (IPM.Note) セキュリティ保護および暗号化された電子メールを含みます。</li><li>・ 仕事 (IPM.Task)</li><li>・ すべての項目 (Stealth Archivingにのみ適用)</li><li>・ パブリックフォルダメッセージ</li><li>・ クォーターアーカイブスレッシュホールド</li></ul>
[Default Routing Address(es)]	すべてのアイテムの追加のアーカイブ先となるアドレス (IAPレポジトリに一致するアドレス) のリスト。「 <a href="#">[Default Routing Address]</a> 」(26ページ)を参照してください。
[Capture Email with TNEF]	選択すると、TNEF (Transport Neutral Encapsulation Format) を使用してメッセージが保存されます。選択していない場合は、MIME形式でメッセージが保存されます。TNEFの詳細については、「 <a href="#">TNEFメッセージ形式</a> 」(25ページ)を参照してください。
[Trim Attachments]	[Yes]を選択すると、メッセージをアーカイブするときに添付ファイルが削除され、tombstone化されたメッセージ内でプロキシファイルと入れ替えられます。 Outlookのプロキシは、そのファイル名のArchiveInfo.htmで表示されます。OWAのプロキシは、その表示名のAttachment Info.htmで表示されます。
[Trim Message Body]	[Yes]を選択すると、tombstoneからメッセージの本文が削除されます。
[Stealth Archiving]	[Yes]を選択すると、メッセージ本文がtombstoneで置換されなくなります。 [Stealth Archiving]を選択すると、[Trim Attachments]および[Trim Message Body]は無効化されます。

## [IAP Domain]タブ

[IAP Domain]タブには、アーカイブされたメッセージを収集するIAPに関する情報が表示されます。

フィールド	説明
[IAP Domain]	IAPドメインの名前。ジャーナルメールボックスからの電子メールはここに保存されます。既知のドメイン名のいずれかをメニューから選択できます。 このフィールドの値を変更すると、次の3つの値も変更されます。
[Domain ID]	上記のIAPドメイン名と一致するドメインID。ドメインIDは、Domain.jcmlのドメインID属性と完全に一致しなければなりません。

フィールド	説明
[Domain VIP (SMTP)]	SMTP配信で使用するIAP Virtual IP (VIP)。
[IAP HTTP Portal]	HTTP配信で使用するIAP Virtual IP (VIP)。

△ **注意:**

[Domain ID]、[Domain VIP (SMTP)]、または[IAP HTTP Portal]の値を変更するには、最初に[Override Domain Information]を選択しておく必要があります。ただし、HPの担当者から指示がある場合以外は変更しないでください。

## [Advanced]タブ

[Advanced]タブでは、すべてのイベントパラメーターの値を確認できます。HPサポートからの指示があった場合は、[Edit]をクリックして、これらの値を編集します。

## Selective Archivingイベントのコピー

イベントをコピーするには、以下の手順に従ってください。

1. [Configuration] > [Archive Engine] > [Archive Events]の順に選択します。操作の詳細については、「[HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作](#)」(22ページ)を参照してください。
2. [Archive Events]ペインからイベントを選択します。
3. ウィンドウの右側にある[Actions]ペインで[Copy]をクリックします。  
「Copy of (オリジナルのイベント)」という名前のイベントが新しいウィンドウに表示されます。
4. イベントに新しい名前を付け、[Configuration]タブ上で必要に応じて変更を行います。

## Selective Archivingイベントの削除

スケジュール済みSelective Archivingイベントを削除するには、以下の手順に従ってください。

1. [Configuration] > [Archive Engine] > [Archive Events]の順に選択します。操作の詳細については、「[HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作](#)」(22ページ)を参照してください。
2. [Archive Events]ペインからイベントを選択し、[Remove]をクリックします。  
イベントを削除してよいかどうかを確認するダイアログボックスが表示されます。
3. [Yes]をクリックしてイベントを削除します。  
対応するPolicy Engineルールも削除されます。

## Selective Archivingイベントの実行

Selective Archivingイベントを実行させるには、イベントを有効化し、対応するPolicy Engineルールのスケジュールを設定する必要があります。イベントが有効化されているか無効化されているかは、[Archive Events]ペインの[State]列でチェックできます。対応するルールのスケジュールが設定されているかどうかは、[Policy Engine]列で確認できます。

アーカイブイベントを有効化または無効化するには、[Archive Events]ペインからイベントを選択し、ウィンドウの右側にある[Actions]ペインで以下のいずれかをクリックします。

- [Enable All]
- [Disable All]
- [Enable]
- [Disable]

Selective Archivingイベントに対応するPolicy Engineルールのスケジュールを設定する必要がある場合は、「[Selective Archivingルールの編集](#)」(56ページ)を参照してください。

Selective Archivingイベントを有効化し、対応するPolicy Engineルールのスケジュールを設定した後は、スケジュールされたタイミングでイベントが自動的に実行されます。

Selective Archivingイベントを無効化する場合は、Policy Engine内の対応するルールを必ず無効化してください。

## Policy Engineルールの手動での実行

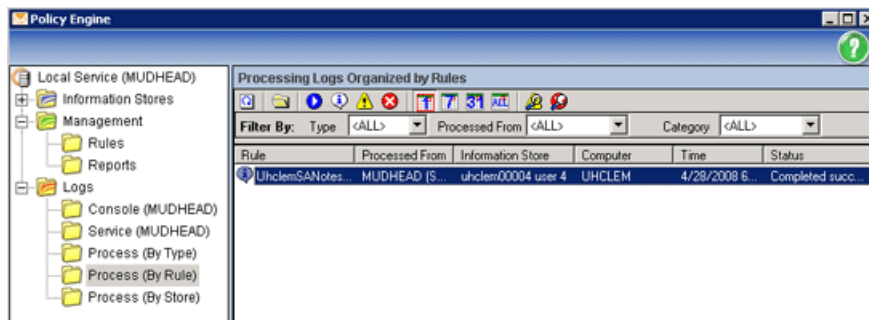
Policy Engineルールをスケジュール設定しないで手動で実行するには、以下の手順に従ってください。なお、ルールを正しく動作させるには、対応するSelective Archivingイベントを有効化しておく必要があります。

1. アーカイブサービスアカウントを使用してArchive Gatewayにログオンし、HP EAsEソフトウェアを起動します（「[EAsEソフトウェアの起動](#)」(21ページ)を参照）。
2. [Configuration] > [Policy Engine]の順に選択します。
3. [Launch]をクリックしてPolicy Engine管理アプリケーションを起動します。
4. [Policy Engine]ウィンドウの左ペインで、[Management]フォルダを展開して[Rules]を選択します。
5. [Policy Engine]ウィンドウでルールを右クリックして、[Process Now]を選択します。

ルールの処理を追跡するには、以下の手順に従ってください。

1. [Policy Engine]ウィンドウの左ペインで、[Logs]を展開します。
2. [Process (By Rule)]を選択します。

右ペインにログエントリが表示されます。



3. エントリをダブルクリックして、ログ情報を表示します。



## 9 Tombstone Maintenanceの使用

メッセージを選択的にアーカイブするか、PST Import ManagerでIAPにインポートする場合は、ユーザーのメールボックスやPSTファイル内にtombstoneを作成できます。tombstone化とは、メッセージからコンテンツを削除し、IAPに保存されているアーカイブメッセージへのリンクに置き換えることです。Selective Archiving イベントやPSTインポートの設定に応じて、以下のように制御します。

- ・ tombstone化を有効にしません。
- ・ メッセージの添付ファイルだけをtombstone化します。
- ・ 添付ファイルとメッセージ本文の両方をtombstone化し、メッセージのヘッダーのみを残します。

tombstone化を有効にした場合は、Tombstone Maintenanceイベントを使用した従来のメール項目の更新、tombstone化されたメッセージのOutlook Web Accessでの表示、およびtombstone化された項目の場所の同期が行われます。

Tombstone Maintenanceイベントとイベントに対応するルールの設定については、以下のトピックで説明します。

- ・ [Tombstone Maintenanceイベントの設定](#) (73ページ)
- ・ [フォルダの取得を使用したTombstone Maintenanceの設定](#) (74ページ)

### Tombstone Maintenanceイベントの設定

Tombstone Maintenanceイベントとそのイベントに対応するルールを使用して、従来のメール項目を更新し、アーカイブされたメッセージをOutlook Web Accessに表示します。

#### 注記:

Tombstone Maintenanceイベントは、tombstone化されたすべてのメッセージを調べる集中的なプロセスになるため、使用はなるべく控えてください。ソフトウェアアップグレード後にこのイベントを1回実行することをお勧めします。その結果、tombstone化された項目は、新しくインストールしたソフトウェアバージョンに対応したものになります。ソフトウェアのアップグレードに伴ってこのイベントを実行した後は、実際のニーズに応じて数ヶ月ごとにこのイベントを実行することをお勧めします。

イベントとそのイベントに対応するルールを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. ウィンドウの右側にある[Actions]ペインで、[New Archive Event]をクリックします。
2. 表示されたダイアログボックスで、[Tombstone Archiving]を選択し、[OK]をクリックして[Create Archive Event]ウィンドウを表示します。

3. イベントのわかりやすい名前を[Name]ボックスに入力し、必要に応じて説明を[Description]ボックスに入力します。

名前には、特殊文字を使用しないでください。

Tombstone Maintenanceイベントによってメッセージがメールボックスストアから削除されないように設定するには、以下の手順に従ってください。

- a. [Configuration]タブをクリックして[Configuration]ペインを表示します。
  - b. [Stealth Archiving]を選択します。
4. [Create]をクリックしてウィンドウを閉じ、イベントを作成します。  
Selective Archivingイベントと同じ名前のPolicy Engineルールが作成されたことを示すウィンドウが表示されます。
  5. [Launch Policy Engine Admin]をクリックしてPolicy Engineを起動します。
  6. [Policy Engine]ウィンドウの左ペインで、[Management]フォルダを展開して[Rules]を選択します。
  7. 右ペインでtombstoneルールをダブルクリックします。  
このルールには、EAsE Archive Engineで作成したイベントと同じ名前が付与されています。
  8. 次の表に示すように、ルールを設定します。

タブ	設定
[Information Stores]	アーカイブするメールボックスを選択します。「[Information Stores]タブ」(57ページ)を参照してください。
[Folders]	アーカイブ対象のメッセージを含むOutlookフォルダを選択します。「[Folders]タブ」(59ページ)を参照してください。
[Conditions]	[Message Class]は編集しないでください。追加の条件を指定できます。
[Actions]	編集しないでください。
[Schedule]	ルールをスケジュールリングします。「[Schedule]タブ」(68ページ)を参照してください。

9. [OK]をクリックします。

## フォルダの取得を使用したTombstone Maintenanceの設定

IAPとEAsEでフォルダの取得が有効な場合、Tombstone Maintenanceイベントを作成して、Exchangeでtombstone化された項目のフォルダの場所とIAPに保存されているフォルダ情報を同期させることができます。フォルダの取得の詳細については、「[フォルダの取得の使用](#)」(81ページ)を参照してください。

この同期イベントは、アーカイブされたメッセージのフォルダ情報がIAPに送信済みであるかどうかを判定します。IAPに送信されていない場合は、フォルダ情報をメールボックスの所有者のレポジトリに送信します。メッセージのフォルダ情報が送信済みの場合は、現在のフォルダパスを調べて変更されたかどうかを判定します。パスが変更されている場合は、メールボックスの所有者のレポジトリにあるフォルダ情報を更新します。

このイベントは、頻繁に実行する必要はありません。また、標準のTombstone Maintenanceイベントに比べて集中的な処理ではありません。

イベントとそのイベントに対応するルールを設定するには、以下の手順を実行します。

1. ウィンドウの右側にある[Actions]ペインで、[New Archive Event]をクリックします。

2. 表示されたダイアログボックスで、[Tombstone Archiving]を選択し、[OK]をクリックして[Create Archive Event]ウィンドウを表示します。
3. イベントのわかりやすい名前を[Name]ボックスに入力し、必要に応じて説明を[Description]ボックスに入力します。  
名前には、特殊文字を使用しないでください。
4. [Configuration]タブをクリックして[Configuration]ペインを表示します。
5. [Folder Synchronization]を選択します。  
Tombstone Maintenanceイベントによってメッセージがメールボックスストアから削除されないように設定するには、[Stealth Archiving]を選択します。
6. [Create]をクリックしてウィンドウを閉じ、イベントを作成します。  
Selective Archivingイベントと同じ名前のPolicy Engineルールが作成されたことを示すウィンドウが表示されます。
7. [OK]をクリックします。  
Policy Engineデータベースにイベントに対応するルールが作成されたことを示すダイアログボックスが表示されます。
8. [Launch Policy Engine Admin]をクリックしてPolicy Engineを起動します。
9. [Policy Engine]ウィンドウの左ペインで、[Management]フォルダを展開して[Rules]を選択します。
10. 右ペインでtombstoneルールをダブルクリックします。  
このルールには、EAsE Archive Engineで作成したイベントと同じ名前が付与されています。
11. 次の表に示すように、ルールを設定します。

タブ	設定
[Information Stores]	アーカイブするメールボックスを選択します。「[Information Stores]タブ」(57ページ)を参照してください。
[Folders]	アーカイブ対象のメッセージを含むOutlookフォルダを選択します。「[Folders]タブ」(59ページ)を参照してください。
[Conditions]	[Message Class]は編集しないでください。
[Actions]	編集しないでください。
[Schedule]	ルールをスケジューリングします。「[Schedule]タブ」(68ページ)を参照してください。

12. [OK]をクリックして、ルールを保存します。



## 10 エンドユーザー削除の設定

Exchangeは、Outlookのエンドユーザー削除済みアイテムを対象とする設定可能な保管期間をサポートしています。その期間が過ぎると、削除されたメッセージはExchangeメールボックスストアから永久に削除されます（完全削除）。

エンドユーザーがtombstone化されたアイテムを削除した場合は、IAP内でTombstone参照を削除してアイテムの削除を反映する必要があります。IAP 2.xは、アーカイブされたアイテムからユーザーレポジトリの参照を削除します。フォルダの取得が有効な場合、フォルダの参照がアーカイブされたアイテムから削除されます。

削除されたアイテムを同調させるには、Exchangeで設定された保管期間内に実行されるSynchronized Deleted Itemsイベントとルールを作成します。

### 注記:

これらの保管設定は、IAP上のDomain.jcmlファイルの2つの属性（ユーザーレポジトリのデータの最短保管期間を定義するMinRegulatedRetentionPeriodDaysとMinUnRegulatedRetentionPeriodDays）に反映させる必要があります。

- ・ [削除済みアイテムの場所](#) (77ページ)
- ・ [Exchangeサーバーでの削除保管の有効化](#) (78ページ)
- ・ [IAPからの削除のスケジュール設定](#) (79ページ)

## 削除済みアイテムの場所

メールアイテムやtombstoneをOutlookから削除すると、そのアイテムは削除済みアイテムフォルダに移動します。ユーザーが「削除済み」アイテムフォルダを空にするなどの操作を行うまでそこに保管されません。削除済みアイテムフォルダを空にすると、削除されたアイテムがExchangeサーバー上にある中間のDumpsterストレージに移動します。削除されたアイテムは、Exchangeの保管期間が経過するか、Synchronize Deleted Itemsルールが実行されるまで、そのまま保管されます。

EAs Exchangeは、削除済みアイテムフォルダおよびDumpsterの両方からのアイテムの削除をサポートしています。Dumpsterは、必ず削除される場所です。削除済みアイテムフォルダは任意で、組織内のポリシーに左右されます。場所の選択は、Synchronize Deleted Itemsルール内で行われます。

tombstone化されたアイテムをOutlookから削除すると、Synchronize Deleted ItemsイベントとルールによってIAPにアーカイブされたメッセージからtombstoneへの参照が削除されます。このルールでは、tombstone化されていないアイテムをExchange Dumpsterから削除するように設定することもできます。これにより、削除したアイテムをExchangeサーバーからより迅速に除去できるようになります。

## 削除済みアイテムタグ

メールアイテムの削除を柔軟に処理するために、廃棄処理の対象などの条件によって削除に失敗したアイテムにタグが追加されます。タグは、カスタムMAPIプロパティのPTDelStatusとして追加されます。

PTDelStatusタグがメールアイテムに存在するときは、そのアイテムの削除が試行され、失敗したことを示しています。アイテムの削除は、IAPの保管に関する問題が発生した場合、IAPが無効になっている場合、

または調整に関する別の問題が発生した場合に失敗します。このため、定期的にそのようなアイテムを検索するためにPolicy Engineルール内でタグが使用されます。

よく調整されているシステムでは、PTDelStatusタグ付きで残っているアイテムは存在しません。

## Exchangeサーバーでの削除保管の有効化

### Exchange 2007以降の場合:

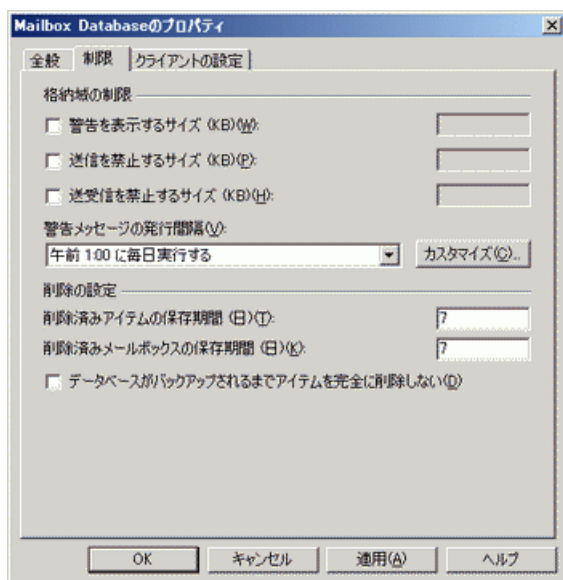
Exchangeサーバー上で削除保管を有効にするために、各メールボックスストアで次の設定を指定します。

1. Exchangeサーバーにログオンします。
2. Exchange管理コンソールを開きます。
3. [サーバーの構成]を展開して、[メールボックス]をクリックします。

コンソールの下部に、ストレージグループおよび関連付けられたメールボックスデータベースが表示されます。

4. メールボックスデータベースを右クリックして、[プロパティ]を選択します。
5. [制限]タブをクリックし、値を[削除の設定]に割り当てます。

[削除済みアイテムの保存期間 (日)]および[削除済みメールボックスの保存期間 (日)]パラメーターを7に設定することをお勧めします。



6. [適用]をクリックし、次に[OK]をクリックします。
7. 該当する各ストレージグループおよびメールボックスデータベースについて、手順4～6を繰り返します。

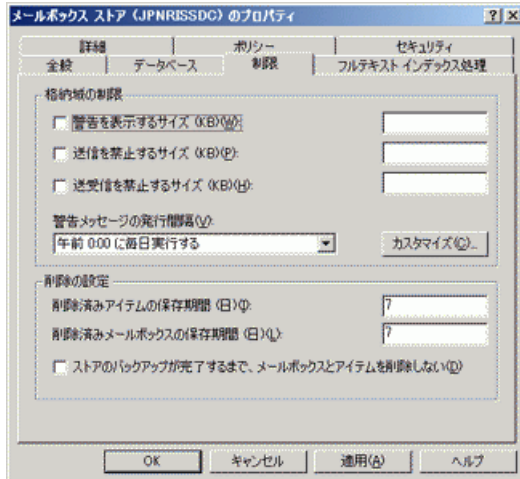
### Exchange 2007以前のExchangeサーバーの場合

Exchangeサーバー上で削除保管を有効にするために、各メールボックスストアに次の設定を割り当てます。

1. Exchangeサーバーにログオンします。

- Exchangeシステムマネージャを開いて、ストレージグループおよびメールボックスストアにアクセスします。
- メールボックスストアを右クリックして、[プロパティ]を選択し、[プロパティ]ダイアログボックスを表示します。
- [制限]タブをクリックし、値を[削除の設定]に割り当てます。

[削除済みアイテムの保存期間 (日):]および[削除済みメールボックスの保存期間 (日):]パラメーターを7に設定することをお勧めします。



- [適用]をクリックし、[OK]をクリックします。
- 該当する各ストレージグループおよびメールボックスストアについて、手順3～5を繰り返します。

## IAPからの削除のスケジュール設定

メッセージの削除またはtombstoneの参照の削除をスケジュール設定するには、Synchronize Deleted Itemsイベントを作成して有効にし、Policy Engineで対応するルールを設定します。

### イベントの作成

- [Configuration] > [Archive Engine] > [Archive Events]の順に選択します。操作の詳細については、「[HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作](#)」(22ページ)を参照してください。
- ウィンドウの右側にある[Actions]ペインで、[New Archive Event]をクリックします。
- 表示されたダイアログボックスで、[Synchronize Deleted Items]を選択し、[OK]をクリックして[Create Archive Event]ウィンドウを表示します。
- イベントのわかりやすい名前を[Name]ボックスに入力し、必要に応じて説明を[Description]ボックスに入力します。  
名前には、特殊文字を使用しないでください。
- [Configuration]タブをクリックして[Configuration]ペインを表示します。  
ほとんどの場合はデフォルト値が適切ですが、実際の状況に応じて値を変更できます。
- [Create]をクリックしてウィンドウを閉じ、イベントを作成します。  
Selective Archivingイベントと同じ名前のPolicy Engineルールが作成されたことを示すウィンドウが表示されます。
- [Launch Policy Engine Admin]をクリックしてPolicy Engineを起動します。



対応するPolicy Engineルールの設定を次の項に従って続行します。

## Policy Engineルールの作成

Policy Engineルールを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. [Policy Engine]ウィンドウの左ペインで、[Management]フォルダを展開して[Rules]を選択します。
2. 右ペインで[Synchronize Deleted Items]ルールをダブルクリックします。ルールには、作成したイベントと同じ名前が付与されています。
3. [Information Stores]タブで、アーカイブ対象のメールボックスを選択します。  
「[Information Stores]タブ」(57ページ)を参照してください。
4. [Folders]タブで、以下の操作を行います。
  - a. アーカイブするフォルダを選択します。
  - b. [Include the default Recover Deleted Items folder (Dumpster)]チェックボックスがオンになっていることを確認します。

### ❗ 重要:

[Include all other Recover Deleted Items folders]チェックボックスはオンにしないでください。このチェックボックスをオンにすると、削除を指定していないアイテムがIAPから削除される可能性があります。

5. [Conditions]タブで、削除対象のアイテムを決定します。

ルールは、Dumpsterのアイテムだけを選択することも、Dumpsterおよび削除済みアイテムフォルダのアイテムを選択することもできます。両方に条件設定すると、ルールは、削除済みアイテムフォルダとDumpsterで対象のアイテムを検索します。

- ・ デフォルトの条件はDumpsterのアイテムの削除です。この条件は必須です。Dumpsterのアイテムのみを削除する場合は、[Conditions]タブでは変更を行わないようにしてください。
- ・ ルールを使用してDumpsterのアイテムのみでなく削除済みアイテムフォルダのアイテムも削除する場合は、[Add]、[Test Keyword Conditions]、[Test Message Keywords]の順に選択し、[OK]をクリックします。

[Edit the Condition]ウィンドウで、[Edit Value]をクリックして、次の表に示す3つのフィールドを編集し、[OK]をクリックします。

[FOLDER_NAME]	[Equals]	[Deleted Items]
---------------	----------	-----------------

6. [Actions]タブは編集しないでください。
7. [Schedule]タブで、スケジュールを設定して、アイテムが保管期間内に削除されるようにしてください。詳細については、「[Schedule]タブ」(68ページ)を参照してください。



# 11 フォルダの取得の使用

フォルダの取得機能は、メッセージのOutlookフォルダの場所を取得し、IAP内の対応するアーカイブ済みドキュメントを更新します。フォルダの場所 (例: /Inbox/project) は、アーカイブされた電子メールにメタデータとして保存されます。

この章では、HP EAs Exchangeソフトウェアでフォルダの取得を使用する方法および使用の効果について説明します。

- ・ 3つのタイプのイベント:
  - ・ Selective Archiving
  - ・ Tombstone Maintenance (Tombstone Folder Synchronization)
  - ・ Synchronize Deleted Items
- ・ PST Import Manager

フォルダの取得は、Compliance Archivingでは使用できません。

この章では、次のトピックについて説明します。

- ・ [フォルダ情報のインデックス作成 \(81ページ\)](#)
- ・ [フォルダの取得の有効化 \(82ページ\)](#)
- ・ [アーカイブイベントでフォルダの取得を使用する方法 \(83ページ\)](#)
- ・ [フォルダの取得と重複メッセージの結合 \(84ページ\)](#)

## フォルダ情報のインデックス作成

フォルダ情報のインデックスを作成すると、エンドユーザーやコンプライアンス担当者は、IAPに保存されているメッセージをフォルダ名で検索して取得できます。このフォルダ情報をコンテンツインデックスに追加すると、IAPのSmartCellでより多くのディスクスペースが使用され、特にアーカイブされたメッセージがIAPに大量に含まれている場合は、システムパフォーマンスに影響を及ぼす可能性があります。

フォルダ情報が追加されたときにインデックスを作成し直す場合、対象になるアーカイブされたメッセージ数を制限するために、HPのサポート窓口ではIAPに期限日を指定しています。期限日以前に保存されたメッセージは、メタデータのみが更新されますが、期限日以後に保存されたメッセージは、メタデータとインデックスの両方がフォルダ情報を使用して更新されます。[IAP上でのフォルダの取得の有効化](#)を参照してください。

### 注記:

多数のクローズされたSmartCellがIAPシステムに含まれているときにインデックスが作成されたフォルダ情報を追加した場合、特に期限日がかなり以前に設定されていると、使用可能なディスクスペースがすぐになくなってしまふ可能性があります。この場合、「[DiskSpaceBufferエラー](#)」(126ページ)で説明するエラーが発生します。このエラーの発生を防ぐために、期限日をシステムのアップグレード日に設定し、新しい電子メールに対してのみインデックスが作成されるようにすることをお勧めします。

## フォルダの取得の有効化

フォルダの取得を機能させるには、IAPとHP EAs Exchangeの両方で有効にする必要があります。

HP EAs Exchangeでは、フォルダの取得はデフォルトで有効にされています。IAPでは、デフォルトで無効にされています。

HP EAs Exchangeのフォルダの取得は、Global Configurationファイルで有効（または無効）にするか、特定のアーカイブイベントに対して有効（または無効）にすることができます。

### IAP上でのフォルダの取得の有効化

IAPドメインのフォルダの取得は、キックスタートサーバーの/install/configs/primary/にあるDomain.jcmlファイルで設定します。フォルダの取得が有効な場合、HPサポート窓口は、IAPドメインのFolderSupportEnabledパラメーターをTrueに設定します。

フォルダ情報のインデックス作成は、期限日とともにDomain.jcmlのFolderSupportAutoReindexCutoffDateパラメーターで有効にします。

### グローバルアーカイビング設定ファイルを使用したフォルダの取得の有効化

HP EAs Exchangeのフォルダの取得は、Archive Gatewayのグローバル設定ファイル(G:\Mining\Selective Archiving\HPAE.ini)でデフォルトで有効にされています。UseFolderCaptureパラメーターがファイル内の複数の場所にあります。

- Selective Archivingの場合:  
[ExchSelectiveArchiving]  
UseFolderCapture=True
- Tombstone Maintenance (Tombstone Folder Synchronization) の場合:  
[ExchStubMaintenance]  
UseFolderCapture=True
- Synchronize Deleted Itemsの場合:  
[ExchDeleteSynch]  
UseFolderCapture=True (このイベントタイプを有効にする場合は、手動で追加する必要があります)

フォルダの取得を全体で無効にするには、Falseを設定します。

### 特定のイベントに対するフォルダの取得の有効化

フォルダの取得を使用できるイベントタイプの場合、特定のイベントの設定を有効（または無効）にすることができます。特定のイベントに設定すると、HPAE.iniファイルで割り当てられた設定を上書きします。

イベントの上書きは、G:\Mining\Selective Archiving\Eventsにある別の.iniファイルに配置されます。

1. EAsEソフトウェア内で、フォルダの取得を有効化するイベントを探し、[Edit]をクリックします。
2. [Advanced]タブをクリックしてイベントの詳細設定を表示します。
3. [Edit]をクリックして、設定の編集を有効にします。

4. グローバル値を上書きして、イベントのフォルダの取得を有効または無効にするためには、イベントタイプに応じて、[ExchSelectiveArchiving]、[ExchStubMaintenance]、または[ExchDeleteSynch]の領域で、「UseFolderCapture=True」または「UseFolderCapture=False」と入力します。
5. [Update]をクリックし、次に[Save]をクリックして変更を適用します。

## PST Import Managerを使用したフォルダの取得の有効化

PST Import Managerのフォルダの取得は、グローバル設定ファイル(\Program Files\Hewlett-Packard\HP EAsE PST Importer\HP EAsE PST Importer.ini)でデフォルトで有効にされています。

グローバル設定ファイルのUseFolderCaptureの値は、個々のPSTインポートで上書きできます。PSTインポート中にフォルダ情報を取得するかどうかをArchive Requestファイルで指定します。このArchive Requestファイルの設定方法については、「[Archive Requestファイルの作成または改訂](#)」(95ページ)を参照してください。

インポートの上書きは、\Program Files\Hewlett-Packard\HP EAsE PST Importer\PSTLoadの該当する.iniファイルに記載されます。

## アーカイブイベントでフォルダの取得を使用する方法

以下の各項では、フォルダの取得が有効な場合にスケジュール済みアーカイブイベントがどのように動作するかについて説明します。

### フォルダの取得とSelective Archivingイベント

メッセージがIAPに送信されたときにフォルダの取得が有効な場合、Selective Archivingイベントは、フォルダ情報をメールボックスの所有者のレポジトリに送信します。作成されたtombstoneには、IAPに保存されたフォルダの場所が含まれています。

Selective Archivingイベントでアーカイブ済みのメッセージが見つかった場合、メッセージは、Tombstone Folder Synchronizationイベントと同じ方法で処理されます(下記を参照)。ただし、Selective Archivingルールで事前に定義した設定を使用する場合は除きます。

### フォルダの取得とTombstone Folder Synchronizationイベント

フォルダの取得が有効な場合、Tombstone Folder Synchronizationイベントは、アーカイブされたメッセージのフォルダ情報がIAPに送信済みであるかどうかを判定します。IAPに送信されていない場合は、フォルダ情報をメールボックスの所有者のレポジトリに送信します。メッセージのフォルダ情報が送信済みの場合は、現在のフォルダパスを調べて変更されたかどうかを判定します。パスが変更されている場合は、メールボックスの所有者のレポジトリにあるフォルダ情報を更新します。使用する手順については、「[フォルダの取得を使用したTombstone Maintenanceの設定](#)」(74ページ)を参照してください。

### フォルダの取得とSynchronize Deleted Itemsイベント

Synchronize Deleted Items (通称エンドユーザー削除)は、「[エンドユーザー削除の設定](#)」(77ページ)に説明されているオプションイベントです。このSynchronize Deleted Itemsイベントは、tombstone化されたメッセージをユーザーのメールボックスから削除する際に、それに同期してIAPにあるtombstoneへの参照を削除します。

フォルダの取得が有効な場合、Synchronize Deleted Itemsイベントは、tombstone化されたメッセージのフォルダ情報が送信済みであるかどうかを判定します。送信済みの場合、アーカイブされた項目のフォル

ダ削除要求がメールボックスの所有者のレポジトリに送られます。フォルダ情報が送信されていない場合、Synchronize Deleted Itemsイベントは、項目の親フォルダに基づいてフォルダ情報を送信して削除します。

Synchronize Deleted Itemsイベントとルールの設定については、「[IAPからの削除のスケジュール設定](#)」(79ページ)を参照してください。

---

#### 注記:

現在、[Synchronize Deleted Items]イベントウィンドウの[Remove Folder Referenced In Item Only (アイテム内で参照されているフォルダのみを削除)]設定は動作しません。

---

## フォルダの取得とPST Import Tools

フォルダの取得が有効な場合、アーカイブされていないアイテムは、Selective Archivingイベントと同様に処理されます。tombstone化済みのアイテムがPSTファイルで見つかった場合は、Tombstone Folder Synchronizationイベントと同様に処理されます。フォルダ情報は、Archive Requestファイルに記載されたUser Repositoryアドレス (<Repository>タグ) に基づいて送信または更新されます。

PST Import Managerの説明については、[第13章](#) (91ページ)を参照してください。Archive Requestファイルの説明については、「[PST Import Tools: Archive Requestファイルの仕様](#)」(139ページ)を参照してください。

## フォルダの取得と重複メッセージの結合

IAPソフトウェアのDuplicate Managerは、アーカイブされた電子メールが重複している場合、メッセージを1つのインスタンスに結合します。IAP 2.0以前では多くの場合、重複メッセージがシステムに保存されていました。たとえば、メッセージの受信者ごとにメッセージのコピーが保存されました。現在では、Duplicate ManagerをIAPで有効にした場合、集められた重複データが1つの結合メッセージに含まれます。

IAPシステムをアップグレードして、Duplicate Managerとフォルダの取得を使用する場合は、IAPでフォルダの取得を有効にする前に最初の結合ジョブを実行することをお勧めします。Duplicate Managerの初回の実行は、現在システムにアーカイブされている重複メッセージを結合し、結合されたメッセージのインデックスを作成し直すため、パフォーマンスが集中する処理になります。メッセージを結合してからフォルダデータを取得する方がはるかに効率的な方法です。

最初の結合ジョブの後にフォルダの取得を有効にすると、次の問題を回避することもできます。

- Synchronize Deleted Items (エンドユーザー削除) を有効にしても、ドキュメントが削除されない。
- OutlookのIntegrated Archive SearchまたはIAP Webインターフェイスのどちらでも、検索機能に悪影響を与える。

重複データの結合と同時にフォルダの取得を実行すると、フォルダ情報が正しく更新されないため、フォルダ名での検索が難しくなる可能性があります。

## 12 パフォーマンスの監視

EAsEソフトウェアには、システムの稼働状態とパフォーマンスを監視するためのツールがいくつか用意されています。

監視ツールを使用するには、以下の手順に従ってください。

1. アーカイブサービスアカウントを使用してArchive Gatewayにログオンし、HP EAsEソフトウェアを起動します（「EAsEソフトウェアの起動」(21ページ)を参照）。
2. [Monitoring]に移動します。操作の詳細については、「HP EAs Exchangeソフトウェア内での移動操作」(22ページ)を参照してください。

[Monitoring]ページには、システムの全体的なパフォーマンスに関するステータスが表示されます。このページ上の個々のリンクをクリックするか、または左ペインのツリーコントロール内の対応する項目をクリックすると、詳細情報が表示されます。

## アラートの監視

[Alerts]パネルには、Archive Engine内のイベントに関する履歴情報が表示されます。イベントをクリックすると、そのイベントの詳細が表示されます。

Date	Category	Name	Description
1/14/2010 12:05:35 PM	Service	Not Running	Archive Engine is not running
1/14/2010 12:05:35 PM	Service	Not Running	Policy Engine is not running
1/14/2010 12:05:35 PM	Service	Optional Service Not Running	Microsoft Virtual SMTP is not running
1/14/2010 12:05:35 PM	Service	Not Running	SMTP Task Scheduler is not running

General  
Detail  
Exception  
Resolve

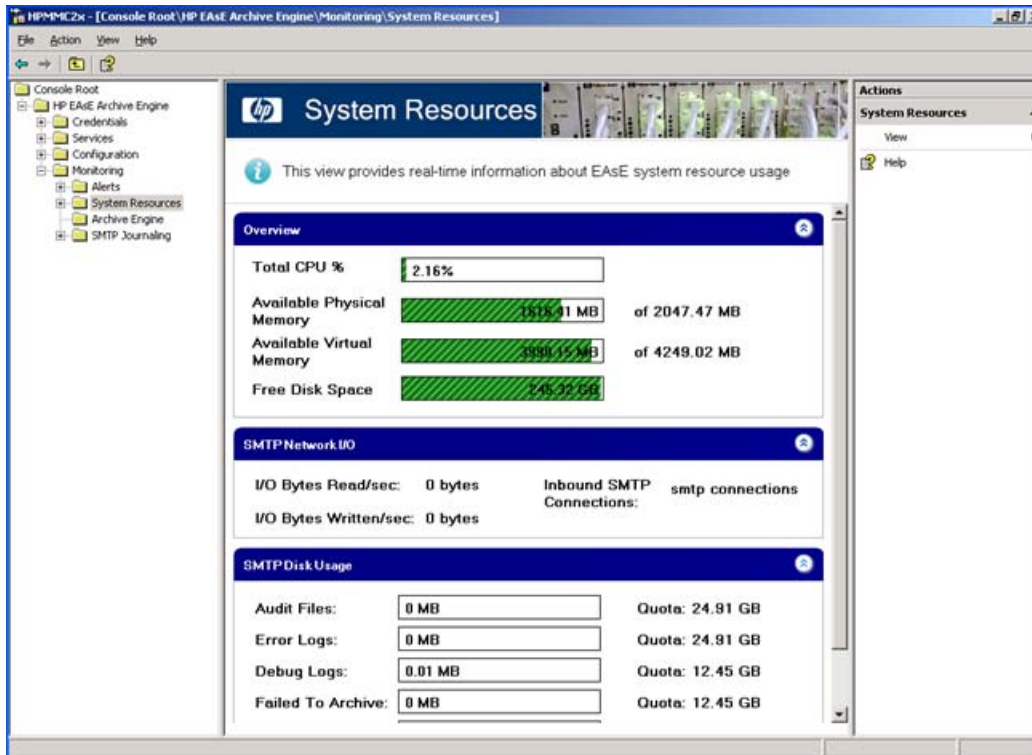
Microsoft Virtual SMTP is not running

This service is not required and can be left in a stopped state

## システムリソースの監視

[System Resources]ペインには、Archive Gatewayに関する以下の基本情報が表示されます。

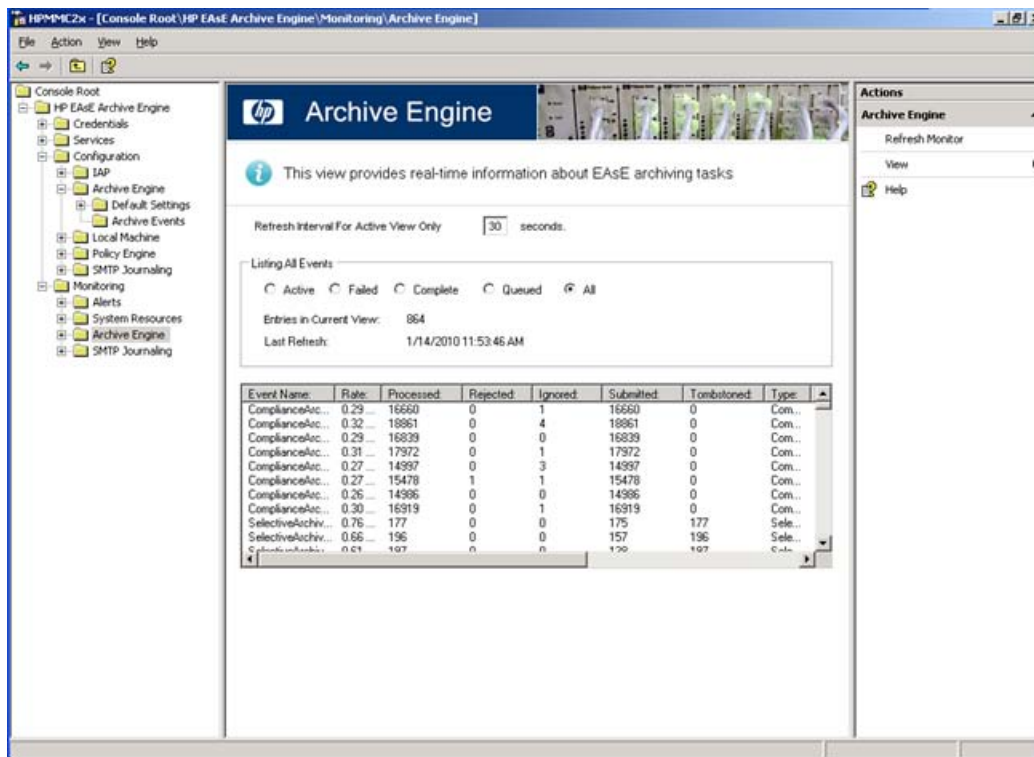
- CPU使用率
- メモリ使用量
- ディスク使用量
- SMTP接続
- SMTPディスク使用量



## Archive Engineのステータスの監視

[Archive Engine]ペインには、スケジュール設定されたイベントのステータスが表示されます。一連のラジオボタンによって、さまざまな条件で情報をフィルタリングできます。表示されるイベントごとに、各種の統計データが用意されています。





このペインの上部では、表示の更新間隔を設定できます。

ウィンドウの中央の領域にあるラジオボタンを使用すると、表示されるデータを処理ステータス単位でフィルタリングできます。

- [Active]: 現在アクティブなスケジュール済みイベントのみが表示されます。
- [Failed]: [failed]ステータスのイベントのみが表示されます。
- [Complete]: [complete]ステータスのイベントのみが表示されます。
- [Queued]: [queued]ステータスのイベントのみが表示されます。
- [All]: すべてのイベントが表示されます。

このペインの下部には、選択したフィルタータイプに従ってイベントデータが表示されます。イベントごとのデータは、12の異なる列に分割されます。一部の列は特定のイベントタイプと無関係な場合があることに注意してください（たとえば、Compliance Archivingイベントが[Tombstoned]欄に値を表示することはありません）。

フィールド	説明
[Event Name]	イベントの名前。
[Rate]	処理速度です。 処理速度の計算方法は、イベントのフィルタリング方法によって異なります。[Active]フィルターの場合、処理速度は最後の更新以降の平均速度です。それ以外のフィルターでは、イベント実行全体の合計の処理速度です。
[Processed]	このイベントによって処理された項目の累積数です。
[Rejected]	このイベントによって処理を拒否された項目の累積数です。
[Ignored]	このイベントが処理を無視した項目の累積数です。

フィールド	説明
[Submitted]	このイベントによって項目がアーカイブ用にIAPに投入された場合の累積数です。
[Tombstoned]	このイベントによってtombstone化された項目の累積数です。
[Type]	イベントのタイプ。
[Elapsed Time]	イベントが動作した累積時間(秒)です。
[Last Run]	イベントが最後に正常に完了した時刻です。
[Log Information]	イベントの現在のステータスです。
[File Name]	イベントが処理中のデータファイル名です。

## SMTPプレミアムジャーナリングのステータスの監視

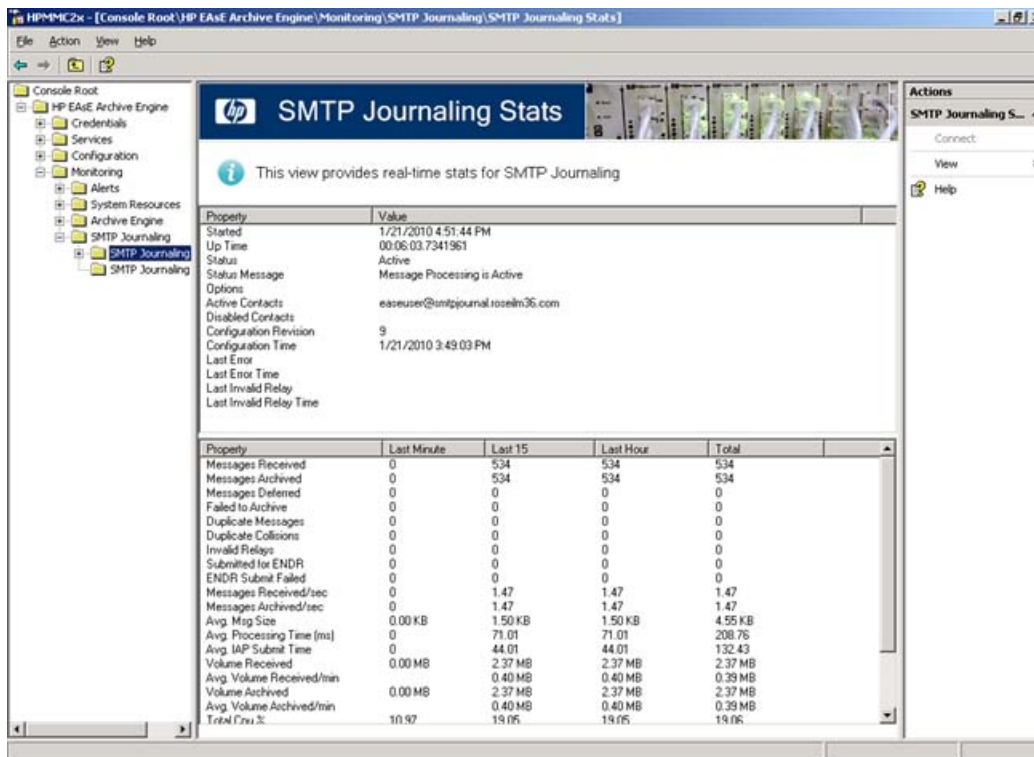
[SMTP Journaling]ペインには、SMTPプレミアムジャーナリングに使用されている各Archive Gatewayのステータスが表示されます。



## SMTPジャーナリングの統計情報

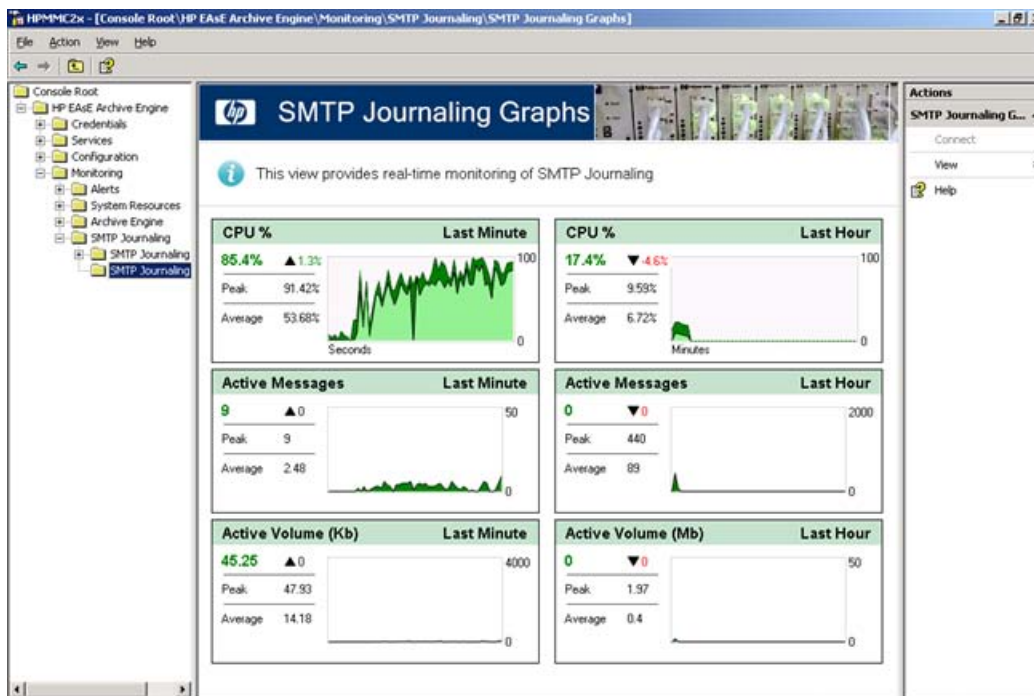
[SMTP Journaling Stats]ペインには、SMTPプレミアムジャーナリングの状態に関する統計情報が表示されます。これらの統計情報に基づいて、システムの稼働状態を監視できます。





## SMTPジャーナリンググラフ

[SMTP Journaling Graphs]ペインには、SMTPプレミアムジャーナリングの状態に関するグラフが表示されます。これらのグラフにより、システムが期待どおりに稼働しているかどうかを簡単に確認できます。





# 13 PST Import Managerを使用したアーカイブ

PST Import Managerツールでは、以下のことができます。

- ・ 従来のPSTファイルのIAPへのアーカイブ
- ・ 新しいメッセージを見つけアーカイブするためのPSTファイルのスキャン
- ・ アーカイブしたPSTファイル内のメッセージのtombstone化（オプション）

PST Import Managerのインストールと実行のためのシステム要件については、HP EAs Exchangeのサポートマトリックスを参照してください。

## ④ 重要:

ウイルス対策プログラム（特に電子メールメッセージを検査するプログラム）がPST Import Managerと競合し、正常な動作の妨げになることがあります。これは、PST Import Managerではアーカイブするすべてのメッセージに修正を加えますが、それらの修正内容をウイルス対策プログラムがウイルスによるものと誤認識することがあるためです。この問題を回避するには、ウイルス対策プログラムを無効化してからPST Import Managerを実行してください。

場合によっては、ウイルス対策プログラムを無効化するだけでは不十分なことがあります。ウイルス対策プログラムを無効化しているにもかかわらずPSTファイルのインポートに問題が生じる場合は、ウイルス対策プログラムをアンインストールしなければならないことがあります。

## PST Import Managerのインストール

この項では、PST Import Managerのインストール要件およびインストール手順を説明します。

### インストールの要件

インストールの前に、HP EAs Exchangeサポートマトリックスで示されているシステム要件をPST Import Managerのインストール先となるクライアントマシンが満たしていることを確認します。このサポートマトリックスのコピーは、HPの担当者から入手できます。

次の要件も満たす必要があります。

クライアントマシン上の要件

- ・ Microsoft管理コンソール（MMC）3.0
- ・ プロキシなしでのIAPのHTTPポータルへのアクセス
- ・ グローバルアドレス一覧（GAL）の名前解決のためのExchangeメールボックスへのアクセス
- ・ インポートされるメッセージを含むPSTファイルへの読み取り/書き込みアクセス
- ・ ログオンプロンプトなしでのOutlookおよびExchangeへのアクセス

---

#### 注記:

PST Import Managerは64ビットプラットフォーム上では動作しません。

---

IAPのソフトウェア要件

- ・ ログファイルとステータスレポートを受信する監査レポジトリ
- ・ クライアントマシンへのSMTPアクセス

## インストール手順

PST Import Managerは、必ず、クライアントマシンにインストールします。Archive Gatewayにはインストールしないでください。

---

#### 注記:

PST Import Managerをインストールするには、事前に、Microsoftの.NET Framework 2.0がクライアントマシンにインストールされていなければなりません。

---

クライアント上でツールのインストールまたは更新を行うには、以下の手順に従ってください。

1. クライアントマシンがインストール要件に適合していることを確認します。
2. HP EAsE Extensions CD上のPST ImporterフォルダにあるSetup.exeを実行します。
3. インストールウィザードの手順に従い、すべてのデフォルトを受け入れます。

## PST Import Managerの起動

PST Import Managerを起動するには、以下の手順に従ってください。

- ・ デスクトップ上のアイコンをダブルクリックします。
- ・ [スタート]メニューから選択します。

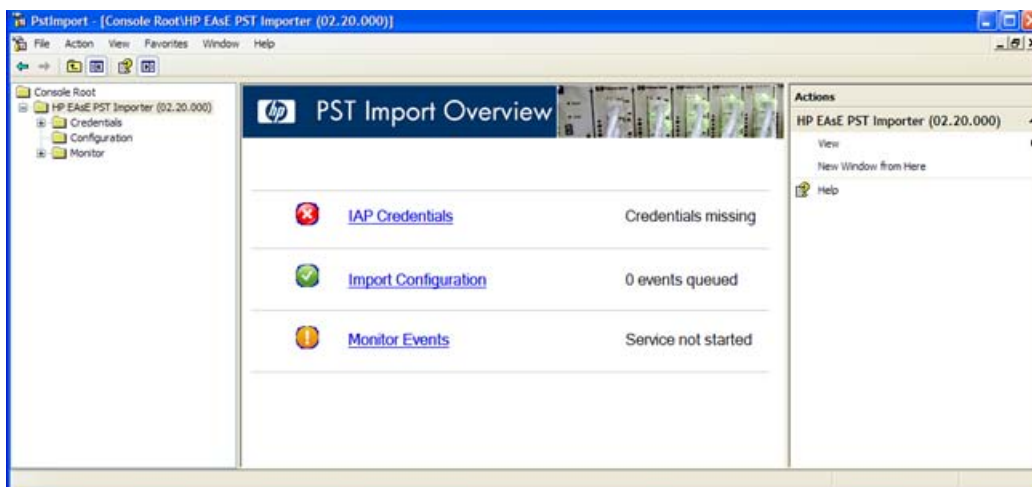
## アーカイブ認証情報の設定

PSTファイルのメッセージをアーカイブするには、アーカイブサービスアカウントがIAPへのアクセス権限をもつ必要があります。

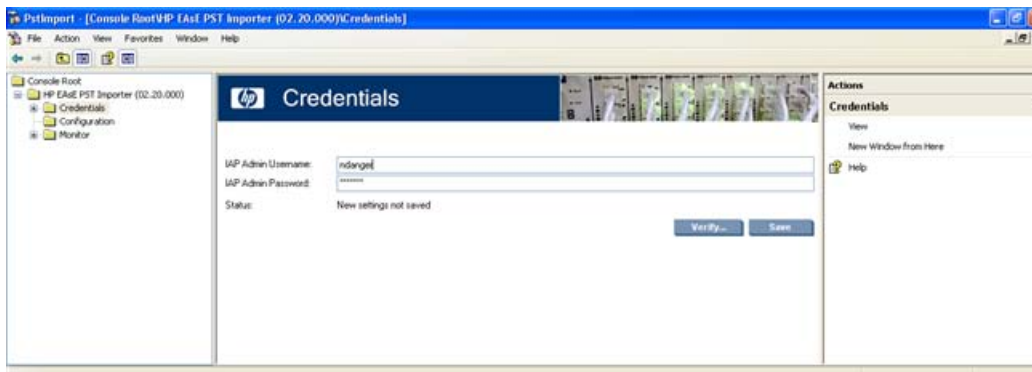
アーカイブ認証情報を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. PST Import Managerをデスクトップから起動するか、または[スタート] > [すべてのプログラム] > [Hewlett-Packard] > [Email Archiving software for Exchange] > [PST Import Tools] > [PST Import Manager]の順に選択します。

PST Import Managerコンソールが表示されます。



2. メインペイン内の[IAP Credentials]をクリックするか、またはPST Import Managerコンソールの左側にあるツリーコントロールから[Credentials]を選択します。

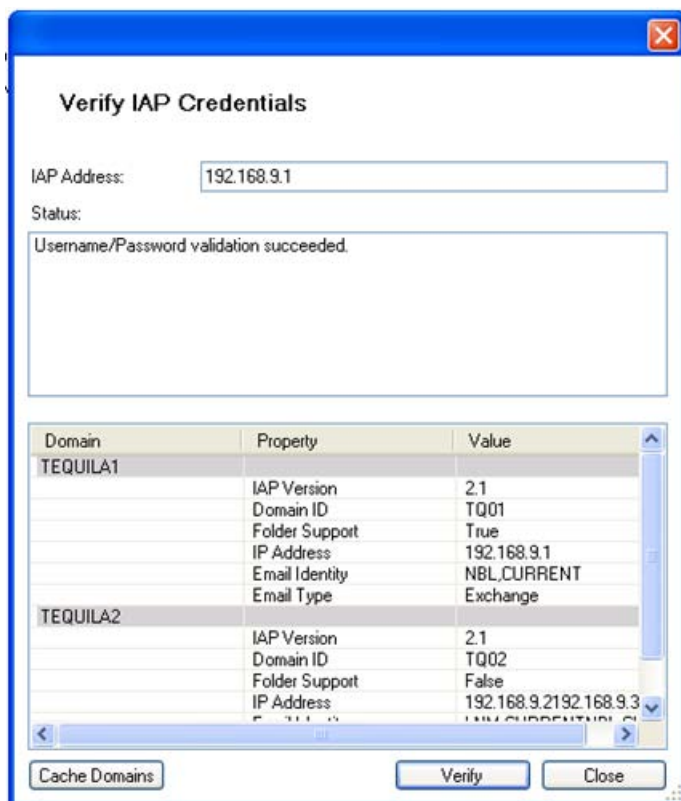


3. [IAP Admin Username]ボックスで、サービスアカウントの電子メールアドレス (HPAEServiceAccount@<ドメイン>) を入力します。

サービスアカウントの詳細については、「[アーカイブサービスアカウントの作成](#)」(17ページ)を参照してください。

4. [IAP Admin Password]ボックスで、サービスアカウント用に設定しているパスワードを入力します。

5. [Verify]をクリックして、アカウントアクセスをテストします。  
[Verify IAP Credentials]ウィンドウが表示されます。



6. [IAP Address]ボックスにIAP HTTPポータルアドレスを入力します。  
HTTPポータルのアドレスは、IAPキックスタートサーバー上のDomain.jcml内で[ipToDomainInfo]フィールドにリストされているVIPアドレスのいずれかになります。
7. [Verify]をクリックします。  
PST Import Managerはアクセスをテストし、その結果をステータスウィンドウに表示します。  
IAPでフォルダの取得が有効になっている場合、結果には、選択されたドメインのIAPフォルダサポートのステータスも表示されます。
8. [Domain name]ボックスで、ドメインを選択します。メッセージはこのドメイン内部に保存されます。
9. PST Import ManagerにIAPドメインに関する情報をローカルに保存させるには、[Cache Domains]をクリックします。これにより、今後のルール作成が高速化されます。
10. [Close]をクリックして認証情報の入力を完了します。
11. [Save]をクリックします。

## インポート記述の作成とキューイング

PST Import Managerでは、どのPSTファイルをどのようにインポートするかを指定するためにインポート記述ファイルを使用します。

## 注記:

インポート記述ファイルは手動で作成できます。使用するXMLタグの説明とサンプルXMLファイルについては、「[PST Import Tools: Archive Requestファイルの仕様](#)」(139ページ)を参照してください。

インポートデータベースにファイルを追加する前に、PST Import Managerは、以下のタスクを実行します。

- ・ 適切なアクセス権限でPSTファイルにアクセスできることを確認します。
- ・ インポートデータベースに挿入されるファイルを一意に識別する、計算済みのシグネチャー(ハッシュ)を取得します。
- ・ インポートデータベース(AEDB.mdb)にクエリし、計算済みのシグネチャーを使用して重複しているエントリーがないかどうかを確認します。
- ・ IAPにクエリして、重複するエントリーがないかどうかを確認します。
- ・ IAPで重複するエントリーが見つからない場合は、データベースへの挿入を実行します。

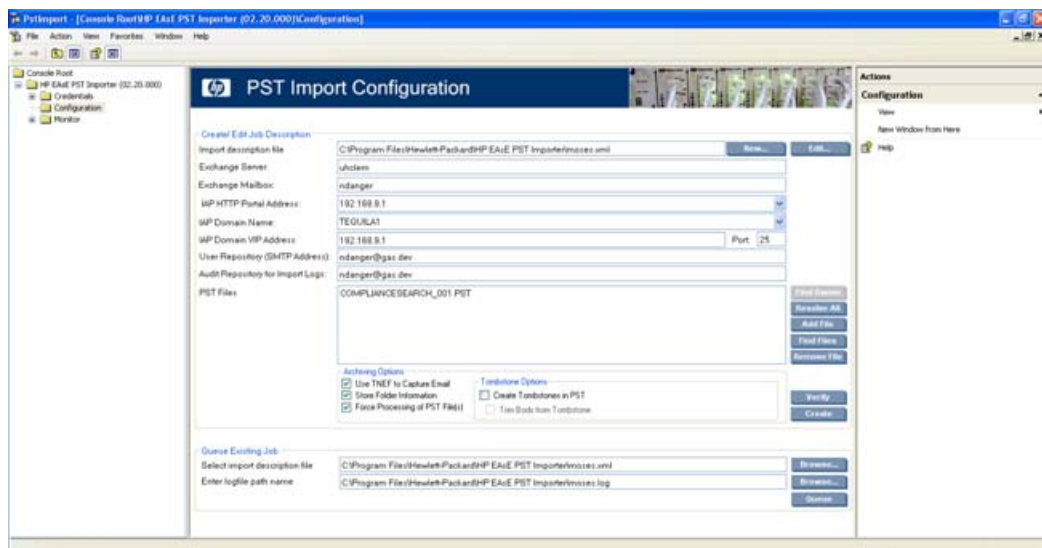
## インポート記述ファイルの作成または編集

インポート記述ファイルを作成または編集するには、以下の手順に従ってください。

1. PST Import Managerをデスクトップから起動するか、または[スタート] > [すべてのプログラム] > [Hewlett-Packard] > [Email Archiving software for Exchange] > [PST Import Tools] > [PST Import Manager]の順に選択します。

PST Import Managerコンソールが表示されます。

2. メインペイン内の[Import Configuration]リンクをクリックするか、またはPST Import Managerコンソールの左側にあるツリーコントロールから[Configuration]を選択します。



3. 新しいインポート記述ファイルを作成するには[New]をクリックします。

既存のインポート記述ファイルを編集する場合は、[Edit]をクリックし、変更するファイルが格納されている場所を選択します。

4. 次の値を入力します。

なお、入力した値は、グローバル設定ファイルの\Program Files\Hewlett-Packard\HP EAsE PST Importer\HP EAsE PST Importer.iniで指定されている設定値を上書きしません。

インポートの上書きは、\Program Files\Hewlett-Packard\HP EAsE PST Importer\PSTLoadの該当する.iniファイルに記載されます。

フィールド	説明
[Exchange Server]	アドレス解決のためにグローバルアドレス一覧 (GAL) にアクセスするときに使用するExchangeサーバーまたはクライアントアクセスサーバー (CAS) のアドレス。XMLタグは、<Server>です。
[Exchange Mailbox]	アドレスを解決するためにGALにアクセスするときに使用されるExchangeサーバー上のメールボックス。XMLタグは、<Mailbox>です。 このアドレスがExchange 2010サーバー上のアドレスである場合は、上記の[Exchange Server]フィールドにはメールボックスサーバーのアドレスを指定せずに、必ずクライアントアクセスサーバーのアドレスを指定してください。
[IAP HTTP Portal]	アーカイブの設定対象となるIAPドメインのVIP。XMLタグは、<HTTPServer>です。 認証情報を設定すると、このフィールドに適切な値が入力されます。VIPの場合は、Domain.jcmlのipToDomainInfo属性を使用します。
[IAP Domain]	送信される重複するメッセージをチェックするときに使用されるIAPドメイン。IAPドメインは、大文字と小文字が区別され、IAP上のDomain.jcmlファイル内のドメイン名と一致する必要があります。XMLタグは、<IAPDomain>です。 認証情報を設定すると、このフィールドに適切な値が入力されます。
[Domain VIP (SMTP)]	メッセージをIAPへ送信するために使用されるIAP SMTPポータル DNS名またはIPアドレス。これは、Domain.jcmlで使用されるipToDomainInfo属性と同じ値です。XMLタグは、<SMTPServer>です。 認証情報を設定すると、このフィールドに適切な値が入力されます。
[Port]	SMTPポート番号。この設定はオプションで、デフォルト値は25です。XMLタグは、<SMTPPort>です。
[User Repository (SMTP Address)]	[Select Files To Process]リスト内の文書が配信されるレポジトリ。XMLタグは、<Repository>です。
[Audit Repository for Import Logs]	インポートプロセス中に作成されるログファイルを受信する監査レポジトリの名前 (「ログファイルの操作」(99ページ)を参照)。XMLタグは、<AuditRepository>です。



5. [Add File]をクリックして、IAPにロードするPSTファイルを選択します。  
ディスク上のPSTファイルを検索するには、[Find Files]をクリックします。  
ファイルを削除するには、1つ以上のファイルをリストから選択して[Remove File]をクリックします。

 **注記:**

PST Import Managerでは、パスワードで保護されたPSTファイルも処理できます。

6. [Find Owner]ボタンを使用すると、PSTファイル内のSMTPアドレスをスキャンして、所有者の候補を検索できます。この情報に基づいてメッセージのアーカイブ先のレポジトリを選択できるほか、直接指定することもできます。  
候補のリストから所有者を選択するか、または直接指定することができます。
7. アーカイビングとtombstone設定を指定するために、該当するチェックボックスをオンにします。

フィールド	説明
[Use TNEF to Capture Email]	選択すると、TNEF (Transport Neutral Encapsulation Format) を使用してメッセージが保存されます。選択していない場合は、MIME形式でメッセージが保存されます。TNEFの詳細については、「 <a href="#">TNEFメッセージ形式</a> 」(25ページ)を参照してください。
[Store Folder Information]	このチェックボックスをオンにすると、メッセージが保存されているフォルダの情報がメッセージとともに格納されます。XMLタグは、<UseFolderCapture>です。 注記: フォルダ情報を保存するには、グローバル設定ファイル (HP EASE PST Importer.ini) とIAP上のDomain.jcmlファイルでもフォルダの取得を有効にする必要もあります。
[Force Processing of PST File(s)]	選択されている場合、すでに処理されたPSTファイル内のメッセージは、tombstone化されます。通常の状態では、PSTファイルは、変更されない限り、再処理されません。このオプションは、PST LoaderとPST Import Utilityにファイルの再処理を強制します。XMLタグは、<ForceProcessing>です。
[Create Tombstones in PST] [Trim Body from Tombstone]	選択されている場合、添付ファイルの廃棄が有効になります。メッセージの本文と添付ファイルをtombstone化するには、[Trim Body from Tombstone]チェックボックスもオンにします。 XMLタグは、<Tombstone>です。

8. [Verify]をクリックして、設定が正しいことを確認します。
  - a. [Verify Settings]ウィンドウが開きます。[Start]をクリックします。
  - b. 検証が完了したら、[Close]をクリックします。
9. [Create]をクリックしてインポート記述ファイルを作成します。

## インポート記述ファイルのキューイング

インポート記述ファイルを作成または編集したら、インポート記述ファイルをキューに格納して処理されるようにします。1つのインポート記述ファイル内で複数のPSTファイルを指定できるほか、複数のインポート記述ファイルを使用して、PSTファイルをそれぞれ異なる設定でインポートすることもできます。

1. [Select import description file]フィールドの横にある[Browse]をクリックします。
2. キューイングするインポート記述ファイルを選択し、[Open]をクリックします。
3. [Enter logfile path name]フィールドの横にある[Browse]をクリックします。
4. ログファイルに名前を付け、[Save]をクリックします。  
ログファイルには、インポート記述ファイルをキューイングした結果が記録されます。
5. [Queue]をクリックしてインポート記述ファイルをキューイングします。

## インポートと監視

以下の場合に、[PST Import Monitor]ペインを使用します。

- ・ ファイルのインポートを開始および停止する。
- ・ 実行中のタスク、メッセージカウント、およびインポートの進行状況を示す他のステータス情報の概要を表示する。
- ・ 想定されるエラー条件に対する注意を喚起する。
- ・ レポートを生成する。
- ・ 失敗したプロセスをリセットする。

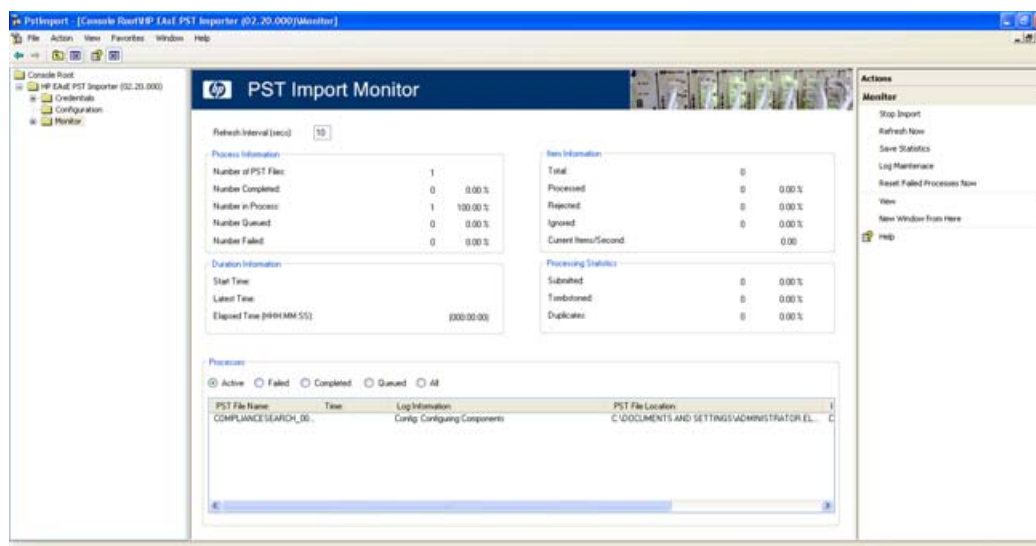
## PSTデータのインポート

PSTファイルからIAPへのデータのインポートを開始するには、以下の手順に従ってください。

1. PST Import Managerをデスクトップから起動するか、または[スタート] > [すべてのプログラム]、[Hewlett-Packard] > [Email Archiving software for Exchange] > [PST Import Tools] > [PST Import Manager]の順に選択します。

PST Import Managerコンソールが表示されます。

2. メインペイン内の[Monitor Events]リンクをクリックするか、またはPST Import Managerコンソールの左側にあるツリーコントロールから[Monitor]を選択します。



3. PST Import Managerの[Actions]ペインで[Start Import]をクリックします。

PST Import Managerがキュー内のインポート記述ファイルの処理を開始します。インポートプロセスを停止する必要がある場合は、[Actions]ペインの[Stop Import]をクリックします。

## 進行状況の監視

PST Import Managerの処理の進行状況を監視できます。[PST Import Monitor]ペインの最上部には、プロセスの現在のステータスが表示されます。この情報は、[Refresh Interval]フィールドの値に従って更新されます。この情報をただちに更新するには、PST Import Managerコンソールの[Actions]ペインで[Refresh Now]をクリックします。

[PST Import Monitor]ペインの下部には、処理対象の各PSTファイルが表示されます。ボタン操作で表示を以下のように切り替えることができます。

- ・ アクティブなプロセスのみを表示
- ・ 失敗したプロセスのみを表示
- ・ 完了したプロセスのみを表示
- ・ キュー内の保留中プロセスを表示
- ・ すべてのプロセスを表示

すべてのプロセスのサマリーを保存するには、PST Import Managerの[Actions]ペインで[Save Statistics]をクリックします。

## ログファイルの操作

アーカイブプロセスごとに、プロセスに関する警告、エラー、および完了の統計情報を記録するログファイルが1つずつ作成されます。IAPに電子メールの添付ファイルとして送信されるログファイルは、インポート記述ファイルの<AuditRepository>で指定されるレポジトリに配信されます。ログファイルは、IAPに送信された後、ローカルマシンから削除されます。

ログファイルは、[Log Maintenance]ウィンドウで指定したディレクトリに格納されます。[Log Maintenance]ウィンドウを開くには、PST Import Managerコンソールの[Actions]ペインで[Log Maintenance]をクリックします。

[Log Maintenance]ウィンドウでは、ログファイルの保存場所の変更、すべてのログファイルの削除、最大保管期間を超過したログファイルの削除ができます。

アーカイビングプロセスが停止し、再試行されると、別のログファイルが生成されます。PSTファイルの処理履歴を確認するには、IAP Webインターフェイスにログインし、<AuditRepository>を検索します。



# 14 エンドユーザーアプリケーションの使用

この章では、次のトピックについて説明します。

- ・ [アプリケーションの概要](#) (101ページ)
- ・ [IAP Webインターフェイスの使用](#) (102ページ)
- ・ [シングルサインオンの利用](#) (102ページ)
- ・ [Outlookプラグインのインストールと設定](#) (102ページ)
- ・ [IAPからのメッセージのエクスポート](#) (111ページ)

HP EAs Exchangeがサポートするクライアントオペレーティングシステムについては、EAs Exchangeのサポートマトリックスを参照してください。

## アプリケーションの概要

従業員がIAP上のアーカイブ済みメッセージのコピーを表示および取得する方法はいくつかあり、インストールされているHP EAs Exchangeアプリケーションにより異なります。

- ・ **IAP Webインターフェイス:** IAP Webインターフェイスはオンラインのすべてのクライアントが利用できます。ユーザーは、Webブラウザを使用してアーカイブされたメッセージを表示したり開いたりすることができ、メールボックスにメッセージのコピーをエクスポートすることもできます。これらの機能を利用するために、クライアントシステムにソフトウェアをインストールする必要はありません。シングルサインオン (SSO) が設定されている場合、ユーザーはログインしなくてもWebインターフェイスを開くことができます。
- ・ **Outlookプラグイン:** Outlookプラグインがインストールされている場合、Outlookユーザーはオンラインであればアーカイブされているメッセージに即座にアクセスできます。アーカイブされているメッセージを選択したら、IAPからそのメッセージを取得しメモリに保存して表示できます。

Outlookプラグインの詳細については、「[Outlookプラグインのインストールと設定](#)」(102ページ)を参照してください。

Outlookプラグインは、次の機能もインストールします。

- ・ **Outlook Integrated Archive Search:** Integrated Archive Searchを使用すると、OutlookからIAPを検索できます。シングルサインオンが設定されている場合は、IAPにログインしなくても検索できます。  
Integrated Archive Search機能の使用法については、『HP Email Archiving software for Microsoft Exchangeユーザーガイド』を参照してください。
- ・ **アーカイブキャッシュ:** クライアント (通常は、モバイルコンピューター) にキャッシュをインストールすることで、Outlookを使用してアーカイブされたメッセージにオフラインでアクセスできます。
- ・ **PSTエクスポートユーティリティ:** コンプライアンス担当者は、エクスポートユーティリティを使用してIAP WebインターフェイスからPSTファイルにメッセージをエクスポートできます。
- ・ **OWA Extension:** OWA Extensionをインストールすると、Outlook Web Accessを使用してアーカイブされたメッセージにアクセスできます。ただし、OWA Extensionでは、Integrated Archive Search機能は使用できません。

OWA Extensionの詳細については、「[HP OWA Extensionの使用](#)」(117ページ)を参照してください。

## IAP Webインターフェイスの使用

IAP Webインターフェイスを使用すると、従業員はWebブラウザを使用して、自分のユーザーレポジトリ内およびアクセス権のあるレポジトリ内にアーカイブされたメッセージを検索できます。

Webインターフェイスポータルは、システムのインストール時に自動的にセットアップされ、デフォルトでHTTPSをサポートしています。ユーザーは、組織のネットワークに（ローカルまたはVPN経由で）ログインし、サポートされているWebブラウザを使用する必要があります（「HP EAs Exchangeのシステム要件」（17ページ）を参照）。

コンプライアンス担当者がPST Export機能を使用してPSTファイルにメッセージをエクスポートする際、最もよく使われる機能がIAP Webインターフェイスです。IAPからメッセージをエクスポートするには、クライアントシステムにOutlookプラグインをインストールする必要があります。詳細については、「IAPからのメッセージのエクスポート」（111ページ）を参照してください。

## シングルサインオンの利用

IAPシングルサインオン（SSO）を利用すると、Windowsユーザーでログオンしてアーカイブされたメッセージを検索および表示できます。その際、WebブラウザまたはOutlookからIAPにログインする必要はありません。

組織でシングルサインオンを使用する場合は、HPのサービス担当者がIAP上でアプリケーションをセットアップし、必要な構成を行います。

## Outlookプラグインのインストールと設定

Outlookプラグインをインストールして設定することで、IAPとのシームレスな統合が可能になり、tombstone化されたメッセージおよび検索結果の取得が容易になります。

Outlookプラグインをインストールするには、プラグインを使用する各メンバーが、この項で説明する手順をすべて完了する必要があります。

### 注記:

常にOutlookプラグインの最新のバージョンを使用することを強くお勧めします。HP EAs Exchangeの最新バージョンは、Outlookプラグインの前のバージョンを常にサポートします。

## ユーザーによるOutlookプラグインのインストール

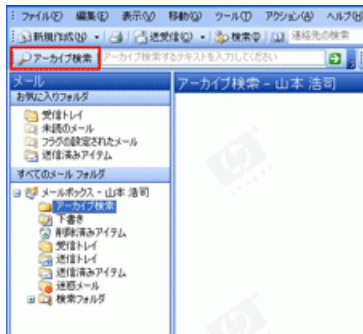
Outlookプラグインは、Microsoft Outlook用のCOMアドインです。プラグインをインストールするには、ローカルの管理者権限が必要です。

プラグインを新規にインストールする場合とプラグインを更新する場合のどちらでも、以下の手順を使用できます。

- Windows 2003、Windows Vista、Windows 7、または64ビットクライアントの場合：以前のバージョンのプラグインがインストールされている場合は、そのバージョンをアンインストールしてから下記の手順を実行してください。
- 他のすべてのクライアントの場合：以前のバージョンのソフトウェアがインストールされている場合は、インストールされているソフトウェアに対して更新を適用します。

クライアント上でプラグインのインストールまたは更新を行うには、以下の手順に従ってください。

1. ユーザーのマシンにMicrosoft .NET Framework 2.0がインストールされていることを確認します。
2. Outlookを閉じます（開いている場合）。
3. HP EAsE Extensions CD内のOutlook Plug-InフォルダにあるHP EAsE Outlook Plug-In.msiを実行して、Outlookプラグインをインストールします。
4. [Install Shield]ウィザードの指示に従います。
5. (オプション手順)「[Outlookプラグインユーザーインターフェイスの言語の変更](#)」(109ページ)の手順に従い、プラグインのインターフェイスで使用する言語を変更します。
6. Outlookを開いて、アーカイブオプションを設定します。  
「[\[アーカイブオプション\]タブ](#)」(103ページ)を参照してください。
7. [OK]をクリックします。
8. Outlookで、[\[アーカイブ検索\]](#)ツールバーの[\[アーカイブ検索\]](#)をクリックします。



(アーカイブ検索ツールバーを表示するには、[表示] > [ツールバー] > [HPアーカイブ検索]の順にクリックします)

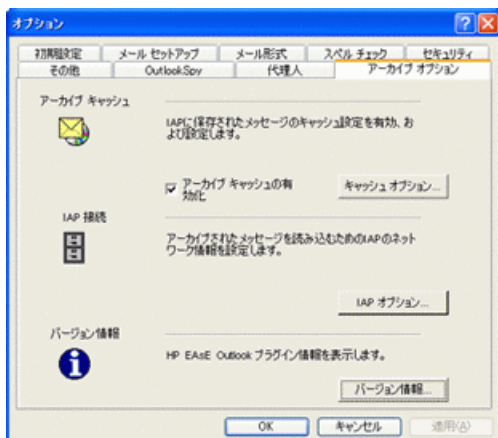
- ・ SSOが設定されている場合は、[\[アーカイブ検索\]](#)ウィンドウが表示されます。設定の問題がある場合は、代わりに[\[アーカイブ検索ログオン\]](#)ウィンドウが表示されます。
- ・ SSOが設定されていない場合は、[\[アーカイブ検索ログオン\]](#)ウィンドウが表示されます。IAPを検索するには、ユーザーが有効なユーザー名とパスワードを入力する必要があります。
- ・ [\[アーカイブオプション\]](#)タブで指定したIAPのホスト名またはIPアドレスが間違っている場合は、設定されたホストにアーカイブ検索が接続できなかったことを示すメッセージが表示されます。

## [アーカイブオプション]タブ

Outlookプラグインは、Outlookの[\[オプション\]](#)ウィンドウに[\[アーカイブオプション\]](#)タブをインストールします。このタブのオプションを使用してアーカイブキャッシュの設定、メッセージ取得についてのIAPホスト情報の設定、プラグインに関する情報の表示を行います。

Outlookで[\[アーカイブオプション\]](#)を開くには、[\[ツール\]](#) > [\[オプション\]](#)の順に選択して、[\[アーカイブオプション\]](#)タブをクリックします。





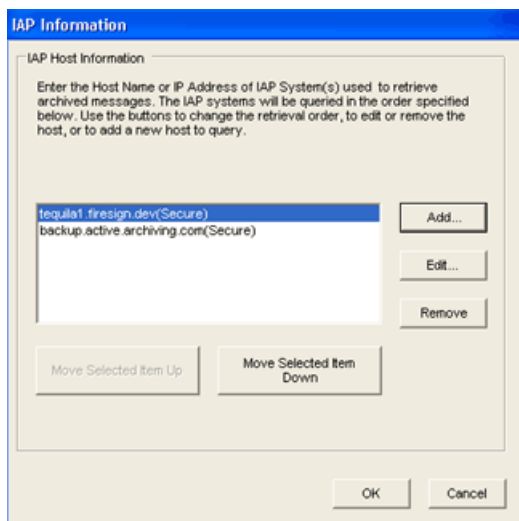
## ホスト情報の設定

ホスト情報を設定するには、この項の手順を完了してください。Integrated Archive Search、アーカイブキャッシュ、およびPSTエクスポートユーティリティが正しく機能するには、これらのツールが特定のホスト情報を所有する必要があります。

ホスト情報を設定するには、以下の手順に従ってください。

1. Outlookで、[ツール] > [オプション]の順に選択して、[アーカイブオプション]タブをクリックします。
2. [IAPオプション]をクリックします。

[IAP情報]ウィンドウが表示されます。



3. 新規のホスト (IAPがアーカイブされたメッセージにアクセスするのに使用します) を追加するには、[追加]をクリックします。ホストを編集するには、ホストを選択して[編集]をクリックします。

次の手順を実行します。

- a. 表示されるダイアログボックスで、ホスト名またはIPアドレスを入力または編集します。
  - b. ホストがセキュアなHTTPS接続を使用している場合、[セキュアコネクションの使用]チェックボックスをオンにします。
  - c. [OK]をクリックします。
4. ホストを削除するには、ホストを選択して[削除]をクリックします。



5. ホストに検索する順序を変更するには、ホストを選択して[選択項目を上]または[選択項目を下]をクリックします。
6. [OK]をクリックして設定を適用します。もう一度[OK]をクリックして、[オプション]ダイアログボックスを閉じます。

## [バージョン情報]ダイアログボックスの表示

Outlookプラグインのバージョンおよび管理モードの表示やロギングのオンおよびオフの切り替えには、[バージョン情報]ダイアログボックスを使用します。

[バージョン情報]オプションを表示するには、以下の手順に従ってください。

1. Outlookで、[ツール] > [オプション]の順に選択して、[アーカイブオプション]タブをクリックします。
2. [バージョン情報]をクリックします。

[バージョン情報]ダイアログボックスには以下の情報が表示されます。

- ・ [バージョン情報]: インストールされているOutlookプラグインのバージョン
  - ・ [管理モード]: クライアントが管理モードで動作しているかどうかを示します。この設定は外部で行います。[有効]に設定されている場合、クライアントはロックされており、ユーザーはクライアントのほとんどの設定を変更できません。[無効]に設定されている場合、クライアントはロックされておらず、ユーザーは多くの設定を変更できます。  
管理モードはレジストリで設定します。「[管理レジストリの設定](#)」(147ページ)を参照してください。
  - ・ [ログ有効]: このチェックボックスをオンにすると、診断情報が保存され、HPのサポートが利用できるようになります。
3. [OK]をクリックして変更を適用し、[バージョン情報]ダイアログボックスを閉じます。もう一度[OK]をクリックして、[アーカイブオプション]タブを閉じます。

## アーカイブキャッシュの設定

アーカイブキャッシュは、Outlookユーザーが自身のアーカイブされたメッセージにオフラインでアクセスできるようにするクライアントアプリケーションです。この機能は、モバイルコンピューターを使用する、出張の多い従業員にとってたいへん便利な機能です。

アーカイブキャッシュは、Outlookが起動すると、バックグラウンドで動作を開始します。クライアントマシンがオンラインの場合、アーカイブされたメッセージは、そのメッセージがキャッシュに対して設定されたパラメーターの枠内に収まっていれば、IAPから取り出されキャッシュに格納されます。

クライアントマシンがオフラインになっても、ユーザーは、キャッシュ内のアーカイブされたメッセージにアクセスできます。

アーカイブされたメッセージがキャッシュに保存されておらず、クライアントがオフラインの場合は、ユーザーがtombstoneを開くとメッセージがアーカイブされたことを示すテキストが表示されます。

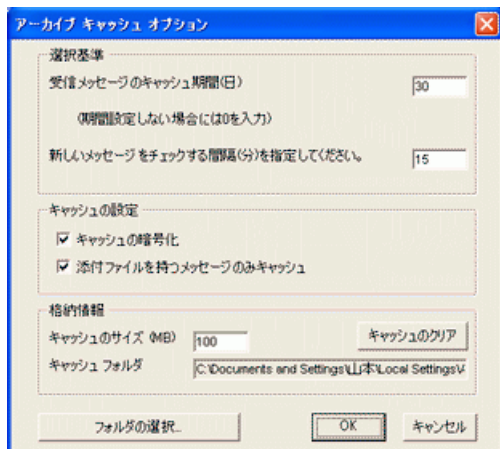
ユーザーが設定したアーカイブの実行頻度によっては、ユーザーがアーカイブされている最新のメッセージにアクセスできないことがあります。

以下では、アーカイブキャッシュを有効にする方法と、アーカイブキャッシュの各オプションを設定する方法を説明します。tombstone化されたメッセージを読み込むためにホスト情報を設定する場合があります。「[ホスト情報の設定](#)」(104ページ)を参照してください。

アーカイブキャッシュの各オプションを設定するには、以下の手順に従ってください。

1. Outlookで、[ツール] > [オプション]の順に選択して、[アーカイブオプション]タブをクリックします。

2. [アーカイブキャッシュ]エリアで、[キャッシュオプション]をクリックします。  
[アーカイブキャッシュオプション]ウィンドウが表示されます。



3. [アーカイブキャッシュオプション]ウィンドウを使用して、次の表に示す設定を指定します。

表2 アーカイブキャッシュの設定

設定	説明
受信メッセージのキャッシュ期間(日)	指定した日数以内に受信した、tombstone化されたメッセージを選択します。0を入力すると、受信した日に関わらずすべてのアーカイブされたメッセージを読み込みます。アーカイブキャッシュは、以前キャッシュしたメッセージでこの範囲から外れるものがあれば削除します。 このオプションは、メッセージがtombstone化された日ではなくメッセージを受信した日に基づいています。
新しいメッセージをチェックする間隔(分)を指定してください。	アーカイブキャッシュがユーザーのメールボックスを解析して、新しくtombstone化されたメッセージやキャッシュから削除されたメッセージをチェックする頻度を分単位で入力します。
キャッシュの暗号化	このチェックボックスを選択すると、クライアントマシンのファイルシステム内のキャッシュにメッセージを保存するときに、メッセージが暗号化されます。ユーザーのコンピューターの設定によっては、現在のユーザーのみが暗号化されたメッセージを読むことができます。また、ユーザーの[フォルダオプション]の設定によって、暗号化されたキャッシュメッセージはWindowsエクスプローラ上で緑色で表示されます。 <b>注記:</b> アーカイブされたメッセージがキャッシュ内で暗号化されるのは、クライアント上でEFS (Encrypting File System) が正しく設定されている場合だけです。このオプションを実装する場合は、MicrosoftのマニュアルでEFSの設定方法を参照してください。
添付ファイルを持つメッセージのみキャッシュ	このチェックボックスをオンにすると、添付ファイルのあるメッセージだけが読み込まれます。このチェックボックスのチェックをオフにすると、すべてのメッセージが読み込まれます。 このオプションを選択すると、アーカイブキャッシュをロードするのに必要なシステム上のスペースと時間を節約できます。アーカイブが[Trim Message Bodies]に設定されていない限り、メッセージの本文がプレビューペインに表示されます。そのため、添付ファイルのないメッセージをアーカイブキャッシュに保存する必要はありません。
キャッシュのサイズ (MB)	ユーザーのキャッシュのサイズの上限をメガバイト単位で指定します。この設定は、上記の日数設定よりも優先されます。 たとえば、日数設定に基づいて選択されたメッセージを格納することでキャッシュのサイズが上限を超える場合、アーカイブキャッシュは設定したサイズの範囲に収まる新しいメッセージのみを保持します。
キャッシュのクリア	クリックすると、キャッシュに保存されたすべてのメッセージが削除されます。
キャッシュフォルダ	これは読み取り専用の設定であり、アーカイブキャッシュがユーザーのシステムのどこに保存されているかを示します。たとえば、Windows XPの場合、アーカイブキャッシュは\Documents and Settings\CurrentUser\Local Settings\Application Data\Hewlett-Packard\Cacheにあります。
フォルダの選択	クリックすると、アーカイブキャッシュがユーザーのメールボックスでどのフォルダのメッセージをチェックするかを選択できます。

4. [OK]をクリックして設定を適用します。
5. [アーカイブキャッシュの有効化]チェックボックスをオンにします。オプションを保存するがこの時点でアーカイブキャッシュを有効化しない場合は、このチェックボックスをオフにします。

6. [OK]をクリックし、変更を保存して[アーカイブキャッシュオプション]ウィンドウを閉じます。

 **注記:**

AdminModeレジストリ設定で設定の変更が禁止されていなければ、ユーザーがこれらの設定を変更できます。「[管理レジストリの設定](#)」(147ページ)を参照してください。

他のキャッシュオプションは、レジストリで設定できます。詳細については、「[キャッシュ関連のレジストリ設定](#)」(143ページ)を参照してください。

## HP EAsEアーカイブキャッシュのステータスアイコン






アーカイブキャッシュはシステムトレイにアイコンを表示してステータスを示します。



アイコンの上にカーソルをおくと、ステータス情報を表示できます。

アイコンをクリックしてステータスレポートを表示することもできます。また、アーカイブキャッシュによるアーカイブされたメッセージのキャッシュへの保存を停止することもできます。

以下のアイコンが使用されます。

アイコン	説明
	デフォルトのアイコン
	アーカイブキャッシュがメッセージをダウンロードするためにメールボックスを解析しているか、メッセージをダウンロードしている。
	アーカイブキャッシュがアーカイブされたメッセージのダウンロードを完了し、次のメッセージスキャンに向けて待機している。
	警告。詳しい情報を表示するには、アイコンをダブルクリックしてください。
	アラート。詳しい情報を表示するには、アイコンをダブルクリックしてください。

## レジストリ設定

### デフォルトのレジストリ設定

Outlookプラグインをインストールすると、クライアントの\Program Files\Hewlett-Packard\HP EAsE Outlook Plug-Inフォルダに必要なコンポーネントが登録されます。また、HKEY\_LOCAL\_MACHINE (HKLM) にレジストリ初期設定が行われます。プラグインがインストールされたマシン上でユーザーが初めてOutlookを実行すると、これらのレジストリ設定がHKLMからHKEY\_CURRENT\_USER (HKCU) にコピーされます。

これらの設定は、Outlookで[ツール] > [オプション] > [アーカイブオプション]の順に選択することで、HKCU内でユーザー単位で管理することができます。

すべてのユーザーに対するデフォルト設定を変更するには、regeditを使用してHKLMを変更してください。それによって、各ユーザーがOutlookを初めて使用するときにHKCUにコピーされ保存されます。

Outlookプラグインのインストール時に作成されるデフォルトレジストリ設定については、「[Outlookプラグインのレジストリ設定](#)」(143ページ)を参照してください。

## その他のレジストリ設定の手動による作成

Outlookプラグインで提供されるMSIをサポートしないソフトウェア管理ツールとともに使用するインストールを再パッケージする必要がある場合は、HPのサポート窓口にお問い合わせください。なお、EAsE Extensions CDのOutlook Plug-InフォルダのSMSファイルはサンプルに過ぎません。

## Outlookプラグインユーザーインターフェイスの言語の変更

Outlookプラグインがインストールされる時、そのユーザーインターフェイスではMicrosoft Officeで設定されている言語が自動的に引き継がれます。

ただし、プラグインインターフェイスの言語を変更する必要がある場合もあります。たとえば、Microsoft Officeでは言語が英語に設定されているが、ドイツ語のユーザーインターフェイスを使用してアーカイブされたメッセージの検索やエクスポートを行いたい場合などです。

Integrated Archive Searchではユーザーインターフェイスの言語を変更できます。また、それとは別に、他のプラグインコンポーネント ([アーカイブオプション]タブ、アーカイブキャッシュ、およびPSTエクスポートユーティリティ) でも言語を変更できます。

### [アーカイブオプション]タブ、アーカイブキャッシュ、およびPSTエクスポートユーティリティでの言語の変更

言語の変更は、HKCU\Software\Hewlett-Packard\Outlook PlugIn\LangIDに登録されません。LangIDは、言語とロケールを組み合わせたものです。たとえば、LangIDの0816はポルトガル語(言語)とポルトガル(ロケール)を意味します。ロケールがブラジルの場合、LangIDはXX16になります。これは、現時点ではプラグインがブラジル系ポルトガル語にはローカライズされていないためです。この場合はロケールが脱落し、設定はどこにも属さなくなります。

LangIDを追加するには、以下の手順に従ってください。

1. Outlookを閉じます。
2. regeditを開いて、HKCU\Software\Hewlett-Packard\Outlook PlugInに移動します。
3. 左ペインで、[Outlook PlugIn]を選択します。
4. 右ペインで、右クリックして[新規] > [文字列値]の順に選択し、名前としてLangIDを入力します。
5. 右ペインで、[LangID]を右クリックして、[修正]を選択します。
6. 110ページの表に示されているロケールを含むコードまたは含まないコードにLangIDを変更します。  
表には、プラグインが現在ローカライズされているすべての言語が掲載されています。
7. レジストリを終了します。
8. Outlookを開いて変更を確認します。

### Integrated Archive Searchでの言語の変更

Integrated Archive Searchで使用する言語を変更するには、レジストリキーを作成する必要があります。

UICultureOverrideと呼ばれるこのキーのコードも、言語とロケールを組み合わせたもので、言語/ロケールの組み合わせがローカライズされていない場合は、どこにも属さないことになります。

キーを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. Outlookを閉じます。
2. regeditを開いて、HKCU\Software\Hewlett-Packard\Outlook Plugin\Searchに移動します。
3. 左ペインで、[Search]を右クリックし、[新規] > [キー]の順に選択します。
4. キーにUICultureOverrideという名前を付けます。
5. 右ペインで、新しい[UICultureOverride]キーを右クリックして、[修正]を選択します。
6. キーのコード（ロケールがないコードも含む）を入力します。  
110ページの表の[Integrated Archive Search]列に、使用できるコードが掲載されています。
7. レジストリを終了します。
8. Outlookを開いて変更を確認します。

### Outlookプラグインのローカライズされた言語

言語	Outlook Integrated Archive Search		[アーカイブオプション]タブ/アーカイブキャッシュ/PSTエクスポートユーティリティ	
	UICultureOverride (ロケールあり)	ロケールなし	LangID (ロケールあり)	ロケールなし
英語	en-US	en	0409	XX09
フランス語	fr-FR	fr	040C	XX0C
ドイツ語	de-DE	de	0407	XX07
スペイン語	es-ES	es	0C0A	XX0A
ポルトガル語	pt-PT	pt	0816	XX16
日本語	ja-JP	ja	0411	XX11
韓国語	ko-KR	ko	0412	XX12
中国語 (簡体)	zh-CHS	zh	0804	XX04
中国語 (繁体)	zh-CHT	zh	0404	XX04

## プラグインとCitrix Presentation Managerの併用

Outlookプラグインでは、HP EAs Exchangeサポートマトリックスに記載されている構成でCitrix Presentation Managerをサポートしています。（このサポートマトリックスのコピーは、HPのサービス担当者から入手できます）。

OutlookおよびプラグインがCitrixサーバー上にインストールされている場合は、次の条件が適用します。

- ・ サーバー上のスペースの問題を回避するには、プラグインのロギング機能をレジストリ内で無効化する必要があります。

ロギングはプラグインのインストール時にデフォルトで無効化されます。

以下の各場所をチェックして、ロギングステータスを確認してください。



- ・ HKLM\Software\Hewlett-Packard\Outlook PlugInで、LogFilePathにパスが指定されていないことを確認します。
- ・ HKLM\Software\Hewlett-Packard\Outlook PlugIn\Cacheで、LogToDiskがFalseに設定されていることを確認します。この設定がレジストリに含まれていない場合は、キャッシュロギングが自動的にFalse (デフォルト) に設定されています。
- ・ HKLM\Software\Hewlett-Packard\Outlook PlugIn\Searchで、TraceLevelToLogが0に設定されていることを確認します。この設定がレジストリ内に含まれていない場合は、ロギングが自動的に0 (デフォルト) に設定されています。
- ・ ユーザーがCitrixセッション経由でOutlookにアクセスする場合、エクスポート機能は動作しません。メッセージをIAP Webインターフェイスから正常にエクスポートできるようにするには、Outlookおよびプラグインをユーザーのローカルマシンにインストールする必要があります。この条件が満たされていない場合は、ユーザーに対してエラーメッセージが表示されます。  
(「HPバッチエクスポートエラー」(126ページ)を参照)。

レジストリ設定の詳細については、「[Outlookプラグインのレジストリ設定](#)」(143ページ)を参照してください。  
エクスポート機能の詳細については、「[IAPからのメッセージのエクスポート](#)」(111ページ)を参照してください。

## IAPからのメッセージのエクスポート

PSTエクスポートユーティリティは、Outlookプラグインの一部としてインストールされます。PSTエクスポートユーティリティは、企業のコンプライアンス担当者やシステム管理者が、アーカイブされたメッセージのコピーをIAPからOutlook PST (Personal Folder) ファイルにエクスポートするために使用するアプリケーションです。元のメッセージは、IAP上に維持されます。

メッセージをOutlook以外で開くことはできません。また、OWA (Outlook Web Access) にエクスポートすることやOWAで表示することもできません。

また、メッセージをエクスポートできるのは、エクスポートを実行するマシン上にOutlookとプラグインがインストールされている場合のみです。たとえば、ユーザーがCitrixサーバーセッションを通じてリモートでOutlookにアクセスする場合は、IAPからメッセージをエクスポートできません。

PSTエクスポートユーティリティで使用されるレジストリ設定については、「[検索およびエクスポート関連のレジストリ設定](#)」(145ページ)を参照してください。

## エクスポートプロセスの概要

メッセージは、単一のデフォルトPSTフォルダにエクスポートすることも、PSTファイル内の複数のフォルダにエクスポートすることもできます。

メッセージを複数のフォルダにエクスポートする場合は、次のような操作が行われます。

- ・ PSTファイル内に受信トレイ、送信済みアイテム、予定表、仕事、ジャーナル、迷惑メール、連絡先、および下書きフォルダが作成されます。
- ・ メッセージは、そのメッセージが元々配置されていたフォルダと同じ名前のフォルダにエクスポートされます。たとえば、アーカイブされる前に受信トレイフォルダに配置されていたメッセージは、PSTファイルの受信トレイフォルダにエクスポートされます。
- ・ ユーザーが作成したフォルダからアーカイブされたメッセージは、PSTファイル内の同じ名前のフォルダにエクスポートされます。たとえば、Folder 1という名前のOutlookフォルダが作成されている場合、アーカイブされる前にFolder 1に配置されていたメッセージは、PSTファイルのFolder 1にエクスポートされます。

注記: メッセージをアーカイブした後で別のOutlookフォルダにコピーした場合、メッセージはコピー先のフォルダにエクスポートされます。たとえば、Folder 1にあるメッセージがアーカイブされ、その後Folder 2に移動された場合、そのメッセージはFolder 2にエクスポートされます。

- Outlook Data File (Archive Folder、他のPersonal Folder File) からアーカイブされたメッセージは、元のデータファイルに対応する構造にエクスポートされます。
- 予定、会議など、アーカイブされた予定表項目は、PSTファイルの予定表フォルダにエクスポートされます。アーカイブされた仕事リストは、PSTファイルの仕事フォルダにエクスポートされます。
- Compliance Archivingによってアーカイブされたメッセージは、デフォルトのPSTフォルダにエクスポートされます。

メッセージを削除すると、PSTファイルからは取り除かれますが、IAPからは削除されません。

## メッセージのエクスポート

アーカイブされたメッセージのコピーをエクスポートするには、以下の手順に従ってください。

- IAP Webインターフェイスにログインして、エクスポートするメッセージを検索します。  
検索手順については、『HP Integrated Archive Platformユーザーガイド』を参照してください。
- [検索結果]ページで、エクスポートする各項目の横にあるチェックボックスをオンにします。[検索結果]ページにあるすべての項目をエクスポートする場合は、この手順は必要ありません。
- [追加オプション]をクリックし、オプションメニューを開きます。



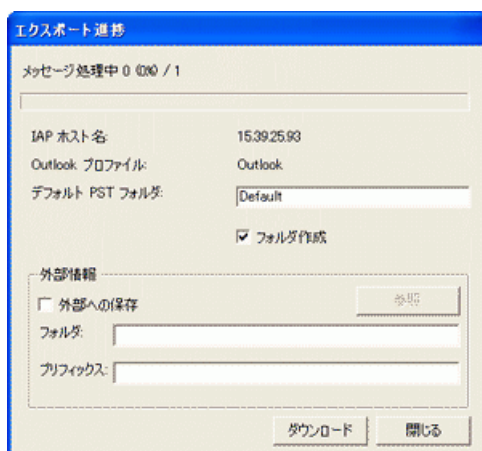
- すべての検索結果をエクスポートするには、[エクスポート すべての項目]をクリックします。選択した項目をエクスポートするには、[エクスポート チェック項目]をクリックします。

初めてメッセージをエクスポートする場合は、[ファイルのダウンロード]ダイアログボックスが表示されます。

- [ファイルのダウンロード]ダイアログボックスで、[開く]をクリックします。

(必要に応じて、[ファイルのダウンロード]ボックスを今後IAPからメッセージをエクスポートするときに表示しないように設定できます)。(たとえば、Internet Explorerで表示する場合は、[この種類のファイルであれば常に警告する]チェックボックスをオフにできます)。

[エクスポート進捗]ウィンドウが表示されます。





6. [デフォルトPSTフォルダ]ボックスに、デフォルトフォルダの新しい名前を入力します。
- デフォルトのフォルダ名は[Default]です。フォルダ名を変更しないと、以前に[Default]フォルダにエクスポートしたすべてのメッセージが削除されます。[デフォルトPSTフォルダ]ボックスで新しい名前を指定すると、新しいPSTフォルダが自動的に作成されます。

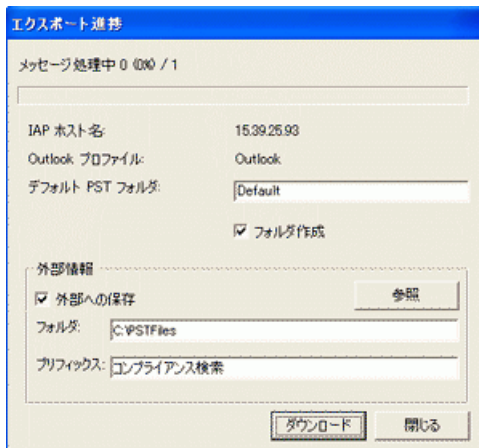
[フォルダ作成]チェックボックスがオフの場合、メッセージは自動的にデフォルトフォルダにエクスポートされます。

7. (オプション手順) [フォルダ作成]チェックボックスをオンにして、メッセージがPSTファイル内のフォルダにエクスポートされるようにします。

PSTファイル内のフォルダには、メッセージが元々配置されていたフォルダと同じ名前が付いています。フォルダオプションの詳細については、「[エクスポートプロセスの概要](#)」(111ページ)を参照してください。なお、Compliance Archivingによってアーカイブされたメッセージは、デフォルトのPSTフォルダにエクスポートされます。

8. (オプション手順) 外部(ハードディスクドライブまたはネットワーク上のフォルダ)にメッセージをエクスポートする場合は、以下の手順a~cに従ってください。

外部の位置を指定しない場合、メッセージはOutlook Folders Listで表示できるIAP Search Results (IAP Search Results.pst)に自動的にエクスポートされます(手順13を参照)。



- a. [外部への保存]チェックボックスをオンにします。
- b. [フォルダ]ボックスで、PSTファイルの位置を指定します。パスを手動で入力するかまたは[参照]をクリックして位置を選択します。
- 注記: 現存しないフォルダを追加すると、メッセージのダウンロード時にダイアログボックスが表示されます。新しいフォルダを作成するには、[はい]をクリックします。
- c. [Prefix]ボックスに、メッセージをエクスポートするときに生成するPSTファイルの名前を入力します。
- PSTファイルが64,000を超えるメッセージを含む場合またはファイルサイズが1.7GBを超える場合、新しいPSTファイルが作成され、そのファイルに連番が付けられます(例: XYZ\_001.pst, XYZ\_002.pstなど)。ファイルが1つのみの場合、付けられる番号は\_001です(例: XYZ\_001.pst)。
9. [ダウンロード]をクリックして、エクスポートプロセスを開始します。
- 検索結果をダウンロードしている間、プログレスバーが表示されます。
- メッセージを外部にエクスポートした場合は、ダウンロードの完了時に[メッセージエクスポート機能]ダイアログボックスが表示されます。[OK]をクリックして、エクスポートログを参照します。
10. [閉じる]をクリックして、[エクスポート進捗]ウィンドウを閉じます。

11. [オプションを閉じる]をクリックして、IAP Webインターフェイスのオプションメニューを閉じます。
12. メッセージを外部にエクスポートしていない場合は、次のように操作します。
  - a. Outlookを開きます。
  - b. フォルダリストで[IAP検索結果]を展開して、フォルダを開きメッセージを表示します。



13. メッセージを外部にエクスポートした場合は、次のように操作します。

- a. Outlookを開きます。
- b. [ファイル] > [開く]、[Outlookデータファイル]の順に選択します。
- c. PSTファイルをエクスポートした位置にアクセスします。
- d. PSTファイルを選択して、[OK]をクリックします。

ナビゲーションペインのフォルダリストにエクスポートされたメッセージを含むフォルダが表示されます。

- e. PSTフォルダを展開し、サブフォルダを開いてメッセージを表示します。



## メッセージのエクスポートに関する問題

メッセージをエクスポートしようとしているときにエラーが表示された場合は、「[HP バッチエクスポートエラー](#)」(126ページ)を参照してください。



## 15 HP OWA Extensionの使用

Microsoft Outlook Web Accessは、インターネットに接続された任意のデスクトップからユーザーのメールボックスにアクセスできるようにするWebアプリケーションです。OWA Extensionを使用すると、Microsoft Outlook Web Accessと同じようにアプリケーションを意識することなくメールボックスにアクセスし、tombstoned化されたメッセージをOWAで表示できます。

OWAをインストールした後、HPのサービス担当者がOWA Extensionのインストールと設定を行います。この章では、それ以外の設定オプションについて説明します。

- ・ [システム要件](#) (117ページ)
- ・ [複数のメールストア](#) (117ページ)
- ・ [複数のIAPシステム](#) (118ページ)
- ・ [下書きフォルダ内の一時ストレージ](#) (118ページ)
- ・ [OWAでのtombstone化されたメール項目の表示](#) (119ページ)
- ・ [Exchange 2007インストール環境でのWeb.configファイルの表示](#) (119ページ)
- ・ [Exchange 2000および2003インストール環境でのasp.configファイルの使用](#) (120ページ)
- ・ [Exchange 2000および2003インストール環境でのASPタイムアウトの変更](#) (121ページ)
- ・ [ブラウザの機能](#) (121ページ)
- ・ [マルチユーザーのサポート](#) (121ページ)
- ・ [巨大な添付ファイル](#) (122ページ)

### システム要件

Microsoft Exchange Server 2007でHP OWA Extensionを使用するためには、次の最小要件を満たす必要があります。

- ・ Microsoft Exchange Server 2007 Service Pack 1の更新プログラムのロールアップ5以降
- ・ .NET Framework 2.0のService Pack 1
- ・ OWA Premiumサービス

HP OWA Extensionは以下のブラウザでサポートされています。

- ・ Internet Explorer 7.0以降 (Windows)
- ・ Safari 3.0以降 (Macintosh)
- ・ Firefox 3.0以降 (Windows 98以降)
- ・ Chrome 1.0以降 (Windows NT以降)

Exchange 2003、2007、2010とともにOWA Extensionをインストールして使用するためのシステム要件一覧については、HP EAs Exchangeのサポートマトリックスを参照してください。

### 複数のメールストア

HPのサービス担当者によって行われるOWA Extensionのインストール手順では、複数のメールストアを設定することができます。OWA Extensionを使用すると、所定のExchangeサーバーを通して設定された任意の数のメールストアにアクセスすることができます。通常、ユーザーのメールボックスは1つのIAPに完全

に含まれています。OWA Extensionは、ある任意のユーザーに適用するIAPストアを自動的に決定します。

Exchangeメールサーバーのリストは、HPのサポート窓口によって、インストール設定ファイル内に入力されます。インストール手順では、SystemMailbox情報が抽出され、設定ファイルに保存し直されます。

## 複数のIAPシステム

HPのサービス担当者は、最初に、OWA Extension構成を複数IAPアプライアンス用に設定することができます。また、標準および専門的なIAP URLテンプレートを設定することができます。リストできるIAPの数には制限がありません。

設置されたIAPシステムには、標準のURLアドレスがあります。標準および特別なIAPシステムの両方に対応するために、任意のIAPに対するURLテンプレートを設定ファイルに追加することができます。

メールアイテムには特定のIAPへの参照は含まれません。ユーザーには、選択したメールアイテムのアーカイブ状態がわかりません。そのため、物理ストレージの場所は、自動的に検出されます。任意のユーザーの場合、すべてのメールストアは1つのIAP内にあります。セッション中、OWA Extensionは、そのユーザーに適用されるIAPストアを自動的に決定し、セッション中にその情報をキャッシュします。

## 下書きフォルダ内の一時的ストレージ

通常の操作中、OWAには、メールの各部を表示する一時ストレージが必要になります。OWA内で開いた各アーカイブ済みメール項目を表示または転送するために、電子メールの作業用コピーがユーザーの下書きフォルダ内に作成されます。この作業用コピーは、アイテムを閉じるまで残ります。このコピーは手動で削除できます。また、Policy Engineルールをスケジュール設定してアーカイブされたコピーを下書きフォルダから定期的に削除することもできます。

下書きのコピーの一時保存期間は、お客様の環境によってのみ決められます。OWAには組み込みの制約があります。たとえば、ユーザーが約30分間操作を行わない場合にはセッションがタイムアウトする機能が組み込まれています。実際のタイムアウトは、お客様のOWAのセットアップと、ログイン時のユーザーのモード選択によって決まります。

下書きのコピーは、/Drafts/RissTempサブフォルダに保存されます。フォルダが存在しない場合は、作成されます。サブフォルダを作成できない場合は、下書きフォルダが使用されます。

## ルールを使用した一時下書きのコピーの削除

Policy Engineルールは、下書きフォルダの一時項目の削除について定義します。このルールは、外部ハウスキーピング以外の目的では使用されません。ルールをPolicy Engine以外では設定しないでください。EAsソフトウェアでイベントを作成しないようにしてください。

ルールを作成するには、以下の手順に従ってください。

1. Archive Gatewayにログオンします。
2. Policy Engineを開きます。
3. 左ペインで[Management]を展開し、[Rules]を選択します。
4. 右ペインで、右クリックして[Other Tasks] > [Import Rule]の順に選択します。
5. EAsE Cleanup\_OWA\_Drafts\_Template.mrを選択して、[Open]をクリックし、Policy Engineにルールをインポートします。
6. [Information Stores]タブをクリックして、ルールの対象にするメールボックスを選択します。

7. [OK]をクリックして、ルールを保存します。

他の変更は必要ありません。ルールはあらかじめ定義され、下書きフォルダおよびサブフォルダを検索してOWARISS一時項目があるかどうかを確認し、その一時項目を削除します。

8. ルールをスケジューリングするか、またはただちに実行します。

## OWAでのtombstone化されたメール項目の表示

1.5.xより前のバージョンのEAsEでtombstone化された項目がシステム内に存在する場合は、Tombstone Maintenanceイベントおよび関連付けられているルールを実行して、tombstone化されたメッセージがOWAで認識されるようにします。

Tombstone Maintenanceイベントとルールの作成方法については、「[Tombstone Maintenanceイベントの設定](#)」(73ページ)を参照してください。

---

### 注記:

OWA 2007以降でtombstone化されたメッセージを取得するには、OWA Premiumが必要です。

OWA Extensionは、OWA 2007以降のアーカイブされた予定/予定表を取得する機能をサポートしていません。

---

## Exchange 2007以降のインストール環境でのWeb.configファイルの表示

次のOWA Extension設定は、\Exchange Server\ClientAccess\Owa\forms\PERSISTMailItem\Web.configに追加されます。

- <IAPServers>

通常のシステムでは、1つまたは複数のIAPを使用することができます。Web.configの<IAPServers>セクションには、IAPアプライアンスのリストが含まれます。エントリーの構文は、キー名の後にプロトコルおよびIAP名を続けます。キー名は、IAPを識別し、文書のロードに失敗した場合のエラーページに表示されます。<appSettings>セクションに特殊なテンプレートがある場合は、キー名はアプライアンスおよびその対応するテンプレートに対して同じでなければなりません。

例:

```
<IAPServers>
  <add key="000001" value="http://15.43.213.6" />
  <add key="000002" value="https://15.43.10.231" />
</IAPServers>
```

- <appSettings>には、以下の設定を記載します。

- OWA Extensionが導入されるExchangeサーバー

例:

```
<add key="Exchange Server" value="ILM205"/>
```

- Exchangeサーバーのドメイン名

例:

```
<add key="Domain" value="ROSEILM36.COM" />
```

- IAP URLテンプレート

標準のインストールでは、このセクションの唯一の設定は、デフォルト設定です。

```
<add key="IAPDOCTEMPLATEURL" value="#PHOST#/externalAPI/servlet/  
DocumentRetrievalServlet?documentURL=#REF#" />
```

カスタムテンプレートが定義された場合は、テンプレートキー名は、対応するIAPアプライアンスキー名と同じでなければなりません。HPのサポート窓口に指示されない限り、カスタムテンプレートを追加しないでください。

## Exchange 2003インストール環境でのasp.configファイルの使用

Exchange 2003のOWA Extensionで使用されているasp.configファイルには、複数のコンフィギュレーション設定が含まれます。このファイルは、インストールフォルダにあります（通常は、owarissディレクトリ）。

### IAPアプライアンス

通常のシステムでは、1つまたは複数のIAPを使用することができます。asp.configのRISSセクションには、IAPアプライアンスのリストが含まれます。エントリーの構文は、キー名の後にプロトコルおよびIAP名を続けます。キー名はIAPを識別します。次のセクションに特殊なテンプレートがある場合は、キー名はアプライアンスおよびその対応するテンプレートと同じでなければなりません。キー名は、文書のロードに失敗した場合のエラーページにも表示されます。

構文は次のとおりです。Symbol=<protocol>://<IAP>ここで<protocol>は、httpまたはhttpsです。

例:

```
[RISS]  
mbarney=http://mbarney  
papoon=http://papoon
```

### URLテンプレート

asp.configのTemplateセクションには、カスタムOWA Extension URLテンプレートが含まれます。標準のインストールでは、このセクションの唯一の設定は、デフォルト設定です。

カスタムテンプレートが定義された場合は、テンプレートキー名は、対応するIAPアプライアンスキー名と同じでなければなりません。

---

#### ❗ 重要:

HPのサポート窓口に指示されない限り、カスタムテンプレートを追加しないでください。

---

### ASPページ

tombstone化されたIAPアイテムの外観の変更や、UsePropertyTemplateフラグの設定には、asp.configのASPセクションを使用してください。

OWA Extensionでは、IAPにアーカイブされているメッセージにはオプションでIAPアイコンが表示されます。アイコンコンフィギュレーション設定を変更することで、アイコンの表示を無効にすることができます。

```
[ASP]  
; IconではIAPアイコンのオン/オフを切り替えることができます。  
; Default=On  
Icon=On  
; UsePropertyTemplateではExchange 2000の場合に未送信フラグを修正します。
```



```
;Default=TRUE  
;Exchange 2003の場合はFALSEに設定します。  
UsePropertyTemplate=TRUE
```

## Exchange 2003インストール環境でのASPタイムアウトの変更

巨大な添付ファイルのある電子メールを取得して再構築するのにかかる時間は、ExchangeサーバーのCPUサイズに直接関係します。500MHzサーバーのデフォルトの添付ファイルの制限は約3MBです。3GHzサーバーのデフォルトの添付ファイルの制限は約10MBです。(これらの制限は、IISマネージャー内のOWA Extensionサイトの設定に基づいたデフォルトです)。最大添付ファイルサイズを超過すると、取得はタイムアウトします。

これらの制限より添付ファイルが大きくなりそうな場合は、デフォルトのASPタイムアウトを調整することができます。

1. Exchangeサーバーで、IIS Managerを開きます。
2. [Webサイト] > [既定のWebサイト]の順にアクセスし、OWA Extension (OWA RISS) サイトを右クリックします。
3. [プロパティ]を選択します。
4. [仮想ディレクトリ]タブで、[構成]をクリックします。
5. [オプション]タブをクリックします。
6. [ASPのスクリプトのタイムアウト]を探します。  
デフォルトは、90秒です。より大きな添付ファイルを使用できるように、設定を増やすことができます。
7. 設定を変更した後、[OK]をクリックします。  
IISを再起動する必要はありません。

---

### 注記:

OWA 2007以降では、タイムアウトの設定を手動で調整する必要はありません。

---

## ブラウザーの機能

OWAには、PremiumとBasicの2つの操作モードがあります。操作および設定のモードは企業で決定されるものであり、Microsoft OWAのインストールマニュアルに説明されています。Premium操作は、Microsoft-Outlookのルック&フィールを備えています。Basic操作モードも似ていますが、一部の機能が使用できない場合があります。

Microsoft Exchange Server 2003では、Microsoft Internet ExplorerでOWA Premiumを使用することを強くお勧めします。

Microsoft Exchange Server 2007以降でtombstone化されたメッセージを取得するには、OWA Premiumが必要です。

## マルチユーザーのサポート

OWAを通して電子メールに同時にアクセスできるユーザー数に制限はありません。基礎となるMicrosoft Exchangeサーバーと対応するホスティングWebサイトのサイズとパフォーマンスのみによって制限されます。これはWebアクセススクリプトであるため、Webサイトのアクセス中によく発生するような若干の遅れが想定されます。

## 巨大な添付ファイル

OWA 2007以降では、70MBを超える添付ファイルがメッセージに含まれる場合、OWAでメッセージを取得できない場合があります。添付ファイルが1つのファイルであるか、複数の小さいファイルであるかに関係なく、合計で70MB以上になると、メッセージを取得できない現象が発生する可能性があります。

## 16 トラブルシューティング

この章では、次のトラブルシューティングのトピックについて説明します。

- ・ OWA 2007でtombstone化されたメッセージを含むフォルダを開くことができない(123ページ)
- ・ OWA 2007でtombstone化されたメッセージを取得できない(123ページ)
- ・ Microsoft Exchange Server 2007の動作がメッセージの重複の検出に影響を与える(123ページ)
- ・ ユーザーのメールボックス内のフォルダがSelective Archivingで処理されない場合がある(125ページ)
- ・ 電子メールの添付ファイルの変更を取得できない(125ページ)
- ・ 配布リスト宛てに送信したメッセージが見つからない(125ページ)
- ・ DiskSpaceBufferエラー(126ページ)
- ・ HPバッチエクスポートエラー(126ページ)

### OWA 2007でtombstone化されたメッセージを含むフォルダを開くことができない

OWA ExtensionがOWA 2007で正しく動作するためには、Microsoft Exchange Server 2007 SP1の更新プログラムのロールアップパック5をインストールする必要があります。

この更新プログラムをインストールしていない場合、tombstone化されたメッセージ (IPM.Note) を含むフォルダをOWAで開くと、エラーメッセージが表示されます。

場合によっては、tombstone化されたメッセージとtombstone化されていないメッセージが混在するフォルダを開くこともできますが、tombstone化された電子メールは画面に表示されません。「OWA can not complete your request」というダイアログボックスが表示されます。

この問題は、他のtombstone化された文書や仕事などのアイテムを含むフォルダには発生しません。

### OWA 2007以降でtombstone化されたメッセージを取得できない

OWA 2007以降でtombstone化されたメッセージをIAPから取得するには、OWA Premiumが必要です。

Selective Archivingでアーカイブされた予定や予定表はOWA 2007以降で取得できません。ただし、OutlookやIAP Webインターフェイスでは、これらの予定表を取得できます。

### Microsoft Exchange Server 2007以降の動作がメッセージの重複の検出に影響を与える

#### 概要

Microsoft Exchangeは、各メッセージのクライアント送信時刻 (送信日付) をMAPI日付プロパティに保存します。この日付プロパティはミリ秒単位です。

2007バージョン以前のExchangeでは、受信者のメールボックスで送信、ジャーナリング、または受信されたメッセージは、メッセージのどのインスタンスでも同じ単位 (ミリ秒) の数値を持っていました。

一方、Exchange 2007以降では、送信メッセージのクライアント送信時刻だけにミリ秒の部分が保持されています。受信者のメールボックスにあるジャーナリングされたメッセージや受信されたアイテムには、ミリ秒まで細かくありません。数値が切り捨てられています。

このような2つのExchangeバージョンの差異は、ハッシュ (EAs ExchangeやIAPのメッセージを一意に識別するコンピューター処理したシグネチャー) の計算に影響します。同じメッセージでもハッシュが異なる可能性があるため、IAPでアーカイブされる場合に重複として検出されません。

## HP RIM 1.x

1.xバージョンのアーカイブソフトウェア (通称Reference Information ManagerまたはRIM) は、クライアント送信時刻のMAPIプロパティを読み取り、ミリ秒を最も近い秒に丸めていました (500ミリ秒以上は秒に切り上げ)。こうして丸められた日付が、メッセージのハッシュの計算に使用されました。

- Exchange 2003/2007以降の混在環境でCompliance Archivingを実行したときに、複数のジャーナルメールボックスが異なるバージョンのExchangeにホストされていた場合、ハッシュの異なる重複メッセージが作成された可能性があります。
- Exchange 2007以降のメールボックスのSelective Archivingを実行した場合、送信済みアイテムフォルダからアーカイブされたメッセージによって、(ハッシュの異なる) 重複メッセージがIAPシステムに取り込まれた可能性があります。

## HP EAs Exchange 2.x

HP EAs Exchange 2.xのメッセージのハッシュは、次の方法で計算されます。

- Exchange 2007以降のサーバーからアーカイブされた標準の電子メールメッセージ (IPM.Note):
  - すべての送信済みアイテムには、ミリ秒を切り捨てて計算したハッシュが含まれています。ここには、Exchange 2007以降のサーバーからアーカイブされた送信済みアイテムやPST Import ManagerでインポートしたExchange 2007以降のサーバーのメールボックスの送信済みアイテムなどがあります。
  - すべての未送信アイテムは、ミリ秒の値を含むHP RIM 1.xのハッシュ論理を使用します。
- Exchange 2007以降のサーバーからアーカイブされた非標準の電子メールメッセージ (IPM.Note以外):  
送信状態やサーバーの場所に関係なく、予定表、仕事などの非標準メッセージには、ミリ秒を切り捨てて計算したハッシュが含まれています。

Exchange 2007以降のサーバーからアーカイブされた送信済みアイテムと、以前のバージョンのExchangeから受信またはアーカイブされた送信済みアイテムは、ハッシュについて等しいとはみなされません。Exchange 2007以降に移行する予定の場合は、移行前に送信済みアイテムフォルダ内のすべてのメッセージをアーカイブすることをお勧めします。このような操作によって、システムに取り込まれる重複データの量を最小限に抑えることができます。

Exchange 2003/2007以降の混在環境では、生成される日付値が2つのExchangeバージョン間で一致しないため、ハッシュは必ずしも等しくありません。この不一致のため、混在環境を長期間続けることはお勧めしません。

HPIはこの動作についてMicrosoftと協議中です。この問題の解決策によっては、将来のEAs Exchangeリリースにさらに変更を加える可能性もあります。

## ユーザーのメールボックス内のフォルダがSelective Archivingで処理されない場合がある

デフォルトでは、Policy EngineはSelective Archiving処理中にメールボックスのフォルダのクエリが終了しても、そのフォルダを開いたままにします。Exchange Server 2003 SP2クライアントでは、同時に500フォルダしか開くことができません。したがって、Exchange 2003 SP2を実行するサーバーでは、500フォルダ以上を含むユーザーのメールボックスは、Selective Archivingで完全には処理されません。

すべてのユーザーのメールボックスを完全にマイニングするには、各Archive Gatewayで以下の手順に従ってください。

1. アーカイブサービスアカウントでArchive Gatewayにログオンします。
2. regeditを開きます。
3. レジストリエディターで、HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Sherpa Software Group\Mail Attender for Exchange Enterprise Edition\Serviceに移動します。
4. 文字列値「Keep Mailbox Folders Open」を追加します。
5. 値をFalseに設定します。
6. レジストリを終了します。
7. Mail Attender Enterpriseサービスを再起動し、レジストリを設定を有効にします。

## 電子メールの添付ファイルの変更を取得できない

Microsoft Outlookでは、エンドユーザーが、添付ファイルをデスクトップ/サーバーに保存したりExchange MTA経由でメッセージを送信（応答、転送など）したりすることなく、Exchangeサーバー上で「インプレース」で電子メールの添付ファイルを変更することができます。HP EAs Exchangeは、このような変更を自動で取得しません。このソフトウェアの目的はトランザクションメッセージを取得することであり、個人的に変更された添付ファイルを取得することではありません。添付ファイルの「インプレース」での変更が、組織で広く行われている場合は、これらの変更を取得する方法についてHPサポートにお問い合わせください。Compliance ArchivingとSelective Archivingをともに実行している場合は、添付ファイルへの「インプレース」の変更は保存されない可能性があります。

## 配布リスト宛てに送信したメッセージが見つからない

EAs Exchange Selective ArchivingとPST Importでは、アーカイブ中に配布リストが展開されません（エンベロープジャーナリングを実装している場合、配布リストは、Compliance Archiving中でのみ展開されます）。各受信者のIAPレポジトリで、配布リストを使用したメッセージをアーカイブする場合、グローバル設定ファイルのEnsureOwnerReceiptパラメーターをTrueに設定する必要があります。EnsureOwnerReceiptは、メールボックスの所有者のSMTPアドレスが受信者のリストに表示されていないときは常にメッセージをアーカイブします。

EAs Exchange 2.0および2.1のSelective ArchivingとPST Importでは、EnsureOwnerReceiptが自動的に有効になります。ただし、このEnsureOwnerReceiptパラメーターを以前のバージョンのソフトウェアで有効にしていない場合、配布リストを使って送信したメッセージは、各受信者のレポジトリに合わせて選択的にアーカイブされていません。そのため、IAPレポジトリを検索しても、送信したメッセージは見つかりません。

以前に保存したメッセージをIAPユーザーのレポジトリに割り当てるには、HPサポートにお問い合わせください。

なお、メールボックスの所有者が指定されていないため、IAP上でメッセージを再処理しても、この問題は解決されません。

## DiskSpaceBufferエラー

フォルダの取得が有効な構成でSelective Archivingの実行中に「DiskSpaceBuffer Threshold has been reached (DiskSpaceBufferのスレッシュホールドに到達しました)」エラーが報告される場合は、IAPがクローズされたSmart Cellにあるメッセージのフォルダ情報を更新しようとしています。エラーの影響を受けるメッセージは、HP EAs Exchangeソフトウェアでは処理できません。

たとえば、ユーザーがアーカイブされたメッセージをOutlookフォルダ間で移動すると、フォルダが更新されます。フォルダが次にアーカイブされたとき、IAPは以前にアーカイブされたメッセージのフォルダ名を更新しようとします。

空きディスクスペースが設定された水準以下になるまでは、クローズされたSmart Cell内でフォルダを変更できます。空きディスクスペースが設定された水準以下になると、IAPはフォルダの変更を拒否し、ディスクフルエラーを報告します。

ディスクフルの動作の解除はIAPで設定できますが、この設定はHPテクニカルサポートが行います。

## HPバッチエクスポートエラー

IAP Webインターフェイスからメッセージをエクスポートするときに、次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。



このようなエラーメッセージが表示された場合は、以下のことを確認してください。

- Citrixサーバーセッションなどのリモートアプリケーションセッションを通じてユーザーがOutlookにアクセスしていないこと。  
Outlookおよびプラグインがリモートサーバーにインストールされている場合、ユーザーがローカルコンピューター上のブラウザからIAP Webインターフェイスを開いたときは、エクスポート機能を使用できません。
- Outlookプラグインがローカルコンピューターにインストールされていること。  
エクスポート機能を動作させるには、Outlookおよびプラグインをローカルコンピューター上にインストールする必要があります。

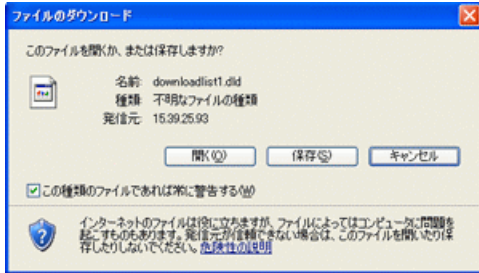
Outlookとプラグインがローカルコンピューター上にインストールされている場合は、Windowsシステム上で、.dldファイルタイプが、アーカイブされたメッセージのエクスポートに使用されるHPBatchExportと関連付けられていることを確認します。

ファイルタイプを確認するには、以下の手順に従ってください。

- (Windows Vista) [コントロールパネル]で、[既定のプログラム]を選択し、[ファイルの種類またはプロトコルのプログラムへの関連付け]をクリックして、ファイルタイプのリストを表示します。
- (その他のWindowsオペレーティングシステム) [コントロールパネル]で、[ツール] > [フォルダオプション]をクリックして、[ファイルの種類]タブを開き、ファイルタイプのリストを表示します。



ファイルタイプのリストにDLDファイルタイプが表示されていないか、このファイルタイプがHPBatchExportと関連付けられていない場合は、IAPからメッセージをエクスポートするときに[不明なファイルの種類]がダイアログボックスに表示されます。



## ファイルタイプの関連付けの作成

ファイルタイプのリストにDLDが表示されていない場合は、DLDファイルタイプの関連付けを作成します。

Windows Vistaの場合

1. 一時インターネットファイルフォルダ内に作成されたダウンロードリストファイルを右クリックします。  
IAP Webインターフェイスで[エクスポート すべての項目]または[エクスポート チェック項目]を選択すると、ユーザーが選択したアーカイブされたメッセージへのリンクが、DLDファイルと呼ばれる特別なダウンロードファイルに格納されます。エクスポートツールでは、これらのリンクを使用してメッセージのコピーをエクスポートします。

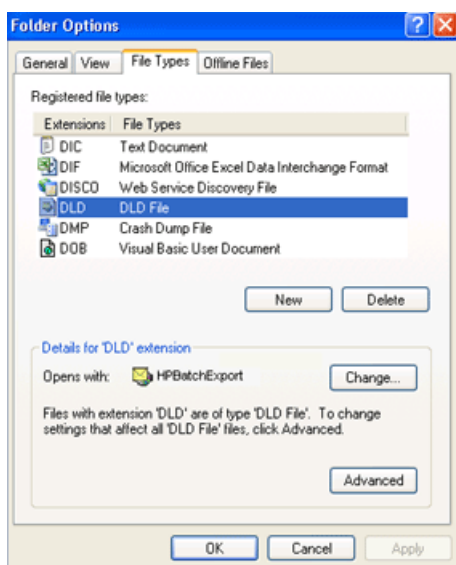
たとえば、Internet Explorerの場合、このパスはDocuments and Settings\[ユーザーID]\Local Settings\Temporary Internet Files\downloadlist2.dldとなります。

2. [プロパティ]を選択します。
3. [全般]タブで、[変更]をクリックします。
4. [参照]をクリックし、以下の場所を参照します。  
`\Program Files\Hewlett-Packard\HP EAsE Outlook Plug-In`
5. [HPBatchExport.exe]を選択し、[開く]をクリックします。
6. [OK]をクリックして、.dldファイルタイプをHPBatchExportに関連付けます。

その他のWindowsオペレーティングシステムの場合:

1. [コントロールパネル]で、[ツール] > [フォルダオプション]をクリックして、[ファイルの種類]タブを開きます。
2. [新規]をクリックします。
3. [ファイルの拡張子]ボックスで、DLDと入力し、[OK]をクリックします。
4. [拡張子'DLD'の詳細]で、[変更]をクリックします。
5. 表示されたダイアログボックスで[一覧からプログラムを選択する。]をクリックし、[OK]をクリックします。
6. [ファイルを開くプログラムの選択]で[参照]をクリックします。
7. 以下のフォルダを参照します。  
`\Program Files\Hewlett-Packard\HP EAsE Outlook Plug-In`
8. [HPBatchExport.exe]を選択し、[開く]をクリックします。

9. [OK]をクリックして、.dldファイルタイプをHPBatchExportに関連付けます。



## ファイルタイプの関連付けの変更

DLDがファイルタイプとして表示されていても、他のプログラムと関連付けられている場合は、関連付けを変更します。

Windows Vistaの場合:

1. [コントロールパネル]で、[既定のプログラム]を選択し、[ファイルの種類またはプロトコルのプログラムへの関連付け]をクリックします。
2. [.dld]拡張子を選択し、[プログラムの変更]をクリックします。
3. [ファイルを開くプログラムの選択]で[参照]をクリックします。
4. 以下のフォルダを参照します。  
    \Program Files\Hewlett-Packard\HP EAsE Outlook Plug-In
5. [HPBatchExport.exe]を選択し、[開く]をクリックします。
6. [OK]をクリックして、.dldファイルタイプをHPBatchExportに関連付けます。

その他のWindowsオペレーティングシステムの場合:

1. [コントロールパネル]で、[ツール] > [フォルダオプション]をクリックして、[ファイルの種類]タブを開きます。
2. [ファイルタイプ]タブでDLD拡張子を選択し、[変更]をクリックします。
3. [ファイルを開くプログラムの選択]ダイアログボックスで、[参照]をクリックします。
4. 以下のフォルダを参照します。  
    \Program Files\Hewlett-Packard\HP EAsE Outlook Plug-In
5. [HPBatchExport.exe]を選択し、[開く]をクリックします。
6. [OK]をクリックして、.dldファイルタイプをHPBatchExportに関連付けます。



---

# A インデックスが作成されるドキュメントタイプとコンテンツタイプ

- ・ インデックスが作成されるドキュメントタイプ (129ページ)
- ・ メッセージのMIMEタイプ (130ページ)
- ・ Microsoft Office 2007に関連するその他のインデックス作成の詳細/制限事項 (132ページ)

## インデックスが作成されるドキュメントタイプ

全文検索の可能なメッセージと添付ファイルは、内容のインデックスが作成されたメッセージと添付ファイルのみです。インデックスを作成すると、以降の検索に備えてメッセージおよび添付ファイル内の語句の目録が作られます。

### Exchange項目

Compliance Archivingでは、HP EAs Exchangeは次のタイプのExchange項目のインデックスを作成します。

- ・ 標準の電子メール (IPM.Note)  
セキュリティ保護され暗号化された電子メールではインデックスは作成されません。
- ・ 配信不能レポート (REPORT.IPM)
- ・ 会議出席依頼 (IPM.Schedule)
- ・ 仕事の依頼 (IPM.TaskRequest)

HP EAs Exchangeは、Selective ArchivingとPST Importで次のタイプのExchange項目のインデックスを作成します。

- ・ 標準の電子メール (IPM.Note)  
セキュリティ保護され暗号化された電子メールではインデックスは作成されません。
- ・ 予定表 (IPM.Appointment)
- ・ 仕事 (IPM.Task)
- ・ ドキュメント (IPM.Document)
- ・ パブリックフォルダ項目 (IPM.Post)

## インデックスが作成されるファイルタイプ

電子メールメッセージに加えて、以下の種類のメッセージ添付ファイルに関するインデックスが作成されません。

- ・ テキストファイル (英語のみ)
- ・ リッチテキスト形式 (.rtf)
- ・ HTML (HyperText Markup Language) ファイル
- ・ 次のMicrosoft Officeプログラム (Office 2007を含む) で使用されるファイル: Word、Excel、PowerPoint
- ・ Adobe Acrobat Readerで表示できるPDF (Portable Document Format) ファイル

- ZIPファイル

ZIPファイルと埋め込みメッセージについては、ファイルの内容が展開された上でインデックスが作成されます。注記: 電子メール、HTMLファイル、Microsoft OfficeファイルあるいはPDFファイルとは違い、テキストファイルには通常言語情報(キャラクターセットあるいはエンコード情報)が含まれないため、正しい言語でインデックスは作成されない可能性があります。そのため、英語以外の言語のテキストファイルの検索はサポートされません。注記: IAP2.0以前を使用している場合に、ZIPファイル中に英語以外のファイル名が含まれていると、インデックスが作成されません。そのため、IAP2.0以前では英語以外の言語のファイル名を含むZIPファイルの内容の検索はサポートされません。

- 埋め込みメッセージ (RFC 822メッセージ)

HTMLマークアップタグなど、表示されないソースコードの語句は無視されます。

通常、インデックス作成ではドキュメントの書式が無視され、電子メールまたは添付ファイルに表示されている語句のみがインデックス作成の候補になります。ただし、ドロップキャップ(頭文字を大きく表示する書式)がMicrosoft Word文書で使用されている場合は、インデックス作成の際に、ドロップキャップ書式が設定されている語句が2つの単語として処理されます。これは、Wordではドロップキャップをテキストボックスにして周囲の段落から際立たせているためです。下記の例では、XYZcorpが「X」および「yzcorp」としてインデックス付けされます。

**X**YZcorp has posted strong results in the second quarter. Chief Executive Officer Bob Brown announced today that the company is on track to beat

次のタイプの添付ファイルではインデックスは作成されません。

- 画像ファイル
- 音楽ファイル
- ビデオファイル
- インデックスが作成されるファイルタイプのリストに含まれていないその他のファイルタイプ

これらのファイルはアーカイブできますが、ファイル名やファイル拡張子など、外部の識別情報を使用することによってのみ検索できます。

## メッセージのMIMEタイプ

以下に示すMIMEコンテンツタイプのインデックスが作成されます。それぞれインデックスが作成されるドキュメントタイプの1つと対応します。

MIME形式ではない、テキスト形式のみの電子メールメッセージもインデックスが作成されます。

表3 IAPでインデックスが作成されるファイルタイプとMIMEタイプ

ファイル拡張子	ファイルタイプ	MIMEコンテンツタイプ
.xml	XMLドキュメント	text/xml
.txt	テキストファイル(特別な指定がない限りISO-8859-1として処理)	text/plain
.htm、.html、.stm	HTMLドキュメント	text/html、rtf/html
.rtf	リッチテキスト形式	rtf/text、application/rtf
.dat	TNEF (Microsoft Exchange用)	ms/tnef

ファイル拡張子	ファイルタイプ	MIMEコンテンツタイプ
.mht、.mhtml、 .nws、.eml	電子メールメッセージ	message/RFC 822
.doc、.dot	Microsoft Word 97～2003文書	application/msword
.xla、.xlc、.xlm、 .xls、.xlt、.xlw	Microsoft Excel 97～2003文書	application/vnd.ms-excel、 application/ms-excel
.pot、.pps、.ppt	Microsoft PowerPoint 97～2003 文書	application/vnd.ms-powerpoint、 application/vnd.mspppt
.pdf	Adobe Portable Document形式	application/pdf
.zip	ZIPアーカイブ	application/zip
.docx	Microsoft Word 2007 文書	application/vnd.openxmlformats-officedocument. wordprocessingml.document
.docm	Microsoft Word 2007マクロ有効 文書	application/vnd.ms-word.document.macroEnabled.12
.dotx	Microsoft Word 2007 テンプレート	application/vnd.openxmlformats-officedocument. wordprocessingml.template
.dotm	Microsoft Word 2007マクロ有効 文書テンプレート	application/vnd.ms-word.template.macroEnabled.12
.xlsx	Microsoft Excel 2007 ブック	application/vnd.openxmlformats-officedocument. spreadsheetml.sheet
.xlsm	Microsoft Excel 2007マクロ有効 ブック	application/vnd.ms-excel.sheet.macroEnabled.12
.xltx	Microsoft Excel 2007テンプレート	application/vnd.openxmlformats-officedocument. spreadsheetml.template
.xltn	Microsoft Excel 2007マクロ有効 ブックテンプレート	application/vnd.ms-excel.template.macroEnabled.12
.xlam	Microsoft Excel 2007アドイン	application/vnd.ms-excel.addin.macroEnabled.12
.pptx	Microsoft PowerPoint 2007プレ ゼンテーション	application/vnd.openxmlformats-officedocument. presentationml.presentation
.pptm	Microsoft PowerPoint 2007マク ロ有効プレゼンテーション	application/vnd.ms-powerpoint.presentation. macroEnabled.12
.ppsx	Microsoft PowerPoint 2007スラ イドショー	application/vnd.openxmlformats-officedocument. presentationml.slideshow
.ppsm	Microsoft PowerPoint 2007マク ロ有効スライドショー	application/vnd.ms-powerpoint.slideshow. macroEnabled.12
.potx	Microsoft PowerPoint 2007テン プレート	application/vnd.openxmlformats-officedocument. presentationml.template

ファイル拡張子	ファイルタイプ	MIMEコンテンツタイプ
.potm	Microsoft PowerPoint 2007マクロ有効プレゼンテーションテンプレート	application/vnd.ms-powerpoint.template.macroEnabled.12
.wpd	Corel WordPerfect for Windows - バージョン12.0/X3まで	application/wordperfect、application/wpd
.qpw、.wb1、.wb2、.wb3	Corel Quattro Pro for Windows - バージョン12.0/X3まで	application/qpw、application/wb1、application/wb2、application/wb3
.shw	Corel Presentations - バージョン12.0/X3まで	application/presentations

## Microsoft Office 2007に関連するその他のインデックス作成の詳細/制限事項

### Office 2007のサポートされる機能とプロパティ

表4 Microsoft Officeのサポートされる機能

機能	Microsoft Word	Microsoft PowerPoint	Microsoft Excel
内容	はい	はい	はい
表	はい	はい	はい
テキストボックス	はい	はい	はい
ヘッダー/フッター	はい	はい	はい
コメント	はい	はい	はい
脚注/文末脚注	いいえ	いいえ	いいえ
署名	はい	はい	いいえ
グラフ	はい	はい	はい
オブジェクト (Microsoft Office、WordPad、その他)	はい	いいえ	はい
埋め込みオブジェクト (OLE)	はい	はい	はい
ノート	該当なし	はい	該当なし
ワードアート	はい	はい	はい
SmartArt	いいえ	いいえ	いいえ

機能	Microsoft Word	Microsoft PowerPoint	Microsoft Excel
シート名	該当なし	該当なし	Excel 2007: いいえ Excel 97～2003: はい

表5 Microsoft Officeのサポートされるプロパティ

タイプ	プロパティ	Microsoft Word	Microsoft PowerPoint	Microsoft Excel
ドキュメントのプロパティ	作成者	はい	はい	はい
	タイトル	はい	はい	はい
	件名	はい	はい	はい
	キーワード	はい	はい	はい
	カテゴリ	はい	はい	はい
	ステータス	はい	はい	はい
	コメント	はい	はい	はい
	場所	いいえ	いいえ	いいえ
拡張プロパティ: 全般	種類	いいえ	いいえ	いいえ
	場所	いいえ	いいえ	いいえ
	サイズ	いいえ	いいえ	いいえ
	MS-DOSファイル名	いいえ	いいえ	いいえ
	作成日時	いいえ	いいえ	いいえ
	更新日時	いいえ	いいえ	いいえ
	アクセス日時	いいえ	いいえ	いいえ
	属性	いいえ	いいえ	いいえ
拡張プロパティ: 統計	作成日時	はい	はい	はい
	更新日時	はい	はい	はい
	アクセス日時	はい	はい	はい
	印刷日時	はい	はい	はい
	最終保存者	はい	はい	はい
	改訂番号	はい	はい	はい

タイプ	プロパティ	Microsoft Word	Microsoft PowerPoint	Microsoft Excel
	統計	はい	はい	はい
拡張プロパティ: カスタム	確認者	はい	はい	はい
	顧客	はい	はい	はい
	完了日	はい	はい	はい
	部門	はい	はい	はい
	複製先	はい	はい	はい
	配置	はい	はい	はい
	部署	はい	はい	はい
	文書番号	はい	はい	はい
	編集者	はい	はい	はい
	行先	はい	はい	はい
	グループ	はい	はい	はい
	言語	はい	はい	はい
	メールボックス	はい	はい	はい
	事業所	はい	はい	はい
	所有者	はい	はい	はい
	プロジェクト	はい	はい	はい
	発行側	はい	はい	はい
	目的	はい	はい	はい
	差出人	はい	はい	はい
	記録者	はい	はい	はい
	記録日	はい	はい	はい
	リファレンス	はい	はい	はい
	リンク元	はい	はい	はい
ステータス	はい	はい	はい	
電話番号	はい	はい	はい	

タイプ	プロパティ	Microsoft Word	Microsoft PowerPoint	Microsoft Excel
	タイプスト	はい	はい	はい
拡張プロパティ: 内容	構成内容	はい	はい	はい
拡張プロパティ: 概要	タイトル	はい	はい	はい
	件名	はい	はい	はい
	作成者	はい	はい	はい
	管理者	はい	いいえ	はい
	会社名	はい	いいえ	はい
	カテゴリ	はい	はい	はい
	キーワード	はい	はい	はい
	コメント	はい	はい	はい
	ハイパーリンクの基点	Word 2007: はい Word 97～2003: いいえ	はい	Excel 2007: はい Excel 97～2003: いいえ
	テンプレート	Word 2007: はい Word 97～2003: いいえ	はい	いいえ

## Microsoft Office 2007のインデックス作成に関する制限事項

IAP 1.6.1または2.0のインストール前にアーカイブされたOffice 2007文書では、インデックスの作成や内容の検索はできません。

また、Office File ConverterによってMicrosoft Officeバージョン2007に変換された一部の文書も正しくインデックスが作成されない可能性があります。

以下の項目は現時点ではサポートされません。

- ・ PowerPointスライド内のノート
- ・ Excel内部のスプレッドシート名
- ・ 一部の埋め込みOLEオブジェクト
- ・ Excelグラフ内の特定のテキスト





## B サポートされる文字セット

次の表に、IAPにアーカイブされるExchangeメッセージでサポートされる文字セットを示します。

表6 サポートされる文字セット

サポートされる文字セット	説明
ISO-LATIN-1	西欧言語、拡張ASCII
ISO-8859-1	西欧言語、拡張ASCII
ISO-8859-15	西欧言語、拡張ASCII
WINDOWS-1252	(Windowsでサポートされているコードページ) Latin 1
US-ASCII	7ビットAmerican Standard Code for Information Interchange (ASCII)
UTF-7	汎用 (すべての言語)
UTF-8	汎用 (すべての言語)
ISO-8859-2	東欧言語
KOI8-R	キリル文字 (ロシア語およびブルガリア語)
WINDOWS-1251	(Windowsでサポートされているコードページ) キリル文字
WINDOWS-1253	(Windowsでサポートされているコードページ) ギリシャ語
WINDOWS-1254	(Windowsでサポートされているコードページ) トルコ語
WINDOWS-1255	(Windowsでサポートされているコードページ) ヘブライ語
WINDOWS-1256	(Windowsでサポートされているコードページ) アラビア語
WINDOWS-1257	(Windowsでサポートされているコードページ) バルト諸国語: エストニア語、ラトビア語、リトアニア語
ISO-8859-9	トルコ語
WINDOWS-1258	(Windowsでサポートされているコードページ) ベトナム語
GB18030	中国語 (中国)
GB2312	中国語 (中国)
GBK	中国語 (中国)
EUC-TW	中国語 (台湾)
BIG5	中国語 (台湾)
BIG5-HKSCS	中国語 (香港)

サポートされる文字セット	説明
EUC-KR	韓国語
ISO-2022-KR	韓国語
Johab	韓国語
KS_C_5601-1987	韓国語
ISO-2022-JP	日本語
EUC-JP	日本語
SHIFT-JIS	日本語

# C PST Import Manager: Archive Requestファイルの仕様

以下では、Archive Requestファイルで使用されるXMLタグを示します。ファイルは、PST Import Manager インターフェイスを使用して作成できます。また、「[Archive Requestファイルの例](#)」(141ページ)を参照して手動で作成することもできます。

- ・ [設定の説明](#) (139ページ)
- ・ [Archive Requestファイルの例](#) (141ページ)

## 設定の説明

<Header>で指定されるすべての設定は、<FileSpec>レベルで変更することができます。Archive Requestファイルに記述されているすべての設定は、特に記載がない場合、<Header>または<FileSpec>セクションに必要です。

表7 Archive Requestファイルヘッダーのタグ

タグ	説明
<Version>	このArchive Request形式に関連するバージョン番号。現在のバージョンは、2.0です。
<Server>	アドレスを解決するためにGALにアクセスするときに使用されるExchangeサーバー。
<Mailbox>	アドレスを解決するためにGALにアクセスするときに使用されるExchangeサーバー上のメールボックス。
<SMTPServer>	メッセージをIAPへ送信するために使用されるIAP SMTPポータル DNS名またはIPアドレス。これは、Domain.jcmlで使用されるipToDomainInfo属性と同じ値です。
<SMTPPort>	(オプション) <SMTPServer>で使用されるポート番号。デフォルトは25です。
<HTTPServer>	アーカイビングのセットアップ対象になるIAPドメインのVIP。その後、固定的でないポート番号を付けます (例: 192.168.9.8:81)。この設定により、メッセージ単位の負荷分散が可能になります。
<IAPDomain>	送信される重複するメッセージをチェックするときに使用されるIAPドメイン。IAPドメインは、大文字と小文字が区別され、Domain.jcml内のドメイン名と一致する必要があります。
<Repository>	<FileSpec>に表示される文書が配信されるレポジトリ。
<AuditRepository>	PSTインポートプロセス中に作成される処理ログを受信するレポジトリの名前。

タグ	説明
<UseTNEF>	<p>送信されるメッセージをTNEF形式で保存するかどうかを指定します。</p> <p>Trueは、標準電子メールメッセージのアーカイブにTNEF形式を使用することを示します。</p> <p>Falseは、標準電子メールメッセージのアーカイブにTNEF形式を使用しないことを示します。</p> <p>非標準のメッセージ（予定表、仕事など）は、すべて自動でTNEFを使用してアーカイブされます。TNEFの詳細については、「<a href="#">TNEFメッセージ形式</a>」(25ページ)を参照してください。</p>
<UseFolderCapture>	<p>メッセージとともにフォルダ情報を保存するかどうかを指定します。</p> <p>Trueは、フォルダ情報を取得することを示します。</p> <p>Falseは、フォルダ情報を取得しないことを示します。</p> <p>注記: フォルダ情報を保存するには、グローバル設定ファイル (HP EAsE PST Importer.ini) とIAP上のDomain.jcmlファイルでもフォルダの取得を有効にする必要もあります。</p>
<ForceProcessing>	<p>すでに処理されたPSTファイル内のメッセージをtombstone化するかどうかを指定します。通常の状況では、PSTファイルは、変更されない限り、再処理されません。このオプションは、PST LoaderとPST Import Utilityにファイルの再処理を強制します。</p> <p>&lt;ForceProcessing&gt;タグは、&lt;Header&gt;のみでサポートされています。個々の&lt;FileSpec&gt;には適用できず、&lt;FileSpec&gt;に指定した場合は無視されます。</p>
<Tombstone>	<p>tombstone化を制御します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 0: tombstone化を有効にしません。</li> <li>・ 1: 添付ファイルのみを削除します。アイテムがtombstone化されます。</li> <li>・ 2: 添付ファイルとメッセージ本文の両方を削除します。アイテムがtombstone化されます。</li> </ul>
<FileSpecCount>	<p>(オプション) ファイルの後の方でリストされる&lt;FileSpec&gt;タグの数。提供すると、このタグは、指定した数と実際に検出される&lt;FileSpec&gt;タグの数を比較して、ファイルの完全性を制御します。</p>

<FileSpecList>には、<FileSpec>タグで区切られたファイル仕様のリストが入っています。特に記載がない場合、<FileSpec>用に記述された設定は必須です。

表8 Archive RequestのFileSpecタグ

タグ	説明
<FilePath>	<p>インポートされるファイルのパスとファイル名。ワイルドカードを使用でき、処理の前に展開されます。UNCパスはサポートされ、強くお勧めします。</p>
<ProcessingType>	<p>&lt;FilePath&gt;で実行されるインポート処理の種類。PSTは、サポートされる唯一の処理タイプです。</p>

タグ	説明
<Server> <Mailbox> <SMTPServer> <SMTPPort> <HTTPServer> <IAPDomain> <Tombstone> <UseTNEF> <UseFolderCapture> <Repository> <AuditRepository>	任意です。これらのタグは、<Header>設定を変更するために、<FileSpec>レベルのみで使用します。

## Archive Requestファイルの例

```

<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
<ArchiveRequest>
  <Header>
    <Version>2.0</Version>
    <Server>UHCLEM</Server>
    <Mailbox>dmontgomery</Mailbox>
    <SMTPServer>192.168.4.1</SMTPServer>
    <SMTPPort>25</SMTPPort>
    <HTTPServer>192.168.4.1:81</HTTPServer>
    <IAPDomain>fire1</IAPDomain>
    <Repository>user@firesign.dev</Repository>
    <AuditRepository>audit@firesign.dev</AuditRepository>
    <UseTNEF>True</UseTNEF>
    <UseFolderCapture>True</UseFolderCapture>
    <EnsureOwnerReceipt>True</EnsureOwnerReceipt>
    <ForceProcessing>True</ForceProcessing>
    <Tombstone>1</Tombstone>
    <FileSpecCount>3</FileSpecCount>
  </Header>
  <FileSpecList>
    <FileSpec>
      <FilePath>
        E:\PSTFiles\PSTImportTest.pst
      </FilePath>
      <ProcessingType>PST</ProcessingType>
    </FileSpec>
    <FileSpec>
      <FilePath>
        E:\PSTFiles\Compliance.pst

```

```
</FilePath>
<ProcessingType>PST</ProcessingType>
</FileSpec>
<FileSpec>
<FilePath>
E:\PSTFiles\Test2.pst
</FilePath>
<ProcessingType>PST</ProcessingType>
</FileSpec>
</FileSpecList>
</ArchiveRequest>
```

## D Outlookプラグインのレジストリ設定

Outlookプラグインをインストールすると、クライアントの\Program Files\Hewlett-Packard\HP EASE Outlook Plug-Inフォルダに必要なコンポーネントが登録されます。

また、HKEY\_LOCAL\_MACHINE (HKLM) にレジストリの初期設定が行われます (HKLM\Software\Hewlett-Packard\Outlook PlugIn)。

プラグインがインストールされたマシン上でユーザーが初めてOutlookを実行すると、これらのレジストリ設定がHKLMからHKEY\_CURRENT\_USER (HKCU) にコピーされます。

(HKCU\Software\Hewlett-Packard\Outlook PlugIn)。

### 注記:

Microsoft Vista 64ビット版のクライアントでは、HKLM\Software\Wow6432Node\Hewlett-Packard\Outlook PlugInでレジストリの初期設定が行われます。Outlookを初期化すると、HKCU\Software\Hewlett-Packard\Outlook PlugInに設定がコピーされます。

Outlookで[ツール] > [オプション] > [アーカイブオプション]の順に選択すると、Outlookプラグインの設定をHKCU内でユーザー別に管理できます。

すべてのユーザーに対するデフォルト設定を変更するには、regeditを使用してHKLMを変更してください。それによって、各ユーザーがOutlookを初めて使用するときにHKCUにコピーされ保存されます。レジストリには、以下のデフォルト値が設定されています。

- ・ [キャッシュ関連のレジストリ設定](#) (143ページ)
- ・ [IAP取得関連のレジストリエントリ](#) (145ページ)
- ・ [検索およびエクスポート関連のレジストリ設定](#) (145ページ)
- ・ [管理レジストリの設定](#) (147ページ)

## キャッシュ関連のレジストリ設定

以下の設定は、アーカイブキャッシュの設定で使用されます。

詳細については、「[アーカイブキャッシュの設定](#)」(105ページ)を参照してください。

表9 [HKLM\Software\Hewlett-Packard\Outlook PlugIn\Cache]の設定

レジストリキーとデフォルト値	説明
AttachmentsOnly=True	アーカイブキャッシュが、1つまたは複数の添付ファイルを含むアーカイブメッセージのみをキャッシュするかどうかを示します。デフォルトはTrueです。これをFalseに変更すると、アーカイブキャッシュは添付ファイルの有無とは関係なくすべてのメッセージをキャッシュするようになります。ユーザーが設定できます。

レジストリキーとデフォルト値	説明
EncryptCache=True	MicrosoftのEFS (Encrypting File System) を使用して、アーカイブキャッシュの場所にあるファイルを暗号化します。デフォルトはTrueです。コンピューターのセキュリティ設定によっては、現在のユーザーのみが、キャッシュに格納されたファイルを読み取ることができます。ユーザーのコンピューターの[フォルダオプション]の設定によっては、ファイルはWindows Explorerに緑色で表示されることがあります。ユーザーが設定できます。 注記: アーカイブされたメッセージは、クライアントでEFSが正しく設定されている場合にのみキャッシュに暗号化されて保存されます。このオプションを実装する場合は、MicrosoftのマニュアルでEFSの設定方法を参照してください。
Location	アーカイブキャッシュが存在するフォルダ。キャッシュファイルは、現在のOutlookプロファイルに従ってこの場所に格納されます。HKLMのこのレジストリ値に値を割り当てないでください。これは、ユーザーが最初に行うと、HKCU内の\Documents and Settings\CurrentUser\Local Settings\Application Data\Hewlett-Packard\Cacheに初期化されます。これは、読み取り専用の設定です。
MaxDays=30	アーカイブキャッシュ内に含まれるアーカイブされたメッセージの最大日数です。これは、メッセージの受信日に基づきます。アーカイブされた日やtombstone化された日ではありません。アーカイブキャッシュは、指定された日数よりも受信日が新しいアーカイブされたメッセージをすべて取得してキャッシュします。MaxSize設定がMaxDays設定より優先されることに注意してください。MaxDaysを0に設定すると、MaxSize設定によって対象となるアーカイブされたすべてのメッセージは、受信日に関わりなくキャッシュされます。ユーザーが設定できます。
MaxSize=100	アーカイブキャッシュフォルダのサイズ (メガバイト単位) です。このサイズを超過すると、キャッシュのサイズがこの設定で指定された限度を下回るまで、キャッシュされた.emlファイルが新しいものから順に削除されます。この設定は、MaxDays設定を無効にすることに注意してください。ユーザーが設定できます。
ScanInterval=15	新しいアーカイブされたメッセージに対するスキャンを実行させるまで、アーカイブキャッシュが待機する分数。この設定のタイマーは、キューにあるすべての取得要求が完了するまで、開始されません。したがって、アーカイブキャッシュがアーカイブされたメッセージを取得しているときは、この設定はアクティブになりません。ユーザーが設定できます。
UseCache=True	プラグインがアーカイブキャッシュを使用してIAPにアーカイブされたメッセージをキャッシュするかどうかを示します。デフォルトはTrueです。これをFalseに変更すると、アーカイブキャッシュが起動してアーカイブされたメッセージをダウンロードすることがなくなり、メッセージはOutlookセッションごとにのみキャッシュされます。ユーザーが設定できます。
CacheEML	変更しません。今後の機能拡張のために予約済みです。
CacheMSG	廃止されており、使用されていません。

次のデフォルト設定は、レジストリには表示されません。HPのテクニカルサポートの指示がある場合を除いて追加しないようにしてください。



レジストリキーとデフォルト値	説明
UseCacheManager=True	アーカイブされたメッセージがアーカイブキャッシュにダウンロードされアーカイブキャッシュで管理されていることを示します。 この値をFalseに指定すると、ユーザーが実際にアクセスするIAPのアーカイブ済みメッセージのみがアーカイブキャッシュに配置されます。モバイルユーザーは、このキャッシュオンデマンド機能を使用しないでください。
RetrieveSimpleMessage=True	アーカイブキャッシュが添付ファイルのないシンプルメッセージだけをIAPから取得することを示します。この設定は、アーカイブされたメッセージからメッセージの本文が削除された場合に必要です。この値をFalseに設定すると、ネットワークの帯域幅とアーカイブキャッシュのディスクスペースを節約できます。
ConnectRetryInterval=5	接続のドロップや、その他のネットワーク障害が発生した後で、アーカイブされたメッセージの取得を再開するまでアーカイブキャッシュが待機する分数。
MaxConnectRetryCount=2	アーカイブキャッシュが終了前にネットワーク障害からの復旧を試みる回数。
MaxFetchCount=50	IAPから一度に取得される、アーカイブされたメッセージ数です。
LogToDisk=False	キャッシュステータスウィンドウに報告されたステータス情報を、ローカルファイルシステムのログファイルに複製します。この情報が含まれるファイルは、プラグインのインストールフォルダに、CacheMgr_YYYYMMDD_HHMMSS.logというファイル名で格納されます。
ShowSysTrayIcon=True	アーカイブキャッシュに対してステータスアイコンがシステムトレイに表示されるかどうかを指定します。デフォルトでは、システムトレイアイコンは表示されます。

## IAP取得関連のレジストリエントリ

以下の設定は、アーカイブキャッシュおよびOutlookでのアーカイブされたメッセージの取得に使用されません。

表10 [HKLM¥Software¥Hewlett-Packard¥Outlook PlugIn¥PlugInURLs]設定

レジストリキーとデフォルト値	説明
FetchURL0=http://HOSTNAME	廃棄されたメッセージを取得するために使用されるIAPホスト名またはIPアドレスを (HTTPプロトコルとともに) 指定します。HOSTNAMEは、IAPホスト名またはIPアドレスを指すように変更する必要があります。IAPホスト名およびHTTPプロトコルは、ユーザーによる設定変更が可能です。
FetchURLX=X	1～9の数字を指定します。プラグインは、FetchURL0を使用してtombstone化されたメッセージを取得できない場合、FetchURL1～FetchURL9を順番に使用してメッセージの取得を試みます。

## 検索およびエクスポート関連のレジストリ設定

これらの設定は、OutlookのIntegrated Archive SearchおよびPSTエクスポート機能で使用します。

IAPからのメッセージのエクスポートの詳細については、「[IAPからのメッセージのエクスポート](#)」(111ページ)を参照してください。

表11 [HKLM\Software\Hewlett-Packard\Outlook PlugIn\Search]設定

レジストリキーとデフォルト値	説明
DefaultFolder=Default	PSTエクスポートユーティリティは、アーカイブされたメッセージを、生成されたPSTファイル内のこの名前のフォルダにダウンロードします。ユーザーが設定できます。
PSTFileFolder=C:\PSTFiles	UseExternalFolderSupport=Trueのときに、各PSTファイルを格納するのに使用されるファイルシステムフォルダです。ユーザーが設定できます。
PSTFilePrefix=Compliance Search	UseExternalFolderSupport=Trueのときに、各PSTファイルを作成するのに使用されるファイル名プレフィックスを定義します。各ファイルは、ここで指定されたプレフィックスで始まり、そのファイル名に序数が付加されます。例: ComplianceSearch_001.pst、ComplianceSearch_002.pstなどとなります。ユーザーが設定できます。
UseExternalFolderSupport= True	PSTエクスポートユーティリティを使用してユーザーがPSTファイルを外部に保存できるかどうかを指定します。デフォルトはTrueです。 UseExternalFolderSupport=Trueのとき、PSTエクスポートユーティリティは、PSTFilePrefixのプレフィックスの付いた生成されたPSTファイルを、PSTFileFolderで指定されたフォルダに保存します。ユーザーが設定できます。
AllowExternalFolderSupport=True	Falseに設定すると、ユーザーはPSTファイルを外部に保存できなくなります。これは、管理者/診断用の設定です。HPテクニカルサポートの指示によってのみ修正してください。
次のデフォルト設定は、レジストリには表示されません。HPのテクニカルサポートの指示がある場合を除いて追加しないようにしてください。	
DefaultSearchMonths=6	Integrated Archive Searchのデフォルトの検索範囲は、この値を元に構成されます (現在の日付から、このレジストリで設定した月数まで)。
ResultSetAttempts=0	Integrated Archive Searchの場合: <ul style="list-style-type: none"> <li>0 = 結果セットが完全なものになるまで続行されます。</li> <li>1 = 取得が1回だけ試みられます (ResultSetLimitを超えない範囲)。</li> <li>2 = 取得が2回だけ試みられます (ResultSetLimitを超えない範囲)。</li> </ul>
ResultSetLimit=0	Integrated Archive Searchの場合: <ul style="list-style-type: none"> <li>0 = デフォルトでバックエンド結果セットサイズに設定されます。</li> <li>他の数値 = 結果セットから表示する結果の上限</li> </ul>
SingleSignonEnabled=0	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 = True。シングルサインオンは有効です。</li> <li>0 (またはそれ以外の数字) = シングルサインオンは有効ではありません。</li> </ul>

レジストリキーとデフォルト値	説明
TraceLevelToLog=0	<p>[バージョン情報]ウィンドウで[ログ有効]チェックボックスがオンにされている場合、このフラグを追加すると、ロギングが次のように行われます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 0 = オフ</li> <li>・ 1 = エラー</li> <li>・ 2 = 警告</li> <li>・ 3 = 情報</li> <li>・ 4 = 詳細</li> </ul> <p>[ログ有効]チェックボックスがオンにされているがこのフラグは追加されていないときは、ロギングはレベル4（詳細）に設定されている場合と同じように処理されます。</p>

## 管理レジストリの設定

以下の設定は、Outlookプラグインの管理設定を定義します。

表12 [HKLM¥Software¥Hewlett-Packard¥Outlook PlugIn]設定

レジストリキー	説明
AdminMode=False	マシンが管理モードにあることを示します。デフォルトはFalseです。Trueに設定すると、ユーザー（管理者を含む）は設定を変更できなくなります。エンドユーザーが設定を変更できないようにする場合にのみ、Trueを設定してください。
Version=X.XXXX	プラグインのバージョン。変更しないでください。
LogFilePath=	ディスクに対する特定の診断情報を記録するようにプラグインに指示する完全修飾パス名です。ユーザーが設定できます。



# 索引

## A

- Archive Engine
  - デフォルト, 25
- Archive Gateway
  - Exchangeドメインへの参加, 39
- Archive Requestファイル, 139
  - 「情報記述ファイル」を参照。
  - filespecタグ, 141
  - headerタグ, 139

## C

- [Capture Email in TNEF]
  - デフォルト, 27
- CASサーバー
  - 設定、Selective Archiving, 48
- Citrixサーバー, 110, 111, 126
- Compliance Archiving
  - Exchange Serverの設定, 29
  - アーカイブされる項目, 29
  - イベント, 31
  - イベントステータス, 86
  - イベントのコピー, 34
  - イベントの削除, 34
  - イベントの作成, 32
  - イベントの実行, 35
  - イベントの編集, 32
  - 概要, 14, 29
  - デフォルト, 27
  - メールボックスストアでの有効化, 30

## D

- [Default Routing Address(es)]
  - デフォルト, 27
- Delete Synchronization
  - デフォルト, 28
- DiskSpaceBufferエラー, 126
- DLDファイルタイプ, 115, 126
- DNSレコード, 39

## E

- EAsE VIP, 39
- EAsE Archive Engineコンソール, 21

- EAsEソフトウェア
  - 起動, 21
  - 操作, 22
- ENDRメールボックス, 42
- EnsureOwnerReceipt, 125
- Excel, 132, 133, 135
- Exchange項目のインデックス作成
  - タイプ, 129
- Exchangeサーバー認証情報の設定, 23
- Exchangeドメイン、Archive Gatewayの参加, 39

## F

- FileSpecタグ、PST Import Manager, 140

## H

- HPAEServiceAccount, 17
- HTML書式, 130

## I

- IAP Webインターフェイス, 101
  - 定義, 102
  - メッセージのエクスポート, 101
- IAP認証情報の設定, 23
- IAPレポジトリへのメッセージの割り当て, 125

## L

- [Launch Manager Log Verbosity]
  - デフォルト, 27

## M

- Maintenance
  - デフォルト, 28
- Microsoft Officeアプリケーション, 132, 133, 135
- Microsoft Word, 132, 133, 135
- MIMEコンテンツタイプのインデックス作成, 130
- MXレコード, 39

## O

- Outlook Integrated Archive Search, 103

## Outlookプラグインのレジストリ設定

- IAP取得, 145
- アーカイブキャッシュ, 143
- 管理, 147
- 検索およびエクスポート, 145

## Outlookプラグイン, 101

- Citrixサーバー, 110
- PSTエクスポートユーティリティ, 111
- [アーカイブオプション]タブ, 103
- アーカイブキャッシュ, 105
- インストール, 102
- 管理モード, 105
- 言語の変更, 109
- ホスト情報の設定, 104
- レジストリ設定, 143
- ロギング, 105

## Outlookプラグインのレジストリ設定

- Citrixサーバー, 110
- 言語の変更, 109
- 手動による作成, 109
- デフォルト設定, 108

## OWA 2007

- フォルダを開くときのエラー, 123

## OWA 2007のフォルダを開くときのエラー, 123

## OWA Extension, 101

- asp configファイル, 120
- ASPタイムアウト, 121
- 下書きフォルダ内の一時コピー, 118
- OWAでのtombstone化されたメール項目の表示, 119
- Web configファイル, 119
- システム要件, 117
- 複数のIAPシステム, 118
- 複数のメールストア, 117
- ブラウザの機能, 121
- マルチユーザーのサポート, 121

## P

### Policy Engine

- [Actions]タブ, 67
- [Conditions]タブ, 65
- [Folders]タブ, 59
- [Information Stores]タブ, 57
- [Messages]タブ, 64
- [Schedule]タブ, 68
- [Selection]タブ, 60

## Policy Engineのメールボックス処理の停止, 125

## PowerPoint, 132, 133, 135

## PST Import Manager

- Archive Requestファイルの例, 141
- FileSpecタグ, 140
- PST Import Monitor, 98
- アーカイブ認証情報の設定, 92
- インストール, 91, 92
- インポート, 91
- インポート記述ファイルの作成, 95
- ウイルス対策プログラムとの競合, 91
- 概要, 15

## PST Import Monitor, 98

## PSTエクスポートユーティリティ, 101, 102

## PSTファイル

- IAPへのインポート, 91

## S

### Selective Archiving

- Auto Searchのセットアップ, 52
- CASサーバーの設定, 48
- アーカイブされる項目, 47
- イベントステータス, 86
- イベントのコピー, 71
- イベントの削除, 71
- イベントの作成, 54
- イベントの編集, 69
- インフォメーションストアのセットアップ, 48
- エンドユーザー削除, 77
- 概要, 14, 47
- ジャーナルメールボックスの除外, 52
- デフォルト, 27
- ルールの編集, 56
- ローカルサービス処理設定の編集, 48

## Selective Archiving中に処理されないフォルダ, 125

## Smart Cell, 126

## SMTPプレミアムジャーナリング, 37

- Archive Gatewayの設定, 39
- ENDRメールボックス, 42
- Exchangeサーバーの設定, 39
- 概要, 14, 37
- ジャーナリングイベントの作成, 42
- ステータスの監視, 88
- ハブトランスポートジャーナルルール, 42
- メール連絡先レコードの作成, 41

## T

### TNEF, 25, 140

### tombstone, 73

### Tombstone Maintenance

- Tombstone Folderの同期, 73
- イベント, 73
- デフォルト, 28
- フォルダの取得, 74

## Tombstone Maintenanceイベント, 119

## W

Word, 132, 133, 135

## あ

アーカイブイベント

[Advanced]タブ, 34

[Configuration]タブ, 33

[IAP Domain]タブ, 34

[Schedule]タブ, 33

アーカイブキャッシュ, 101

システムトレイのステータスアイコン, 108

定義, 105

アーカイブ検索, 103

アーカイブサービス, 23

アーカイブサービスアカウント

アクセスの指定, 23

作成, 17

アーカイブされないメッセージ, 125

有効にされないEnsureOwnerReceipt, 125

## い

インストール

Outlookプラグイン, 102

PST Import Manager, 91

インストールガイド, 9

## う

ウイルス対策プログラム

PST Import Manager, 91

## え

エクスポート

エラー, 115

検索結果, 111

メッセージ, 102, 111

エクスポートエラー, 126

エンドユーザー削除, 77

エンドユーザーアプリケーション

概要, 15

## か

確認

Exchangeへのアクセス, 23

IAPへのアクセス, 23

監視

Archive Engineのステータス, 86

SMTPプレミアムジャーナリングのステータス,

88

アラート, 85

システムリソース, 86

概要, 13

## き

巨大な添付ファイル, 122

## く

クォータスレッショルド

処理データの選択, 62

スレッショルドの定義, 60

メッセージの追加と除外, 64

メッセージリストの順序, 64

グローバル設定ファイル, 125

## け

検索結果

エクスポート, 111

## こ

コンソール, 21

コンテンツタイプのインデックス作成, 130

## さ

参考資料, 9

## し

システム要件, 17

OWA Extension, 117

PST Import Manager, 91

取得できない電子メールの添付ファイルの変更,  
125

シングルサインオン, 102

ジャーナルメールボックス、作成, 30

重複メッセージ, 123

## て

添付ファイル

tombstoneが設定されたメッセージ内のプロキ  
シ, 56, 70

変更, 125

デフォルト

Compliance Archiving, 27

Delete Synchronization, 28

General, 27

Maintenance, 28

Selective Archiving, 27

Tombstone Maintenance, 28

設定, 25

## と

ドキュメントのインデックス作成, 129  
Microsoft Office, 130  
ドロップキャップ, 130

## に

認証情報、アーカイブ, 23

## は

配布リスト, 125  
ハッシュ  
    コンピューター処理, 123  
    メッセージの重複, 123  
ハブトランスポート, 39  
    ジャーナルルールの作成, 42  
    設定, 40  
バッチエクスポートエラー, 126

## ひ

表記上の規則  
    本文中の記号, 10  
表記上の規則, 10

## ふ

フォルダの取得, 81, 97, 111, 140  
    Duplicate Manager, 84  
    PST Import Manager, 84  
    Selective Archivingイベント, 83  
    Synchronize Deleted Itemsイベント, 83  
    Tombstone Maintenanceイベント, 74, 83  
フォルダ情報のインデックス作成, 81  
    有効化, 82

## ほ

本文中の記号, 10

## め

メール連絡先レコード, 41  
メッセージのエクスポート  
    エラー, 126

## ゆ

ユーザーガイド, 9

## よ

要件  
    PST Import Manager, 91

## れ

レジストリ設定  
Outlookプラグイン, 108